

<所内資料>

第11回全国マスジド（モスク）代表者会議

「ムスリムが生きた「平成」の時代

—遺産・継承・融合・断絶・競合—

January, 2020

早稲田大学人間科学学術院アジア社会論研究室

Research Office for Asian Studies, Faculty of Human Sciences, Waseda University

早稲田大学アジア・ムスリム研究所

Institute of Asian Muslim Studies, Waseda University

## 目次

|   |    |
|---|----|
| 目次.....                                   | 2  |
| 序.....                                    | 3  |
| プログラム .....                               | 5  |
| 編者 .....                                  | 7  |
| 会議運営者・協力者 .....                           | 7  |
| 編集協力者.....                                | 7  |
| 関連研究助成プロジェクト一覧 .....                      | 7  |
| 主な会議出席者 .....                             | 8  |
| 議事録 .....                                 | 9  |
| 第1部  日本のイスラームの遺産とその継承 .....               | 9  |
| 第2部  日本のイスラームの将来構想.....                   | 40 |
| 第3部  グループ・ディスカッション(グループワークを含む)と全体討論 ..... | 84 |

## 序

本報告書は、2019年2月10日に早稲田大学（早稲田キャンパス）で開催された第11回「全国マスジド（モスク）代表者会議—平成の時代を生きたムスリム」の会議録である。本会議は、2009年に「全国モスク代表者会議」として始まり、2012年に名称を「全国マスジド（モスク）代表者会議」と変更して、継続して開催してきたが、第11回をもって、一旦、区切りをつけることとなった。従って、本報告書が、「全国モスク代表者会議」として始まった会議の最後の報告書となる。2009年2月11日に第1回を開催しており、10年間にわたって継続してきたが、滞日ムスリムのマスジド代表者や関係者の方々をはじめ、多くの支援者や参加者の方々に支えられて、恙なく継続できたことは幸いであった。また毎年開催する本会議の運営に携わっていただいた多くの方々にも、御礼申し上げます。ここでは、11年間の歩みを振り返ってみたい。

2009年に開始した「全国モスク代表者会議」は、全国のモスクやイスラーム団体を束ねる中央組織が形成されていない我が国において、滞日ムスリムやモスク同士の交流等をはかる機会の提供や、調査研究の情報収集のために、企画したものであり、中立的な立場にある早稲田大学が呼びかけ役となり、会議を開催することにした。

2009年2月11日に、第1回全国モスク代表者会議「日本のムスリム・コミュニティを語る」を開催した。その100年前の1909年2月には、日本のイスラーム社会草創期に大きな足跡を印したアブドルレシト・イブラヒムが大隈重信と会談した記録があり、ちょうど100年目という節目の年に、日本のモスクやイスラーム団体の代表者が一堂に会して、各地の現状や課題が議論の俎上にのぼった。当時、滞日ムスリム人口は約11万人（筆者推計）、モスクも50カ所以上開設され、ムスリム・コミュニティのプレゼンスが高まっていた。それに呼応するように、滞日ムスリムにとっては、子ども教育・墓地建設・日本社会との関係などの課題があり、それらを巡る議論が行われた。

これまでの各回のテーマは、以下の通りである。議事録は、第1回から第7回までについては、以下のウェブサイトで公開している。また第8回以降も準備が整い次第、公開する予定である（[早稲田大学滞日ムスリム調査プロジェクト](#)で検索下さい。URLは更新中）。

- 第1回 日本のムスリム・コミュニティを語る （2009年）
- 第2回 日本におけるムスリム・ネットワークと日本人ムスリム （2010年）
- 第3回 日韓ムスリム・コミュニティの現状と展望 （2011年）
- 第4回 東日本大震災と被災者支援活動 （2012年）
- 第5回 日本のムスリム、食を語る （2013年）
- 第6回 地域コミュニティとマスジドの将来像 （2014年）

- 第7回 ヤング・ムスリムの将来設計 学ぶ・はたらく・生きる (2015年)
- 第8回 文化の翻訳を考える (有識者会議) (2016年)
- 第9回 多文化共生とムスリム・コミュニティ (有識者会議) (2017年)
- 第10回 日本のムスリム・コミュニティを問い直す (2018年)

なお、上記の会議の他に、ヤングムスリムを主体とする会議も、以下のとおり、2回開催した。こちらは、非公開の会議であったが、議事録は公開を予定している。

第1回 全国マスジド(モスク)代表者会議・次世代部会 (2018年2月)

「―若者世代とイスラム、日本―」

第2回 全国マスジド(モスク)代表者会議・次世代部会 (2018年9月)

「ヤングムスリムとムスリム・コミュニティ：ヤングムスリムの居場所から考える」

これまで参加していただいた主要な各地のモスクやイスラーム団体は、以下の通りである。札幌モスク、仙台モスク(書面参加)、大塚モスク、御徒町モスク、インドネシア東京モスク、横浜モスク、戸田モスク、八潮モスク、イスラミック・センター・ジャパン、日本ムスリム協会、富山モスク、金沢モスク、名古屋モスク、東広島モスク、徳島モスク、新居浜モスク、福岡モスク、熊本モスク、別府モスク、鹿児島モスクなど。この他、若者世代のムスリムに加えて、ムスリマの会(女性イスラーム教徒の会)やイスラーム研究団体などの代表者等にも個人として参加いただいた。

さて、第11回の会議では、モスク代表者や関係者やその他のイスラム団体の関係者の方々に加えて、若者世代のムスリムの方々にも、ご参加いただき、多世代間の議論が行われた。具体的には、第1部では、「日本のイスラームの遺産とその継承」と題して、現在のムスリム・コミュニティを担っている中高年世代のモスク代表者の報告を受けて、議論を行った。第2部では、「日本のイスラームの将来構想」と題して、ヤングムスリムの生活と意識に関する調査報告の後に、世代間の活発な議論が展開された。第3部では、新たな試みとして、グループワークを利用した、ディスカッションと全体討論を実施した。詳細については、以下の議事録を参照されたい。

第11回を含め、これまでの会議開催にあたっては、滞日ムスリムの親世代の方々、若者世代の方々をはじめ多くの人たちから多大なご協力をいただいた。改めて、これら沢山の皆様に厚く御礼申し上げ、これまでのご協力について御礼申し上げる次第である。

2020年1月

店田 廣文

## プログラム

### 第11回

『全国マスジド（モスク）代表者会議

—ムスリムが生きた「平成」の時代—『遺産・継承・融合・断絶・競合—』

日時：2019年2月10日（日）10:30~17:00

於：早稲田大学・早稲田キャンパス（地下鉄東西線早稲田駅より徒歩5分）

26号館11階 1102教室（通称：大隈記念タワービル）

早稲田キャンパス内地図：<https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>

<https://www.waseda.jp/top/assets/uploads/2014/08/75fbe93c96f198b17f2f294320b48990.pdf>

主催：早稲田大学多民族・多世代社会研究所

早稲田大学イスラーム地域研究機構

早稲田大学アジア・ムスリム研究所

### スケジュール：

10:30-10:35 開会の挨拶 早稲田大学多民族・多世代社会研究所長 店田廣文

10:35-10:40 趣旨説明 早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員 岡井宏文

10:40-12:10 第1部 日本のイスラームの遺産とその継承

12:10-13:30 昼食休憩（サラート）

13:30-15:00 第2部 日本のイスラームの将来構想

15:00-15:30 休憩と礼拝（サラート）

15:30-16:50 第3部 パネル・ディスカッション（グループワークを予定）

16:50-17:00 閉会の挨拶 早稲田大学アジア・ムスリム研究所長 小島 宏

司会：早稲田大学多民族・多世代社会研究所長 店田廣文

早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員 岡井宏文

早稲田大学大学院人間科学研究科 クレシ愛民

### 参加予定者

マスジド関係者 および ヤングムスリムの皆さん

礼拝室：26号館11階 1101/1103教室

PROGRAM (tentative)

The 11th Meeting of Representatives of Masjids in Japan

” Muslim Communities in the “Heisei “ period of Japan ”

Date : February 10th (Sun.) 2019 10:30-17:00

Venue: Waseda University, Waseda Campus, No. 1102 Room, Bldg. #26

Campus Map <https://www.waseda.jp/top/en/access>

<https://www.waseda.jp/top/assets/uploads/2014/08/75fbe93c96f198b17f2f294320b48990.pdf>

Organizers:

Institute of Multi-ethnic and Multi-generational Societies, Waseda University

Organization for Islamic Area Studies, Waseda University

Institute for Asian Muslim Studies, Waseda University

Time Schedule:

10:30-10:35 Opening Remarks

Hirofumi Tanada, WU Institute of Multi-ethnic and Multi-generational Societies

10:35-10:40 Concept of the Meeting

Hirofumi Okai, WU Advanced Research Center for Human Sciences

10:40-12:10 Part 1. Legacy of Islam in Japan and its succession

12:10-13:30 Lunch (Salat)

13:30-15:00 Part 2. Future Plan of Islam in Japan

15:00-15:30 Break/Salat (Salat)

15:30-16:50 Part 3. Panel Discussion + Group Work

16:50-17:00 Closing Remarks

Hiroshi Kojima, WU Institute for Asian Muslim Studies

Chair: Hirofumi Tanada, WU Institute of Multi-ethnic and Multi-generational Societies

Hirofumi Okai, WU Advanced Research Center for Human Sciences

Amin Kureshi, WU Graduate Student, Dept. of Human Sciences

Participants:

Representatives of Masjids and Young Muslims and others

ROOM for Salat : Room No. 1101/1103, Bldg. 26

## 編者

(所属は 2019 年 2 月現在)

店田 廣文 早稲田大学人間科学学術院・教授

岡井 宏文 早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員

小野 亮介 早稲田大学人間科学学術院・助手

## 会議運営者・協力者

(所属は 2019 年 2 月現在)

店田 廣文 早稲田大学人間科学学術院・教授

長谷部圭彦 早稲田大学イスラーム地域研究機構・次席研究員

岡井 宏文 早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員

小野 亮介 早稲田大学人間科学学術院・助手

クレシ愛民 早稲田大学大学院人間科学研究科・修士課程

## 編集協力者

(所属は 2019 年 2 月現在)

クレシ愛民 早稲田大学大学院人間科学研究科・修士課程

## 関連研究助成プロジェクト一覧

本会議および本報告書は、以下の研究助成による研究成果の一部である。

- ・ 「人間文化研究機構 (NIHU) プログラム イスラーム地域研究」 (早稲田大学拠点) 研究  
代表者: 桜井 啓子
- ・ 平成30～32 度科学研究費補助金基盤研究 (C) ・ 課題番号18K01976 「滞日ムスリム・コ  
ミュニティの地域社会活動と地方自治体の多文化共生政策の課題」

研究代表者: 店田 廣文

## 主な会議出席者

(順不同・一部敬称略、所属は2019年2月現在)

小島 宏 早稲田大学社会科学総合学院・教授

桜井 啓子 早稲田大学国際教養学院・教授

店田 廣文 早稲田大学人間科学学院・教授

岡井 宏文 早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員

長谷部 圭彦 早稲田大学イスラーム地域研究機構・次席研究員

小野 亮介 早稲田大学人間科学学院・助手

クレシ愛民 早稲田大学大学院人間科学研究科・修士課程

前野 直樹氏

永井 彰氏

ハールーン・クレイシ氏

クレシ・アブドルワハブ氏

佐藤 裕一氏

早田 恭子氏

プリヤント・デディ氏

林 純子氏

シャキール氏

ナジール・アフマド氏

参田 佐利夢氏

バンダキア・イムティアズ氏

イブラヒーム大久保氏

ムハンマド・グフロン・ヤジッド氏

ダルウィーシュ奈菜氏

ホワイト・マティーン氏

最日伝シャハラ氏

角岡 姫奈氏

リーム・アハマド氏

付記：

議事録の作成にあたり、発言内容を損なわない範囲で、語句の追加や修正、余分な語句の削除や説明の追加などを行った。聞き取りの困難なところについては、一部削除したところもある。編者が説明として追加した部分や注記は、( ) で明示した。



## 議事録

### 第1部 日本のイスラームの遺産とその継承

店田 おはようございます。

一同 おはようございます。

店田 今、これからのプログラムとそれから、午前の部のレジュメを配っています。お手元にもしない方があったら、お手を挙げください。はい。それでは、開会のあいさつということで、私のほうで時間も迫ってきましたが、始めたいと思います。きょうは、昨日、雪の影響でちょっと心配したんですけども、ほぼ、全員の方が参加していただくことができました。ありがとうございます。きょうは、第11回目の全国マスジド、あるいはモスク代表者会議ということで、開催いたしますが、第1回のこと、ちょっとあらためて考えてみたいんですけども、基本的には、第1回から、これまで、同じ趣旨の下でやってきました。第1回では親世代の方を中心とした、ムスリムを中心に、いろいろ話し合っていたということ、それから、そのいろんな成果をですね、日本の社会に向けて発信するというのを、当時考えてこの会議を始めたというふうなところがあります。

第11回目になって、何が変わったかっていうと、単に親世代だけではなくて、今、この会場にもたくさんいらっしゃる、若い方がたが、この会議に参加していただけるようになった、あるいは参加していただくようにわれわれがいろんな形で、努力してきたというところもあるかもしれない。いずれにしても、この会議の趣旨はですね、単に、ムスリムのかたがたが、この場で、話し合う、いろんな議論をするということだけではなくて、日本社会に対して、いろんな発信をしていくということも、考えておりますので、その点についてもぜひ、いろいろ、心に留めていただいて、この会議に参加していただければというふうに思います。1回目と2回目、この第11回が大きく違うところは何しろ、ヤングの方がたくさん参加するようになったということなので、そこについての話もきょうの第1部、第2部、第3部で、いろんな形で反映されていくと思います。ぜひ、そういったところを、心に留めていただいて、参加していただければと思います。

じゃ、これから、早速、会議のほうに入っていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

一同 よろしく願いします。

店田 はい、プログラムのほうでは、この後、趣旨説明というのが、予定されていたんですけど、特にそれは必要ないかなということで、趣旨については、この招聘状について、招聘状お送りした方には。すいません。これ配って。招聘状お送りした方には、ちょっと、この会議の趣旨についてお伝えしてありますけれども、取りあえず、今回の、大きなテーマとしては、これまでの日本のイスラム社会が築いてきた遺産、それを、どのように継承していくのか、あるいはその遺産ということに対して、どのような形で向き合っていくのかという、そういうことを、今回は議論したいというのが大きなテーマです。遺産を継承するのか、あるいは、継承しないのかという、そういう話も含めてですね、いろいろ、日本のイスラムのこれまでとこれからについて、話をさせていただきたいというのが今回の会議の趣旨であります。

というふうなことが、趣旨説明でお話しするつもりだったんですけども、特に時間を取ってまでということではなく、する必要はないだろうということで、私のほうで、代わりに、簡単に、趣旨を、伝えさせていただきました。はい。ということで、始めていきたいんですが、午前の部は、これからですね。基調報告という形で、名古屋モスク、名古屋イスラミックセンターというのが、正式名称に今、なっておりますけれども、名古屋イスラミックセンターの代表である、クレシさんに、15分から20分ぐらい、パワーポイントを使ってお話をさせていただきます。それを受けて、今、この前の席にお座りのかたがたを中心にして、いろいろ議論をしていきたいと思っておりますので、準備ができましたら始めたいと思いますけども、どうですか、準備のほうは。

岡井 もうちょっと。

店田 もうちょっと、待ってくださいということなので、じゃ、クレシさん、言葉でお話、何か、そうだ、ごめんなさい。ちょっと待ってください。自己紹介やりましょうか。はい。じゃ、この場に今座っているかたがたを中心にして、ちょっと自己紹介をお願いしたいと思います、単純な自己紹介だと面白くないので、何か一つ皆さん、必ず面白いこと。

一同 ハハハハハ。

店田 アピールしたいことを言ってくださいということで、例えば、私は早稲田。あ、私の名前、まだ言ってなかったですが、早稲田大学の店田ともうします。人間科学部で教員をやっております。そうですね。最近考えていることは、定年後の夫婦生活について、ということをやっと考えております。好きな食べ物は、こういう場ですけれども、本当はトンカツが好きなんですけど。

一同 ハハハハ。

店田 カレーということにしておきます。そんなところです。じゃ、こちらから、永井さんからお願いします。

永井 アッサラームアライクムワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

一同 ワアライクムッサラームワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

永井 永井彰ともうします。あの、1970年にインドネシアにおいてムスリムになったんですけども、そのときに、インドネシア的な名前でもアリフィンという名前をイスラム名を付けようかって言っていたら、立ち会っていた、年寄りたちが「モハammad付けるか」ということを言われたんで、「はい」と言っちゃったんですね。ですから、私は、モハammad・アリフィンともうしまして、海外から来たムスリムの方は日本語の名前言ったってなかなか覚えてくれない。どうするっていうと、モハammad・アリフィンっていうんだと、こう耳になじみがあるんでしょうね。大体アリフィンで通用しております。それで、面白い話なんですけども、何が面白いのかな。

一同 へへへへへ。

永井 特になんかいいんですけども、あ、どこから来たかっていうのを言ったかな。日本イスラム文化センターという宗教法人からまいりました。通称、大塚マスジドということで、知られていると思います。そこでですね、私の特徴的なことを申し上げますと、金曜日の、集団礼拝のフトバっていうのがございますけども、それをですね、2005年に定年退職して日本に定着するようになってですね、大塚マスジドと関わりができて、それでそのときにフトバというのはアラビア語でやっていますと、ただし、パキスタンの人が多いので、ウルドゥーをやっていますと、それから、その他の国の人もたくさんいるんで、英語も解説していますと、ということでですね、永井さん、日本語でやりませんかかっていうことでね、翻訳やりませんかかっていうことで、私は、アラビア語できません、英語ならちょっとは分かるんですけども、永井プラス辞書ということでですね、英語は何とかできる。しゃべることはできなくても、翻訳ならできるわけです。時間かかってね。ということで引き受けまして、2005年から今までずっと金曜日ごとに、翻訳を英語の原稿もらって、翻訳して、それを本番のですね、アラビア語の前に日本語、英語、ウルドゥー語という順番で解説があるわけなんですけども、日本語の部分を担当して、皆さんの前で発表しております。

ただ病気になったりですね、ウムラ行ったり、ハッジ行ったりいろいろありまして、その都度ですね、短期間お休みはしましたけども、アルハムドゥリッラー、今まで、続けていられます。ということで、面白くもない話ですけども次、バトンタッチいたします。

リーム ウフフフフ。

シャキール ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム。

店田 あ、すいません。ちょ、ちょっと。

シャキール はい。

店田 えっと、だいぶ長くなったので。

一同 ハハハハハ。

永井 面白い話大変よ、ハハハハハ。

店田 1人30秒くらいで。一応準備はできたので。終わりましたので。入りたいと思いません。

シャキール 僕は東京都から来たシャキールモハメドなんですけど、一応、近くにある、八潮っていう所の、宗教法人ジャミアマスジドヤシオの一応、代表として、きょうは参加させていただくような形になったんですけども、僕も定年のお話ししようかなと思ったんですけども、わわれれは定年後、それは年金もらえるかどうかって、まだ、これから話ししようと思って、ちょっと時間の制限がありまして、次の方にバトンタッチをしようと思って、へへ、一応自己紹介は以上なんで、すいません。よろしく願いいたします。

前野 アッサラームアライクムワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

一同 ワアライクムッサラームワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

前野 前野直樹です。娘はハマルともうします。1994年に、イスラムに改宗、仏教から改宗しました。本日は私自身のボランティアの所属は日本ムスリム協会の理事かつ、イマームの1人なんですけれども、同時に、きょうは一応、イスラミックサークルジャパンという所の代表に許可をいただきまして、行徳マスジドの代表として参加させていただいています。面白い話、2000年から2006年にダマスカス留学に、イスラム学を学ぶべく留学して、戻ってまいりました。それから10年ほど、日本の社会のですね、現実理解を得てからは、伝教の道に専念したいと思っていたんですけども、早いもので、サラリーマンにな

って13年になります。いわゆるリーマンシャイフ。シャイフというのはイスラムの導師のことを言いますが目指しながら頑張っているんですけども、その道は果てしなく長いんですが。そうなる前に。あ。

一同 アハハハハハ。

前野 リーマンシャイフの前に、お弁当シェフになっちゃいましたっていう話をしたかった。

一同 ハハハハハ。

クレシ アッサラームアライクムワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

一同 ワアライクムッサラームワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

クレシ イスラミックセンター名古屋から来ました、クレシともうします。日本に1981年に来て、いろんなボランティアの仕事をやりながら、自分の仕事しながら、頑張ってきました。これからも頑張っていきたいと思っています。アッサラームアライクム。

一同 ワアライクムッサラーム。

佐藤 アッサラームアライクムワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

一同 ワアライクムッサラームワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

佐藤 佐藤裕一ともうします。私はきょうは日本ムスリム協会代表ということで参加させていただいたんですけども、実は私よりもずっと古参のかたがたがいらっしゃって、私よりも最適というか、適切な方がいらっしゃってるんですけども、なぜか私が、代表という形で参加させていただきます。日本ムスリム協会のほうは、前野さんもそうなんですが、ほぼ、ボランティアのような形で理事として参加させていただいているんですけども、職場のほうは、サウジアラビア大使館附属アラブイスラム学院という所で、アラブとかアラブ文化、イスラム文化などを教えたりしております。自分自身サウジアラビアに、10年近く、イスラム留学をしておりました。面白い話なんですけど、面白くないかもしれないんですけど、私、きょうの会議がですね、2時からだと思い込んでいて。

一同 アハハハハハハ。

佐藤 ついさっきですね、10 時頃に、このプログラムをあらためて見直したときに、あ、10 時半じゃねえかって言って、急いでタクシーで自宅から来ました。幸いにも自宅が大塚なので、4、5 分の遅刻で来れたんですけども、ご迷惑をお掛けしてすみませんでした。よろしくをお願いします。

永井 面白い。

林純子 アッサラームアライクム。

一同 ワアライクムッサラーム。

林純子 林純子です。私、所属とかないんですけど、きょうなぜか呼んでいただいて、本業というか、仕事は弁護士をしています。最近、東京弁護士会の外国人の権利に関する委員会という委員会がありまして、そこで副委員長とかをしています。全然普段、ムスリムの方と関わることがあんまりないので、ちょっときょうは楽しみにしています。よろしくをお願いします。

早田 アッサラームアライクムワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

一同 ワアライクムッサラームワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

早田 早田恭子ともうします。一応、日本ムスリム協会の理事の席を務めさせていただいていますが、本日は、なんか先週ぐらいに、今日は前野さんのご推薦でこちらの席を温めることになりまして、ただ、その際に、協会代表としては佐藤理事がいらっしゃいますし、団体としてというのはちょっとなかなか荷が重いので個人枠でってお願いしたら、それでいいということ、お許しをいただいていますので個人枠という参加で、林さんと同じ状況になります。面白い話をということで、面白い話ってつらつら考えてみますと、子どもの頃、寝る前に父に何か話をしてくれってせがんだ記憶があります。大体、昔話、してくれるんですけど、父が疲れているときに面白い話してって言うと、大体昔、昔、ある所に白い犬がいました。終わり。

一同 ハハハハハ。

早田 ということで面白い話でした。失礼いたしました。フフ。

デディ アッサラームアライクムワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

一同 ワアライクムッサラームワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

デディ 私はデディ・エカ・プリヤント、ちょっと長いんですけどもデディと呼んでください。インドネシアの出身です。2005年に日本に来日して、今、日本企業で働いています。私は在日インドネシヤムスリム協会、KMII ジャパンの代表と、あと、2年前にできたばかりの、インドネシア東京モスクの代表として参加させていただきます。よろしくお願ひします。時間があまりないので、バトンタッチします。

参田 ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム。アッサラームアライクムワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

一同 ワアライクムッサラームワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

参田 私は参田佐利夢ともうします。私は埼玉県八潮の宗教法人ジャミアマスジドヤシオのことでずっとやってきて、2003年から、2007年まで宗教の担当となって、宗教法人のことを許可のために頑張って、2007年には宗教法人はうちのモスクのほうが下りて、それから2007年から10年間、2017年まで、満期まで、その八潮モスクの代表としてやってきた。それから、今は、一般社団法人ジャパン・ムスリム・アクセスとして日本の中ではハラールのことでいろんな不安のこと、間違いのことあるから、それを直さなきゃいけないからということで、今はJMA、ジャパン・ムスリム・アクセスの所で日本の中ではハラールのことをもっとプロモートして、間違いないように頑張って、そのミッションのことを頑張っていることを頑張っています。よろしくお願ひします。でも、面白い話というのは。

一同 ハハハ。

参田 今の面白い話は、すぐ時間終わった。フフ。

店田 はい、時間切れでした。すいません。はい、それでは準備ができたようですので、クレシさんのほうから、ご発表のほうをお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。パワーポイントを使ひますので、そちらのほうをご覧ください。

クレシ アッサラームアライクムワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

一同 ワアライクムッサラームワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

クレシ ラッビシュラフリーサドリーワヤッスィルリーアムリーワフルルウクダタンミン  
リサーニーヤフカウリーカウリー。アッラフμμαサッリアラームハンマドワアラアーリ  
ムハンマド。カマーサッライタアライーブラーヒーム。ワアラアーリイブラーヒーム。  
インナカハミードウンマジード。アッラフμμαバーリクアラームハンマドワアラアーリ  
ムハンマド。カマーバーラクタアライーブラーヒーム。ワアラアーリイブラーヒーム。  
インナカハミードウンマジード。みなさん、アッサラームアライクムワラフマトウッラー  
ヒワバラカートッフ。

一同 ワアライクムッサラームワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

クレシ 私は名古屋から来まして、クレシともうします。僕の名前は長いので、クレシと  
呼んでください。東京でもクレシという名前有名なので、取りあえずクレシと呼んでくだ  
さい。これから話しますが、改宗者の話しの中には、僕は、コンバートムスリムのことは  
改宗者と言いますので、それから、ヤングムスリムのことは二世と言いますので、イン  
シャーアッラー。これからですね、名古屋モスクの歴史についてしゃべります、インシャ  
ーアッラー。名古屋モスク、1988年に、名古屋にイスラミックアソシエーションオブ名古  
屋作りまして、これは作ったのは、名古屋大学の学生たち集まったグループだったんです  
ね。そのグループと一緒に、名古屋大学の近くにアパート借りて、そこで礼拝し  
ながら、イスラミックアソシエーションオブ名古屋を1988年に作りました。それから、そ  
れ、10年かかって、また1998年に名古屋モスクを作ったんですね。名古屋を作る間にか  
なり時間が、10年かかっているんですが、いろんなアパート借りながら、2年、2年、2  
年借りながら、どんどん借りていって、迷惑皆さんに、日本人に掛けて、本当に申し訳な  
かったんですが、取りあえず、10年後でやっと名古屋モスクがつくって、見たとおりで、  
サウジアラビアから、偉い人たちが、来れなかったところを僕たちはそれを始めました。は  
い。2008年もう1個新しいモスク作りまして、それは岐阜モスクの写真見たとおりなんで  
すが、名古屋モスクが作ったときに、場所が広く欲しかったんだけど、本当は作りたか  
ったのは名古屋大学の近くに作りたかったんだけど、土地が高くて、それから場所がな  
くて、なかなか作れなかったんですね。どんどん、1個駅離れて、また1個駅離れて、ま  
た、1個駅離れて、離れて名古屋のここまで来ちゃったんです。

一同 エへへへへ。

クレシ そこから、名古屋大学から来る学生たちもすごく困ってて。とりあえず困ること  
よりも、私たちは自分の、自分の地面が欲しかったんです。自分が立ってしゃべる場所欲  
しかったんです。自分が日本人を、お客さんを迎える場所欲しかったので、10年かかりま



した。あと、岐阜モスク、後で話します。はい。これが名古屋マスジドは今何やっているかということですね、皆さんと同じように、金曜礼拝ですね。それから、1日の5回礼拝ですね。それから、イード、それから入信と、ニカーとそれからハッジの紹介とかですね。そこには、写真見たときには、イマームが金曜礼拝の話しているんですが、下はいろんな断食、断食のときにはイフタールパーティー、それから、子どものためのいろんなバーベキューとかいろんなことをやっています。子どもたち、すごい喜ぶように、できるだけモスクに足運ぶようにやっているんで、それから、真ん中写真あるのが、何千人がこれ見るともう、名古屋モスクに入るわけじゃないんですよ。これを僕は1988年から、自分がイードの礼拝は絶対、モスクにしないことを決めたんですよ。どうしてかということ、やっぱり、モスクのいない所でしゃべること、モスクの中でしゃべっちゃいけないこと、いろいろあるからね。それは、次にできるためには、スナナであることはきちんと守っていきたくたんですよ。それで、今までは去年までアルハムドゥリッラー、2000人以上集まっているんですよ。

これを、毎回、頼むためには、いろんなホール借りるためには、ホールのほうからすごく文句言われた。あなたたちは、これやっている、あれやっている、これやっている。もういつも謝りながら、謝りながら、ずっとそれ続けてやっています。これから、インシャーアッラー、できたら名古屋で、これは大きな場所今買うつもりでいるんですが、そこで3日間のお祭りをこれからやりたいと考えてます。はい。アクティビティは、名古屋モスク何をやっているかということ、本当に、僕は他のモスクはどうやっているか分からないけども、活動としてはですね、例えば、教会に行ったり、いろんな、呼んだりして、すごくやっているんですよ。これは。本当に、この場所、僕も2回、3回、このチャーチに行っているんですが、皆さんが本当に来てくれるの、心配しながら声掛けてくるんですよ。もちろん、行きますよ、何も問題ないんですよと言いながら。目の前に立って、そこ、パワーポイント使いながら、チャーチの中にイスラムの紹介しているんですね。これが別にすごいことというより、私たちが関係が良くしたくて、自分が偉そうにしゃべるんじゃなくて、とにかく関係を良くしない限りに何もならない。それだけじゃなくて、ブディズムの所も私たちは行っています。呼んでいます。すごく、仲が本当に、イスラムだけ、ムスリムだけ離れているんじゃなくて、自分が遠くから見るとはなくて、私たちがあなたたちの仲間だよ。同じ人だよということですね。はい。

Increasing Interest in Islam。これはですね、今、見たとおりで、2002年に、下から見ると、2014年に200人が名古屋モスクに、来ていますね。そのまま数字見ていくと上がっていきますよね。でも、2018年なんか、305人になってしまっているんです。これはニーズが減ったんじゃなくて、私たちはもう、ここで、名古屋で、本当にいろんなたくさん人たちに話してる所で、皆さんから呼ばれるようになって、この数が今、1600人ですよ。これは。本当は数は、2018年、1600人ですよ、これは。本当は数は、これ合わせると今まで2014年から2018年までに、5年間の間に大体、3000人以上の前に、向かい合っちゃ

べっているんですね。ただ、それを一方的にしゃべるんじゃなくて、向かい合ってしゃべったり、すごく相手のことを考え、尊敬しながら、しゃべることはとっても大事なことです。

それから、学生たちはたくさんモスクに来て、それ写真見たとおりで分かると思うんですが、本当に一人一人の来た人たちの、ゲストとして思いながら、向かい合って、すごく丁寧に丁寧にやっているんですね。だから、そこは絶対に迷惑ならないように、絶対困らないように、こうした写真見ると分かるんですが、女性たちもたくさん来て、本当にこの女性が、本当にこれ、分からない所でモスク来ても私たち、絶対、怒りません。間違いが起きてても何もしません。たとえば、1人、グループが来たときに、1人女性が来て、私たち、礼拝するラインありますよね。スツジャーダの上に。そこに歩きながら、なんかもう、半分踊ってたんですよ。僕たち何も言わない。いいです、やってください。とりあえず私たちは、それ以上は、止めるわけはいかないから、とにかく自由にさせています。

Issues of Masjids in Japan. これはとても大事なことです。本当に皆さんが、僕は偉そうにしゃべることは許してください。偉そうにしゃべるわけじゃなくて、僕も本当に、今まで勉強中なんです。年はもう 61 になっているんだけど、まだまだ学生なんです。皆さんから、僕の分からないことあったら、どんどん教えてください。言っちゃいけないことあったらそこも直してください、インシャーアッラー。はい。

Foreign born Muslim cannot do everything. これはね、本当に私たち、分からなきやいけないんですよ。外国人ムスリムの限界があるんですよ。もう、本当に限界あるんですよ。僕どうして、こんな強くここ言っているかという、私たちは、日本人、モスクに来て、話に来ました。そこで話に行って私たち、言葉足りなくて、答えられないんですね。答えられないところで、日本人はすごい優しいなので、自分たちは、分かりました、はい、もうよく分かります。それでも帰るんです。

でも外行けば、私何も分からなかった。もっと聞きたかったなっていうこと言いながら行く人たちは結構いるんですね。それは後、その人 2 回目来たときには僕たち確認するんですよ。この間来たときにどうなったって、それを確認しながら自分のこと直していくんですね。はい。それから、外国人ムスリムは本当に日本に来て、自分の力で、自分の考え方で、自分の子どもに教えているんですね。教え方。教え方は非常に、何ていうの、もう、攻撃、もう本当にすごく強いです。子どもたちには言うのは、私たちは簡単なんだけど、礼拝しなさい、コーラン読みなさい、モスク来なさい、簡単なんです、それは。でも、その子どもが自分がやっていないこと、自分の周りの子どもたち、やっていない。自分、1 歩外出るとこれやっていない。じゃ、自分がなんでこうなんだろう。なんでこうしなきやいけないの。説明はしない。なんでしなきやいけない礼拝、なんでコーラン読みなきやいけない。説明はしない。ただ、やれ、やれ、やれ、やれ、一方的なんですね。そうすると結果は、何があるかという、みんなは子どもたち、イスラムから離れます。それだけじゃなくて、最近非常に増えている数は、僕たちは、ヤングムスリムに対してはものすごい今頑張って、日本中に回っているんです。もち

ろん、それはボランティアなんだけれども、日本中に回って、もう本当に子どもたちは、イスラムから離れることしか考えていない。結構少ない家族が、自分の子どもすごくいい子に育てる家族もいます。でもその例が少ないですね。でも、その多くの数はやっぱり、圧力がすごいですね、子どもには。子どもに圧力かけちゃいけない。子ども、子どもに見なきゃいけない。子どもの心にならなきゃいけない、子どもが、私たちが言った後に子どもにどういうふうに影響出るのか、それ、私たちは自分の子どもの代わりになって、子どもを自分の所に置いて考えると、分かるんですね。

でも、そこまで考えない。どうして考えないかというと、私たちも自分の子どものときに同じことやられているから。同じこと、私たちもされてるんです、親から。そうすると、私たち、それしか知らない。そうすると、もう間違っていないんですよ、それは、もちろん。コーラン読みなさい。私たちももちろん、読まなきゃいけない。礼拝しなさい、もちろん、しなきゃいけない。でも、そのやり方、言い方、しゃべり方、そこで日本人らしくしなきゃいけないことは、それ、私たちはできない。これは限界です。言葉のバリアーが大きいんです。そうすると、こういう問題が起きた問題の後には、子どもも家族ももう逃げているんですよ。今、家族は、僕は先々週、こういう話があって、集まりあったんだけど、本当にそこで「ワハブさん、あなたはすごく頑張っているけど、これも何とかしてくれ」なんて言ってくるんですね。「僕は1人で動けません、できません。私たち、みんなと一緒に動きましょう」と言っても、親が「私は忙しいから」できないんですよ。「私は仕事をしなきゃいけない」。忙しいんですよ。子どもが先でしょ。子どもが先じゃなかったらどうするんだろう、これはそしたら。取りあえず、あと、もちろん、子どもは親から離れたら、イスラムから離れたら、家族から離れたら、もちろん、モスクからも離れるでしょう。そうしたら、私たちはその、手の届かない所に行っちゃってしまうんですね、はい。

What Japanese converts and young Muslims can do. 私たちどうやって助けることができるのか。はい。Talk to non-Muslims, create a good image of Islam. これは、私たちは話すことは限界、先言ったように、限界あるんです。もう本当にできない。それから、そうすると、この私たちサポートできるのが、日本人をもっと前に、前に出して、日本人にもっと心大きくして、しゃべる力を与えて、しゃべっても大丈夫よ、間違いないから、誰も何も言わないから、私たちサポートのために周りに座ります。今名古屋でやっていることは、日本人しゃべると必ず周りに座って、サポートのために、心大きくしてもうとにかくしゃべってください。日本人ができるのが、もうこの日本人に向かって話すのが日本人しかできないこと。日本人の心に響くことは、外国人には本当にできないんです。皆さんは多分、そこが分かると思うんですが、できない。日本人の前に出さなきゃいけない言葉。日本人はそれ前出せば、イスラムのイメージも良くなる。イスラムのイメージが良くなればムスリムももちろん数が増える。ムスリム数が増えれば私たちはもっと豊かになる。ですね。そこから、Support to other converts, understand feeling, Japanese language. だから、ここは、この後は、新しいムスリム、Convert Muslim がですね。自分たちはこれ、アンダースタンディング、自分、分かっているから、どこ

までをきょうしゃべればいい。あと残りはいつしゃべればいい。これは、日本人は全部、警戒するんですよ、これは。相手の顔見ながら。私たちにはできない。私たち一方的に始まったら、もう最後までしゅーっと新幹線みたいに行って、で、戻ってきます。

一同 フフ。

クレシ こういうことは、私たちは、教えてもらっていないから。

(発言者不明) そのとおり。

クレシ 分かんないです、それは。やっていることは、僕は正しいと思う。でも、日本にそれは合っていない。それは合わせることは、私たちじゃなくて、もう世代変えてしなきゃいけないことなんですね。それから Support young Muslim。ヤングムスリムのことも、本当にもう私、今名古屋でやって、それは後で私もう一回しゃべるんだけど、サポートしなきゃいけない。彼たちをもう、どっかでそれを悪くさせないようにしなきゃいけない。悪くさせるため、私たちがさせてるんです。ビッグ・バリア。今、私たちはボーンムスリム、私たちはイスラムと日本人の間にもう壁作ってしまっているんです、これは。日本人が入りにくくなってしまっている。私たちからも入りにくくなっちゃったんですよ。はい。

How can we work for our converts and young Muslims。どうやって私たち一緒にやることできるの。まず、ここはですね、とっても注目して、多分、時間が過ぎると、ごめんなさい。ちょっと許してくださいね。Beautiful Masjid from outside, from inside。きれいな建物、美しい建物、外からも中からも。これは、ひとつエグザンプル出しますから。僕は、10年間、さっき話したように、10年間の後に、名古屋モスク作ったんですよ。土地買えなくて、どんどん名古屋大学から離れて離れて、遠くまで行って、1個、場所、角の、すごい良い土地、四角の土地、あったんですよ。その土地を買いたくてもうしょうがなかったんですよ。それを話どんどん進んでいって、後で日本人を連れて行ったんですよ。で、いろんな店があった所だったから。で、まず、「え、ここに行くの」って言われたんです。ここってどこ。同じ場所、日本じゃないって、そうやって私、すごい心配になってしまって、結局行ったんですよ。で、土地見せたら、え、ここにモスク造るの。この場所って分かるの、どういう場所なのか。え、分かる、普通の街じゃないの。ここは、このキラキラしている店分かるかな。ソーブランドだったんですよ。僕は分からないんです、それは。日本人そこ連れて行かなかったら、たぶんモスクはあのソーブランドの場所に造っているんですよ、今は。それだけじゃなくて、私たちがその場所、その地域のことを考えるだけじゃなくて、日本人は分かっているんですよ、どの地域に入ればいいの。この場所、私たち入っちゃいけない。この場所、行っちゃいけない。日本人分かるんですよ。私たちが自分一人で全部を頑張ること、できるんです、それやっているんですよ。でも、その中に日本人の考え方入れていないから、日本人の意見は入れていない

から、自分たち一方的に動いてもうなんでも造ってしまうんですね。

まず場所を選ぶこと。それから、どういう場所、日本人が入りやすい場所がないか、それ選ぶこと。それから、建物が外からもきれいな建物。中からもきれいな建物ですね。それから、beautiful people。ここに書いたのは、最後に don' t attack。攻撃しない。ビューティフルになるのは、本当にこれを誰でもできるんですよ。誰でもできる。でも、そこを(##### 00:36:06)には本当に進まないんですね。何がそこ進まないっていう、例えば、モスクに日本人が来ました。日本人、若い、日本の、ヤング・ムスリムが来ました。礼拝している。間違ったら、みんなの前に、これは、これやっちゃ駄目よ、これやっちゃ駄目よ。

例えばですね、ちょっと前なんだけど、もういっぱいこういう話あるんだけどね。1 人女性が来て、ウドゥーしてる時にですね、清めるときにですね、耳が後ろまで洗わなかったみたいなんです。そこでみんな女性がいる前に、ちょっとこれ、耳洗わなかったら、あんた礼拝できないから、もう一回やっておいでっていうこと言われたんですね。言い方あるでしょ。引っ張って持って行って、連れて行って、ここで。じゃなかったら、後でもいいじゃん、別に。今言わなくて、みんなの前に言わなくてもいいじゃん。後で別に連れて行って、そこで言えばいいじゃない。でも、そこで言ってしまった結果は、女性は素晴らしく頑張った女性だったんですよ、若い子。本当にみんなのことよく考えて、よくやる子だったんですよ。来なくなった。結果はただ、耳洗わなかっただけ。別にいいよ、言っているんですよ、それは。でも言うタイミングがあるでしょ。それは考えなきゃいけない。それまでに、言わなきゃ、ハディースがあるからね。ちゃんと間違えたら、そのとき教えなきゃあなたは、その責任抱えることになるから、これは取るんです、やっているんですね。こういうことじゃない。これだけじゃなくて、本当に私、今、名古屋モスクで何やっているかという、新しいムスリムが来たときには、ヤングムスリム来たときには、そこにいる、ずっと来ているお母さんたち、男性の所は、男性たち、もう近くに座るんですよ。何か言ったら、すぐその人の手つかまえて、はいちょっと外行きましょう。話すんです。「言っちゃ駄目ですよ」。はっきり、言いたかったら、別に後で言えばいいから。もう、モスクの中にいる以上はあなた言っちゃ駄目だからね。言うなら、私に言ってください。僕たち言います。僕たちから言います。こういうふうにはちゃんと順番決めなかったら、私たちは美しい心は持たない、ならないんです。

日本人みたいに本当になるためには、まず場所の選ぶこと、まずモスクをきれいにすること、まずちゃんと考えること、これをしていかなかったら、日本人と仲良く、長く続けることはできないですね。はい。それから、Special programs, お茶会、交流会ですね。いろんなモスクにですね、あの、もう 19 分になってしまったんで、もうちょっと時間ください、ごめんなさい。お茶会、僕たちは名古屋モスクでは勉強会言いません。お茶会やっているんです。これは今じゃなくて、1988 年から僕のうち、モスクないときには、お茶会、うちでやっていたんです。それがお茶会にやると言うと、みんなが話すじゃないですか。みんな、フリーに話しているからね。そこでお互いに、エクステンジ、言葉、エクステンジもできるし、理解もエクステンジできるし、それをしながら、いつの間にか、イスラムの話も入っていくんですよ。な

んか、質問あったときには、あ、イスラムはこうだよってできるんで、それは。わざわざ、勉強会にイスラム勉強しましょういうことをしなくても、お茶会でいいじゃないの、それは。もうみんな来やすいしなきゃいけないから、みんながプレッシャーかけるわけじゃないから、みんながもっと理解できるために、その場所をちょっときれいに使いながら、やらなきゃいけないんですね。もっと優しく、優しい心を持たなきゃいけないですね。それから、今、Japanese language、example Khutbah ですね。今アルハムドゥリッラー、名古屋モスクで私たちイマームが、アラブの、エジプトのイマームがいるんですが、また、1年前から、僕はもうすごいプレッシャーかけて、イマームもうあなたは日本語の勉強しなきゃいけないから。とにかく日本語しゃべりなさい。日本語でしゃべってください。取りあえずアラビア語があって、日本語のフトバがあって、それから英語なんですね。僕は今まで自分パキスタン人なのに、1回もウルドゥーのフトバやったことないんです。ウルドゥーでしゃべれない。自分の、パキスタンの洋服着ない。私はパキスタン人の前にムスリムなんです。みんなと一緒になんですよ、それは。自分の言葉で言えばいいので、僕はパキスタン人。まず洋服で見せることは、僕は、僕自身が、他の人どうか分からないけども、僕自身はそういうよくないこととっていたから、しませんでした。それから、岐阜マシドではですね、もう金曜礼拝のフトバ、100パーセント、日本語なんです。何も、もう本当に日本語でどんどん自分のこと変えていっているんですね。マシドはですね、私たち、foreigner Muslim、外国人のためだけじゃない、日本人のムスリムも、子ども、新しいムスリムも、のためのモスクにしましょう、インシャーアッラー。はい。

Some examples from Masjid Nagoya でインシャーアッラー、少し話します。例えば、この建物は、大きな建物見えるんですが、4階の、オープニング・セレモニーのときにも、この写真はですね、そのオープニング・セレモニーで、新聞の人たちが撮った写真なんですよ。これミナレットが見えますよね、上が。日本で作れないんです、これは。中の、いろんな飾り、日本で作れない、僕は全部それを決まって、行って、いろんな国、外国で作ってもらったものを日本に輸入して、お金かけてここまでして作ったんです。とにかくモスクのイメージ出したかったから、とにかくもうきれいな、きれいなモスクを、外から見てほしかったからやったんですね。それから、中にももちろん、いつもきれいにしています。絶対汚したらいけない。子ども汚しているけども、子どものこと怒りません。汚したら自分のお金で直してください。

それから、今、隣、とりあえず建物一個買って、この裏の建物買って、あと角のもの買えば、新しいモスクが造ることになるんですね。新しい造るモスク、モスク造る前には、いろんなモスクに僕からお願いなんです。僕からお願いですね。モスクに入る玄関、考えてください。皆さんが靴脱いで、外に靴脱いでそのまま入ってくるんですよ。げた箱が並んでいるのに、しないんです、置かないんです。日本の学校行けば、みんなちゃんと玄関に置いて、ちゃんと靴脱いで行くじゃないですか。そこにモスクでは、本当にこのことをやめさせてください。日本人は絶対入りません。汚い靴、汚いものに、その靴の上に靴、靴の上に靴になっているんですよ、皆さん出るときに何も考えないの。悪いと思っていな

い。自分がやってきているから自分の国で。そこで靴探して、自分は自分の靴履いて行くんです。僕たちは名古屋モスクでは玄関の所、200人ぐらいの靴入る場所、作っているんですよ。自分たち何やっているかという、そういう人、何回注意しても、しないんですよ。私たちは自分たちのグループが決めてあって、見るんですよ。脱いだら、その靴持って、中に入れる。僕自身もそうしています。いっつもそれを見て、靴あったら、外あったら、外にもあるんですよ。必ず、げた箱に入れます。それだけじゃなくて、トイレはすごく汚いじゃないですか。私たちのモスクでは。本当に臭いがすごくて、もう日本人は入らないあるんですよ、これは。僕は自分の手でトイレ洗っているんですよ。こういうことがないように、日本人に来て、私たちもきれいな。イスラムってきれいな宗教じゃないんですか。ね、そこをもっと私たちが出すべきだと思うんです、これは。もっとムスリム考えてやれば、簡単なことなんです、これはね。はい、次です。

ここから、あの岐阜モスクの形も変わっていると思うんですが、素晴らしく、僕は本当に時間いっぱいかけて、いろんな国回って、写真いっぱい撮って、今何千も写真はあるんですよ、今は。このデザインが作ったのが、とにかく日本人は外から見て、中に行ってみたい。この建物あるのが、本当に1回行ってみてください。まわりももう畑があって裏の方にはグリーン山があって、外からみんな写真撮るとすごいきれいなんです、これ。日本人来たときにやっぱり行ってみたい、中入ってみたい、玄関も女性用と男性用の分けています。どうしてかという、私たちの国ではこういうふうに行っているから、女性をリスペクトしなきゃいけない。女性を大事にしなきゃいけない。自分の玄関があって、そのまま入って、中に入って上がっていくんですね。はい。

ここは、私たちは、Speech, reminder about being beautiful people。そうですね。さっき自分全部喋ってしまったなこれ同じこと。取りあえず私たちは、そうですね、イードの礼拝のときはですね、いろんなことがあって、僕はちょっと誰か、ヤングムスリム立たせないといけないと思って、2000人前に、ヤングムスリム立てたんです。そのヤング・ムスリムは、フトバの前の、何ていうの、説明と、自分の意見、自分のことも含めて言いいよということ言ったんですよ、フリーにしたんですよ。それしたところで、この話を、そのヤングムスリムの聞いた後に、本当にいろんな、もう会場から拍手が終わった後に、すごい素晴らしくて、僕はすごい、感動したんですね。それで、その後に終わった後に、いろんな日本人のムスリムから来て、「ワハブさんありがとう、日本で私たちも自分たちのこと言えるんだ、私たちもしゃべれるんだ、私たちの言うこと、誰か分かるんだ。私の心、誰か知っているの、私言わないけども、でも分かってくれてありがとう」ということを言う。

すごく、本当に泣きました。そのときに。こんな僕たちは迷惑かけているの、みんなに、日本人のムスリムには。本当にここまでやっていいのか、私たちは。それを考え始めて、次の日に、ムスリムからもノンムスリムからもいろんな意見が集まった後には、僕は2017年立って、みんなの前に今まであったことを説明しました。これから私たちは直していき

ます。あれから僕たちがもう自分のことどんどん直していきます。はい。

これ、前しゃべったことなんですが、activities arranged by foreign Muslims、オレンジ色なんです。で、グリーンの色はジャパニーズ・ムスリムがやっていること。見てください。僕が言っていることは、ジャパニーズ・ムスリムがやっていることは私たちよりどのくらい多いのか。これ色で分かると思うんですね。私たちが、僕が言うより、これ分かると思うんですが、もう本当に日本人に前立たしましょう。日本のヤングムスリムは今、困っている、すごい困っている。きれいな建物、きれいな心、きれいなことをやっぱりしなきゃいけないから、そこをやっぱりやっていきましょう。本当にお互いのこと考えながら、やっぱり自分の心からきれいにした者は、みんなに同じものを見せましょう、インシャーアッラー。はい。それだけじゃなくてですね、ヤングムスリムたちは自分、ヤングムスリム同士で集めて、そこでみんな話しているんですよ。一枚目の写真がですね。あとはこういうバーベキュー会やったり、花見やったり、あと、この岐阜モスクの中の写真だけでも、空手の練習をしたり、これもいろいろ頑張っているんですね。あと、それだけじゃなくて、メディアの前に子ども出してるんです、私たちが。自分から言ったんじゃない、子どもたちが僕はしゃべりたい。やっているんですよ。それをやっぱりするためには、僕たちがもうその場をもうだいぶ昔からずっと、作ってるんですよ。やっつと、ここまでできて、その後に子どもたち、これ集まって、みんなビジター来たとき、こういうふうには話している。それから、これ、この写真は、よく見てください。交流会やっているんですよ。交流会って何かっていうと、ムスリムとノンムスリムが子どもたちが向かいで座っているんですね。ムスリムが質問したことはノンムスリムが答える。ノンムスリムがした質問がムスリムが答える。子どもたちをすくい上げた後、結果はこれなったんですよ。

昔、始まったときには、ムスリム側の子どもたち声かけても誰も手挙げなかったの、今はみんな手が挙げるんですよ。答えます。私たちも選ばなきゃいけないから、先生を立てて、じゃ、あなたしゃべって、じゃ、あなたしゃべって、じゃ、あなたしゃべってってこうなるんですよ。本当に変わってしまっているんですよ。ヤング・ムスリムのサポート、私たちしなかったら、自分から出てこないんですね。はい。名古屋モスクのfacebookや、名古屋モスクのこういうものをよく見てください。本当に1回、時間ないと思うんです、みんな時間ないと思うんですけど、1回、目通してみてください。みんなの感想、日本人のノンムスリムの感想見てください。素晴らしく感想あるんですよ。同じふうにできたら皆さん、やってください。よろしくお願ひします。すいません、遅くなって、9分も遅れてしまった。ごめんなさい。先生、許してあげてください。アッサラームアライクム。

一同 ハハハ（拍手）。

店田 はい、ありがとうございます。時間は別に大丈夫です。気にされなくて。はい。それでは、今のご発表を受けてですね、発表についての質問という形ではなくて、この発



表で触発されたということに関して、皆様のご意見と言いますか、あるいはご自分のマ  
スジドを舞台にしたことでも構わないですし、マスジドの代表でない方はこのご発表を聞  
かれてですね、どのような形のコメントでもかまいませんので、質問というよりも、ご自  
分の立場で、日本のイスラムのこれまでのことに関わるようなことをちょっと、時間を 1  
分。1分じゃ短いので、ま、2、3分ぐらいですね。あんまり長いとまた、時間の制限があ  
りますので、2、3分でお話をしていただけると。特に、こちらから指名はしませんので、  
挙手していただいて、ご発言お願いしたいと。いかがでしょうか。

デディ ジャ。

店田 ジャ、デディさんですね。

デディ はい、ただシェアだけなんですけれども。私は同感ですね。同じこと考えて、特  
に国際結婚の方ですね。やっぱり子どもに対してちゃんと、教育というか、やられていな  
い方も結構多いんで、たとえば、アッサラームアライクムとあいさつしたら、え、返事が  
分からないということもたくさんあります。だから、かなり、やっぱり国際結婚している  
方が、やっぱりもっと注目すべきです。われわれはKMII ジャパンが、今、イスラムゼミ  
という活動がありまして、主に若い者が、その実行委員をやっていただいて、特にこうい  
った国際結婚している方に対して、ちゃんと基礎を、イスラムの基礎ですね。学べる機会  
を作ってますね、また、最近ヤングムスリムでもですね、その経験をですね、話す場もト  
ークコーナーっていう、セッションも設けていまして、やはりさっきヤングムスリムの活  
用とか、あと、そういったイスラムの教えは特に、新しいイスラムになった人に対して、  
やっぱりこういった基礎からですね、イスラムの勉強を学べる機会が非常に重要となっ  
てきました。私もアミンさんとも一緒にですね、活動していただいて、最近、2年間たっ  
たんですけども、今後も、イスラムゼミについてちょっと注目していきたいなと思います、  
KMII ジャパンとして。はい、以上です。

店田 ありがとうございます。インドネシアの。

デディ 活動の例。

店田 のほうでは、そういった活動もやっていらっしゃるということですね。他にはいか  
がでしょうか。はい。じゃ、参田さん、お願いします。

参田 ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム。私も日本に 31 年前、日本来て。日本来た  
ときに、やっぱり礼拝の場所がなくて、食べ物がハラールのものがなくて、自分でもどう

するか分からなくて、あのときに礼拝する場所も遠くて、1 個しかなかったから、わざわざ遠い所まで行ったりとかして。それから、みんないろいろな国からムスリムの人たちが来て、いろんな所にみんな固まって、そこでモスクがないから礼拝の場所を作りましょうって言って、みんな、自分の、日本の全国の中で頑張っ、て、モスクはいっぱいできた。礼拝の場所もたくさんある。私の 31 年で、日本で生きていて見てきて、その中には、埼玉県八潮のほうで、2003 年から、2007 年まで 4 年間をかけて、宗教法人の許可のために担当となって頑張っていて、それで、アルハムドゥリッラー、私たちのモスクは 2007 年には宗教法人は取りました。宗教法人を取って、それから 10 年間で満期になって、代表としてやってきたんですけど、その中に私の経験としては日本の中ではイスラムのこととムスリムのこと、どうやって変わってきたとか、私たちが来たときには礼拝の場所がない、食べ物がない、それで、どうすればいいのか、そのこと考えていたんですけど、今までモスクの中では、コーランの勉強会とか、Preaching of Islam とか、イスラム何とか、そういうことやってきたんですけど、結局、今の 30 年過ぎて、日本の中で私の経験の中で考えると、一番大事なのは、もう、モスクはたくさんできています。モスクはいっぱいある。モスクの中で礼拝する、ムスリムの人たちのことを言わなきゃいけない。出ない人、来ない人、モスクに。その人たちもたくさんの人たち呼んで、その人たちみんな集まって、みんなの力で何かイスラムのこと、日本でもっと平和の宗教だと言って、証明するためにみんな頑張っ、てやらなきゃいけない。

その次は、われわれの子どもも、20 歳になっている子ども、20 何歳になっている子どももいるんですけど、その人たちのためにはもう、勉強のこと、今はもう遅いけど、これから小さい子どももいる人もいるんですけど、もう子どものこと将来的に考えて、もうモスクはいっぱいあるんですけど、イスラムの学校とか、イスラムの教える所とか考えて、子どもたちに、そういうために頑張らなくちゃいけない。その他には大事なのは、一番大事になるのはイスラムのことの中では。

(ベルの音)

参田 いいですか。ちょっと一つだけ。

アミン 大丈夫です、大丈夫です。

林純子 フフフフ。

参田 すいません。大事なことから。

アミン はい。申し訳ないです。はい。

参田 ちょっと、もうちょっと時間ください。すいません。申し訳ない。日本の中では、ハラールの問題が一番大変で、われわれが、ムスリムの人、住んでいる人たち、日本の中では困っていて、でも大体、日本で住んでいる人たちはどれがハラールなのか、ハラームなのか、どの食べ物に、どんな ingredients 入っているか。それを見て分かるんだけど、インバウンドで来た人たち、遊びで来た人たち、まだ日本に住んでいない、新しく来た人たちのほうで、いろいろ困るので、そのことでは私たち、頑張って、ムスリム・フレンドリーとか、ね、食べ物の中では、いろんな間違いがあり過ぎることで、もうそこも頑張っていて、みんなのそういう間違いなところ直しながら、ハラールのことを教えながら、ちゃんときちんと食べているところをハラールで間違いがない、間違いありませんって、そういうことも考えながらハラールを日本で広げるためにモスクなんかからも、団体なんかでも、クレシさんみたいのが、頑張っている人たちの、そっちも考えてもらって、それをやらなくちゃいけないから、そこも考えて、今一番大事だから、そのことを私も今をやっております。どうもよろしくお願ひします。

店田 はい、ありがとうございます。ハラールのことももちろん重要なんですけど、今回それを中心にしてという話には、取りあえずしないつもりなので、ハラールについては取りあえず、今のお話でちょっととどめておいていただいて、それ以外の点で、クレシさんのお話、それから先ほどのデディさんのお話も含めてご発言があればお願ひしたいと思ひますけど、いかがでしょうか。はい。じゃ、シャキールさん。

シャキール アウーズビッラーヒミナッシャイターニッラジーム。ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム。先ほどですね、クレシさんのお話でいろいろ、話聞いて、結構、勉強なところがあるんですけども、非常に僕は今、ちょっと八潮モスクで代表なっただけなんですけども、いろいろですね、これから学んでいかななくちゃいけないことはあるんですけども、取りあえず僕がね、一番今までやっぱりわれわれがやらなくちゃいけないことを、やっぱりクレシさんのさっき話であったように、まだ日本人と一緒にどうやって深く関わりたい、っていうか、要は日本人とただ、目的としては要はイスラム広げるじゃなくて、目的でイスラムどういう宗教なのか、それを目的にして、これから日本人と一緒に仲良くして、うちも9年なんですけども、八潮モスクのほうでですね、三大宗教に対して、三大信仰シンポジウムという会議を開きまして、その中にですね、日本で代表するお坊さんの方たちとか、あと、キリスト教の教会の神父さんが、うちのモスクに一応呼んでいただいて、うちらでイスラム教でやっていること、まず、ほら、一応、来てもらわないと、ただ言っただけでは相手は分からない。ただ、実験としてわれわれがどういうふうにしてやって、日本でどういうのやっていっているのかどうかって、ほらね、やっぱり実現してもらいたくて、ちょっと来ていただいて、そうですね、大体15人から、お坊さんも一応

来ていただいたんですけども、あとさっき神父さんも来ていただいて、それと一緒に日本人の方たち、大体15人ぐらいきていただいたんですよ。

それで、お互いで、さっきクレシさんのお話でも出たように、イスラムどうのこうのの話じゃなくて、目的はあくまでもそうなんですけども、ただ、まずお互い、コミュニケーション取るのは大事。まず先なんです。うまくコミュニケーション取りながら、いわば、きょうはこの場でもやっぱりほらね、あくまでほら、ムスリムが1日5回礼拝しなくちゃいけないとか、そういう話、直接言うんじゃないで、こういう会を開いて、それで座って、いろんな話しながら、そういう話出てもいいんですけど、それと同じように、やっぱりお互いでコミュニケーション取るのはどういうふうにすればいいかってまず来ていただいて、今度ですね、そのシンポジウム参加も一応声掛けられて、自分の八潮で一応、ホールを借りて、向こうもうちのほうのイマームさんと、うちも一応参加したんですけども、それを今度ぜひ、うちのほうにも来てくださいと。お互いでうまいコミュニケーション取りながら、周りの子どもたちとか、いろんな周りは、やっぱり、うちもほら、僕は足立区なんですけども、東京のほうに住んでいるんですけど。

(ベルの音)

シャキール フフ。すいませんけど、ちょっと、ちょっとだけ、今あんまり長くしないので。そういうのはまず、ほらね。お互い、コミュニケーションどうって取っていくのか、それの中から、挟まって、宗教の話出たりとか、お互いの宗教分かち合ったりとか、そうしなくちゃいけない。分かち合ったりしたりしたら、話は広がっていくなどってはいあるんですけど、これからそういう場を結構作っていくんで、僕はちょっと認定されたばかりなんですけども、これから、自分がそういう考えで、これから日本では、ムスリムのやっぱり、これから、いい社会作るように一応頑張っていきたいなと思ってはおります。よろしくお願いします。

店田 はい、ありがとうございます。ちょっと私のほうから質問ですけども、八潮では日本人ムスリムの方の、そういう、理事会とか、あるいは運営に関する参与というのはどの程度でしょうか。

シャキール うちでは今来ているのはですね、さっきも話が出たのに、やっぱりほら2世っていうか、日本人とパキスタンの方たちが結婚して、それから、生まれた方っていうか、あくまでイスラム教なんですけども、そういう子どもの会も一応、これから作っていく、なんかさっきも話のように、僕はまだ、1年足らずで、まだ、マスジドたちと深く関わりは持っていないんですけども、これから、お互いで、その町であと、子どもが今来ているんですけども、その子どもを含めて、周りの近所から、まだこれからなんですけども、作

っていききたいなと思っております。

店田 はい、分かりました。ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。ちょっと、この前の、前野さん、いいですか。お願いして。

前野 私が発言していいんですか。

店田 いえいえいえ。ごめんなさい。いや、あの時間を。

前野 時間。すいません、特に、私自身が愛知県出身で名古屋モスクで以前、勤めていたこともあるという、個人的なしがらみもあるので、できるだけ客観的になれるように務めながら考えていたんですけども、そのテーマというのは、大義名分と現実のギャップです。Please don't take it personally.

林純子 フフフフフ。

クレシ Don't worry!

前野 本当にあの。

クレシ 教えてください。

前野 名古屋モスクだけじゃないんですよ。例えば、名前言っちゃいますけど、大塚とか、さまざまな所で、だから、理論的にはものすごくありがたいことを言っていました。日本の改宗者としては、100 パーセント同意しますし、賛同しますし、ありがたいです、本当に。ジャザーカッターハイラン。ありがとうございます。さまざまところで日本人を前面に出したい、日本人改宗者を、ヤングムスリムを前面に出したいって言っていますけど、どこまで本当にやってくれていますかと。実際に活動も挙げてくれています。それを通して、マーシャアッラー、例えば、名古屋モスクの差別化、いわゆる他と比べて、今、その点では名古屋モスクが1番のわけですよ。そういった意味ではマーシャアッラーすごく、立派な業績を上げているわけですね。そういった、全部を差し引いて、日本のイスラム、これからのイスラムのために純粋に考えたときにどこまで本当にそのアピールどおりに実践されていますか。というのは、です。ここでそのバロメーターとして、考えていただきたいのは日本ムスリム協会です。

日本ムスリム協会の活動を皆さん、どれだけ例えば、サポートしてくれていますか。広めてくれていますか。私たちはムスリムである前に人間です。弱い人間です。なので、い

ろんなしがらみがあって、いろんなみんなが、自分が自分がついていう思いがあるので、自分たちの所が、自分たちの活動を前面に出したがるように、本当に、なんですか、いわばみこしに上げるべきところを上げられていない現実があるんじゃないかなと。今、日本で欠けているのは、いわば韓国のムスリムの現状とか、以前、比較しましたが、アンブレラの存在ですね。傘。私が日本ムスリム協会の理事だから言うんじゃないで、現実的に日本人を前面に出したときに、そのみこしに上がるべきは客観的になるべく立とうとしています。歴史的に考えても、客観的に捉えてもやっぱり日本ムスリム協会なんじゃないかなと。そういった意味で、皆さんどこまで活動を、広めようとしてくれますかと。そのバロメーターを基に大義名分と現実のギャップを押し量って見たら、どうなのかなという気持ちを持ちました。

店田 はい、ありがとうございます。今、名古屋モスクについてということでいろいろ、お話。ま、名古屋モスクだけではないですけども、いろんなモスクの活動についてということだったんですけども、例えば、ICOJ という立場で。じゃ、ICOJ ではどのような形で取り組もうとされているのかって、その辺をちょっとお話ししていただいたほうが。

前野 ICOJ としても頑張っています。皆さん、気持ちはあります。でも、例えば、私がメンバーになったの 2010 年です。それから 9 年がたちました。いまだに、内部批判したら、あきまへんけど。

店田 フフ。

前野 なんていうんですか、理事会のメンバーにはなっていません。それで十分だと思います。それが、現実を言い表すには。

店田 はい、分かりました。他の、今、日本ムスリム協会という名前が出たので、ちょっと佐藤さんのほうからご発言いただいてよろしいですか。すいません。

佐藤 私、きょうは日本ムスリム協会代表として来ていますので、あまり自分のことを、自分側のことをあまりダラダラ、ご託を述べるのはあまり気が進まないんですけど、日本、ヤングムスリムとか、日本人に、一般日本人、あるいは日本人のムスリム、改宗者向けに、ムスリム協会として、やっていることとしては、前野さん、ここにいらっしゃる、そもそも水谷先生、水谷理事が、始めたアクティビティがあるんですけど、男の子の会という、イラスム教徒の、国籍とか民族とか、大体ハーフの男の子が多いんですけど、大体年齢層としては小学校 3 年から中学校 3 年までを目安として、男の子の会という活動を。水谷先生、すいません、何年に始めたんでしたっけ。

水谷 いや、あんまり。

佐藤 あ、記憶にないです？フフフ。

水谷 あまり。

佐藤 ま、10年。

水谷 10年ぐらい前。

佐藤 10年ぐらいたっているかもしれませんが、まだ、継続してやっております。

岡井 あー、すごいですね。

佐藤 その回数とか規模を見ても、非常にバリエーションが富んできていて、講師として参加しているのは今のところ水谷先生は、ちょっとそこからは立ち退かれて、別の信仰を語る会という、これはやはり、一般の日本人、あるいはムスリムの日本人向けにされているイスラムの信仰についての会なんですけども、男の子の会については私と前野さんと、あと、坂田さんという、あと2、3名おりますけれども、自分の都合のいいときに、これも全てボランティアです。そうですね、1年で、20回近く、やっているかもしれないです。毎回の参加人数は、10名から、12~13名ぐらい、いくかもしれないです。そのときには保護者のかたがたで、子どもと一緒に参加される方もいらっしゃいます。その他にも、これは日本ムスリム協会、2016年に五反田に日本イスラム文化交流会館という新しい箱を手に入れたんですけども、それにあたって、毎週金曜日の礼拝は日本語で、イマームの、昔からその何ですかね、正式なイマームとしてはカシワ先生という方がいらっしゃるんですが、その人の他にも前野さんとか、私とか、約5名ぐらいのイマームが日本語で、イマームをして、なるべく日本語だけというわけではなくて、日本社会とか、日本の文化などを、そういったバックグラウンドを考慮に入れたようなテーマを選んで、その説教を行っている他、その他ですね、毎週平日月曜から、木曜日まで、これも、4人の若者が、若者というか、変ですね、私も入っているんで、あんまり若者とは言えないんですけども、ローテーションを組んで、そうですね、日本人の改宗者で、イスラム諸国でイスラムの勉強をある程度専門的に学んできた者たちが、イスラム何でしたっけ、ミニライブですか。Facebookの機能を使って、ライブ機能でマグリブあるいはイシャーの礼拝。季節によって違うんですけども、それもライブ発信すると同時に、礼拝の後に日本語でイスラムに関するスピーチをすると、そういった活動、恐らくこの中でもご存じじゃない方もいらっしゃるんじや

ないかなと思うんですが、本当に、日本人に対してイスラムの理解を深めてほしいとおっしゃるのであれば、そういったことを、自分の組織とか、そういったことは超えてですね、もちろん、私たちも他の組織で、名古屋モスクであれ、八潮モスクであれ、本当に日本人にとって有益なプログラムとか、そういったことがあれば、喜んでシェアして、日本におけるイスラムとムスリムという大義名分のために、共同するというか、すると思うんですけども、そういったライブとか、ネット発信しているようなことを、あるいは公開講座などもありますので、ぜひ、シェアしていただければ、これは私たちだけではなく、日本に住んでいるムスリムたちの本当に手柄というか、自分たちの、報酬にも関わっていることですし、大きな目的にかなっていることですので、そういったことでもご協力いただければと思います。

店田 ありがとうございます。いろんな活動が日本人、あるいは2世ということで、行われているということで、ただ、先ほど、前野さんからアンブレラの組織ということでありましたけど、この会議をやった、そもそもの目的の一つのいろんなモスクが日本中にあるわけですけれども、そういったものをこう、お互いにこうつないでいくと言いますか、結び付けていくというのも一つの目的であったわけですけれども、なかなか、実際には、今、100近いモスクがあっても、ここに参加していただけるのは本当に限られた数にしかならないので、まだ依然として、そういった全国の交流や結び付きというのは非常に弱いのかなというふうに、私は思っています。その中で、今のような活動をですね、ムスリム協会がやっていらっしゃる活動を、広く共有していくというか、そういうことも、できるような形にこれからなっていけば、もっとクレシさんがお話ししたようなことも、もっと活発に動いていくのかなと思うんですけども、あと、ちょっと、名古屋モスクの状況、名古屋イスラミックセンターですか、そちらの理事会のこともちょっと以前お聞きしたところによると、一応、理事会の中には日本人が3人。

クレシ 今、僕しゃべっていいですか。すいません。ちょっと。

店田 簡単に、はい、お願いします。

クレシ はい、簡単に。前野さん、ありがとうございます。本当にこうやって言ってくれとすごい助かるんですね。全然、気分悪いとかなりませんから。これは、全然問題ない。今までの理事会、私たちは5人いるんですね。5人の中にまず1人、日本人入れたんですよ。4人外国人、1人日本人。今は3人日本人、2人外人です。それより、それより聞いてください、たぶんびっくりかもしれないけども、3人日本人の中に2人女性なんですよ。どこのモスクで女性が代表になっているんですかね。日本人に、今、佐藤さんの話で出たけども、前野さんのでも出てたけど、差別化、名古屋モスクが一番にと言ってしまったん



だけど、多分、そうかもしれない、僕、分からない、それ。考えるのは自由に考えれば、それは問題ない。取りあえず、僕は、最終的には、もう理事は全部日本人にしたい。そうすると、この問題も言えることなくなるでしょう。だから、僕はもう日本人に本当に前向いて、出て、いろいろしゃべって、これからも支援していきたいと思っていますから、よろしくをお願いします。

店田 はい、ありがとうございます。今、女性のお話が出たので、林さんか早田さんにぜひ、個人の立場ということになりますけど、ご発言いただきたいと、いかがでしょう。

林純子 ごめんなさい。ちょっと今、女性の立場からっていうの、ちょっと思い付いていないんですけど、個人の立場から言わせていただくと、個人的にはすごく、モスクに集まる外国人の方たちに、ちょっとごめんなさい。今までのちょっと、流れちょっと変わっちゃうかもしれないんですけど、話が。モスクに集まる外国人の方たちに、もうちょっとこう教育って言ったらおこがましいですけど、なんかそういうことをしていただけないかなというのが正直あります。例えば、やっぱり弁護士として仕事をしていると、ムスリムの家庭内暴力とかものすごい多いんですよ。

前野 そうですか。

林純子 それで、家庭内暴力、別に日本人でもあるし、別にムスリムだからっていうことではもちろんないんですけど、でも、それをこうやってムスリムの特徴としてはイスラムでは許されているみたいな。おまえはイスラムのことをやらないから殴ってもいいんだみたいな、そういう態度のお父さんだったり、夫だったりっていうのがものすごい多いんですよ。それを、私から言ってもやっぱり、何ていうかこう、当然、聞いてくれるわけもないので、そういう人たちは。それはなんかやっぱりこうモスクのほうで、それはイスラムで許されていませんよみたいなのを、こう、お話ししていただけないかなというのが、常々思っています。やっぱり、そういうところとか、あとはですね、ちょっとこの間もお話したんですけど、改宗する、シャハーダを取るときに、日本人の方が新しく、ムスリムになる、シャハーダするっていうときに皆さん、喜んでビデオとか写真とか撮って、勝手に上げちゃうわけです。ネットに。あれ、本当に人のプライバシーの侵害甚だしくて、特に信仰なんてもうみんな心の奥底に隠しておいてもいいぐらい大事なもので、こうすごい人の何ていうんですかね、重要なプライバシーなんですよ。なのに、それを勝手に上げてしまう。それを多分、モスクの側でもコントロールできていないっていうか、多分、しようっていう意識が多分ないんだと思うので、そこは、勝手に写真撮らないでくださいとか、勝手に上げないでくださいみたいなのは、モスクの側が言ってもいいのかなとはすごく思っています。

何ですかね、やっぱりこう、やっぱり、なんですか、特にシャハーダ、普通するときでも、写真勝手に撮られて上げられたら多分、不快だと思うんですけど、特にシャハーダ取っているときって、シャハーダ取る決心をするって、すごい大変じゃないですか。だけど、それと、また、家族とか友達とかに言うってまた全然次元が違う話だと思ってて、それをこう本人の納得も、許可もなく、他の人がやってしまうというのは、ものすごい信用をなくすっていうか、やっぱりモスクの信用をなくすきっかけにはなるだろうなどはすごい思います。

早田 フフフ。

店田 早田さん、お願いいたします。

早田 あ、なんか、マイク回ってきたんです。そうですね、女性、今、先ほど第1部でお話しあったこととか、今まで皆さんとお話ししたことっていうよりは、今の林さんの話にちょっと考える部分があるんですけども、例えば、ムスリムがマイノリティーであるがゆえに、きちんと本来法的な部分をクリアしたりとか、ホスト社会の文化、慣習を理解すれば、ムスリムの側が実は悪い面を、割と、自分の自戒も含めてですけど、ムスリムであるがゆえにそういう弱い部分に、言い方悪いかもしれないですけど、被害者意識っていうんですかね、そういう部分になりがちな面があるかなと思うので、ホスト社会を学ぶ、あるいは自分にはどういう権利があって、かつ、相手にもどういう権利があって、自分にはどういう社会的義務があって、相手はどういう義務を果たそうとして、そういう権利を主張してくるのかっていうような、部分をもうちょっと、変な言い方ですけども、イスラム教徒としてっていうのはもちろんですけども、社会生活を営む人間として、この自分のいる社会の制度を知る、学ぶ、べきかなっていうのは思いますし、日本人にイスラムを知ってもらいたい。あるいは改宗者や、ヤング・ムスリムがイスラムから離れていかないようにしてほしいっていうのはすごく理解できますけれども、どこもかしこもきれいごとだらけっていう、意識もあります。

先ほど言ったように、林さんが言ったようなDVの問題とか、あと、あまりにも父権主義が強過ぎる家族、家庭内教育とか、その辺を誰かに訴えたいというときに、訴える先として、多分、モスクは頭に浮かばないと思うんですね。そこをただ、ムスリムがマイノリティーの国の参加組織なんかを、ふっと、例えばヨーロッパとか、アメリカとか、そういうそこそこムスリムのコミュニティーが大きいけれども、マイノリティーな所を思い浮かべれば、不条理な、何か例えば解雇をされたとかいうときに訴える先が、サポートしてくれるのがモスクだったり、参加組織だったりするわけで、そういう道筋がなかなか日本ではまだ日本人にイスラムのいいところを知ってもらいたいっていうことばかりで。いいんですけど、もうちょっとこう、同じ人間なので、悪いところもあるし、こういうマイナ

スな面もあるけれどもいいところもある、あなたたちと同じですよってという言い方でアピールしていくっていうのもありなのかなと思います。ちょっと長くなるかもしれないんですけど、インドネシア、私、相方、インドネシア人なんですけども、インドネシア人と結婚して改宗して、離婚して、もうモスクも知らないし、そういえば改宗したような気もするけれども、息子や娘はもう全然普通に日本人、日本人と再婚してっていうようなケースも山のようにありますから、日本のイスラムコミュニティとしてどこまでをムスリムとして考えているのか、例えば、ヨーロッパなんかだと、イスラム教徒としてやらなきゃいけない義務とか、あと、守らなければいけないルールを全部取っ払っているような人でも、ラマダンのときぐらいは何かいいことしようかなと思って、自分は断食しないけどご飯配りに来るとか、そういうのを日本のモスクは許容する度量があるかとか、というのをつつらと思ったりしました。以上です。

店田 はい。あ、じゃ、前野さん。

前野 すいません、もう時間もあれですので、最後によろしければ、足がかりとして、今後の提案をなんですけど、それこそ、日本人改宗者や入信者、あるいはヤングムスリムをこれから、大いにまた活用していただくために、各マスジド、各礼拝所で、ダルス、勉強会と言えば、イスラム関連の勉強会がほとんど、ばっかですね、基本的に。そういったところにむしろ、ムスリムのための日本社会教養講座といったテーマで改宗者を、特に、できれば、特に社会経験のある改宗者にスピーカーになってもらって、ダルスをしてはいかがでしょうか。勉強会をしたらいかがでしょうか。

クレシ 素晴らしい、素晴らしい。

参田 素晴らしい。

前野 よろしくお願ひします。そうであれば、ひょっとすると、改宗者の人はムスリムとしての知識はまだ足りないかもしれない。でも、日本社会の経験は豊かである人であるでしょうから、他のムスリムの同胞もきっと学べるが多々あるはずなんです。そうすることで、その人もムスリムとしての同胞間での自分の居場所を見つけることができるし、マスジドの関係もまた、つないでいくことができると思います。インシャーアッラー。

参田 インシャーアッラー。

店田 はい、ありがとうございます。新しい提案というか、そのような試みがどうかと

いうのはが前野さんからありました。今、大塚マスの永井さん、まだ、ご発言されて。いや、実は今まで話し聞いててね、いろんなことが例えば、女性の問題が、先ほどDVだとか、相談する先がモスクじゃないんじゃないかとか。そういうのがあったんですけど、そういう女性の問題も含めて、あるいは女性が活発に活動しているマスジドとして大塚はあると思うので、永井さん自身も日本人として理事として参加したりですし、そういういろんな、いわば、先進的な取り組みとか、何かこうやっていらっしゃるような気もしないでもないで、その辺をちょっと、大塚を例にしてお話しいただけるでしょうか。

永井 アッサラームアライクムワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

一同 ワアライクムッサラームワラフマトウッラーヒワバラカートッフ。

永井 それじゃ、日本イスラム文化センター、大塚マスの活動ぶりも含めてですね、今まで話した、話に出た問題、まず大塚マスジドでは、10数年前から幼稚園をやっております。それで、幼稚園をやっておってですね、はじめは生徒が足りなくて、やめようとかいろいろあったんですけども、これは幸いなことに自前の建物の中で教室を作っておりますから、部屋を借りるっていうお金は、出費はないわけですね。そうするっていうと、先生のお金、保母さんていいますか、それだけあれば済むということで、幼稚園ちゅうのは幸いなことに、時間数少ないんですね。少ないですから、パートで働いてくれる主にマレーシア、インドネシアの学生さん、それからお母さん、そういう人たちがパートでこうつなぎながら、回っていくということでやれたもんですから、割とその出費がかさばらないところで、経営ができていうことで、今現在は児童が20人ぐらいおるもんですから、はっきり申し上げてペイしております。ということで、これは幼稚園は一つ、継続的にですね、やっておって、それで、例えば、卒園式だとか、入園式なんかの、そういう行事があるわけですけども、こういうものをもし、仮に皆さん、ご覧いただければ、わー素晴らしいなということを感じていただけるし、私も内部の人間として素晴らしいことやっているんだなということ。ということは卒園者、そういう人たちが発表会をやっておりますね、そういうことで、行っているわけですね。それから、今度は学校作りたいうことで、これまた、とんでもないことを言い出す人がいてですね、とうとうやっちゃったんですね。それでですね、これはもう、場所はないですから、ていうのは、大塚っていうのは、建て替えをやるという懸案があつてですね、建て替え終わるまでは教室ないんですよ。ですから、借りてですね、それでやっているんですけども、要するに70名にならなければ、ペイしないっていうんですよ。ところが今現在、はじめは7名ぐらいで始めたのかな。4人かな。その次の年、7名ぐらいになって、今15名ぐらいおって、今度、新学期になると20何名って言っているんですけども、70名には到底及びませんから、これはペイしないんです。

しないんなら、どうするんですか。もう本当に、必死になって、皆さんに声掛けて、寄付集めて、それで何とかそれを穴埋めするというようなことでね、やっているわけですけども、こういうことで、イギリスのケンブリッジ方式という、なんか教育の方式があるそうなんですけども、そういうものを入れながら、イスラムも交えて学校運営を行っているということで、将来的には自前の建物ができてですね、その中に教室を置いて、それで全部やれるということになっちゃったんだけど、私はもうインシャーアッラーという徹底的な男なもんですから、どんどん続けちゃうじゃないかと。フフフ。いや、それです、そういうことで、頑張っただけで、これは何とか70名になるまで継続してやっただけかなきゃもういけないような状況いっちゃって、もう生徒はいますからね、もう2年、3年になって、上がっていくわけですよ、学年が。これでやめたいっていけないですね。ところが日本人はですね、イスラムの学校っていうのは実は、お花茶屋にもあるんです。それから、他にもどこかあるって聞いているんですけども、あ、あるある、あそこだ。東京ジャーミイの後ろ側に、友愛。

グフロン 友愛。

永井 ええ、友愛ってありますね。あそこでもやっているんですね。それぞれおのおのの特徴があるようで、なんか地域の人とかいうことで、なんか話によると、お花茶屋のほうは70人ぐらい生徒いるらしいんですね。それから、友愛はもっと少ないんでしょうけども、なんか、やっぱりどこも経営苦しいのかもしれないし、お花茶屋のほうは何かなっているんじゃないかなっていう気もするんですが、その辺の実態になると今度はモスクばかりじゃなく、学校のほうも早稲田大学で研究してくださるのかなということがあってもいいんですけども。それの他にいろんな活動、当然、マシドとしてやっているわけで、一番大きいのはあれじゃないでしょうか。コーランを読む、上手に読むための教室をね、もうこのずっと10何年続けているわけですけども、その中で、全国、コーラン朗唱の発表会というのをやっているわけですよ。これははじめ、大塚でやっていたんですけども、場所が狭いということで、今はイスラム学院を、場所を借りて、この5年間ぐらいかな、やっております。それで全国から、全国っていう名前付けられるだけの規模の運営になっているんですね。ですから、正直申し上げますと、年末の12月31日、この日ほっとけば、お父さんがた、どっかにどーんと遊びに行っちゃうんじゃないかということ、それを引き止めるためには子どもたちの行事を作ることだということ、それだけじゃないですよ、実はね。面白い話っちゃうことで、そういう順番で話しますと、そういうところから始めてですね、子どもたちの発表会ができるのはなぜかっていうと、コーランを読む教室を毎日、今、日曜日はやっていないですけども、大塚でやっているから、そういう習った人たちが、その中からハフィズも出てきているという人でね、その人は、早稲田大学の今学生になっていますけども、というようなこと、地道な活動をやっぱりやっただけで、

思うんですね。それはなんでできるんだろうか。ということになるわけですけども、その辺りをですね、なぜ、それができるのかっていうことを掘り下げていくのが大事なのかなという気もします。

それから早稲田大学、その他ですね。モスク見学だとか、イスラム何ですかっていう勉強会やりたいから、お宅訪ねていきますよということで、それから、何ていうだろう、区ごとに何かありますね。文化教室、何とか教室。そういうようなもので訪ねてくるのもあって、年間、高校生、大学生、それから一般のそういうものたちが、4件、5件ぐらい、あのモスク見学来て、説明をすると。時間帯によっては食事を出せばものすごい喜んでくれると、親しみが増すというようなことですね、皆さん、日本人集めて活動やるときは食事出しましょう。以上でございます。

一同 フフフフ。

店田 ありがとうございます。もう、時間のほうが、過ぎてしまいましたけども、先ほど佐藤さんの日本ムスリム協会の非常に印象的な活動の事例があったわけですけども、そういったものをこう全国的にシェアしていくとか、共有していくというのに方法としてはどんなことが。もちろん、日本ムスリム協会として、それを外に出したくないとか、そんなことは全然ないわけですね。そういったシェアの具体的な方法としてはどんなことが考えられますでしょうか。

佐藤 すいません、日本ムスリム協会に、ウェブサイトとかメーリングリスト、メーリングリストは、会員向けなんですけれども、ウェブサイトは公開されておりますし、あとは Facebook のアカウントなどで公開しています。公開講座なり、店田先生にも去年、いらしていただいたかと思うんですけども、あとは男の子の会とか、あるいは、月曜日から木曜日までの礼拝、ミニ講話ライブというのは、そもそも Facebook でライブ発信をされていますので、イスラム・イン・ジャパンという非常にフォロワー数の多い、何ていうんですか、アカウントでやはりシェアしています。大体、今、日本のどのモスクでも Facebook のアカウントってお持ちだと思いますので、そういうところで恐らくニュースとか、そういう知らせは届いているんじゃないかなと思うんですけども、シェアする形、という形で広めていただければと思います。はい。

店田 はい。日本ムスリム協会のそういうシェア、例えば、外国人が中心になって運営しているモスクっていうのも結構、日本にはあって、あまりほとんど日本人がいない、ほとんどいないっていうか、ほとんどゼロかもしれないんですけども、そういう所ですと、なかなか、つながりが築きにくいというところがありそうなんですけども、その辺りはどうですかね。そっちのほうにと、つないでいくような。

佐藤 そうですね。でも今結構、個人でも組織レベルでも、Facebook のアカウントくらいは皆さん、お持ちじゃないかなとは思っているので、恐らく届いているんじゃないかなと思いますけれども。もし、届きにくいような、情報が届きにくいような方がいらっしゃったら、なるべく、地方のその、例えば八潮モスクのかたがたとかに、個人的にそういうシェアをしてもらったりとか、情報を広めていただいたりとか、そういうネットワークがやっぱり必要になってくるんじゃないかなと、はい、思います。

店田 はい。ありがとうございました。まだ、議論したい点がいろいろあると思うんですが、この後、第2部の若い人たちの会を含めて、第3部で、ちょっと今回は新しい斬新な試みでいろいろまた、議論を深めていきたいと思っていますので、そちらのほうで、この午前中の議論の内容はまた、あらためて取り上げることにしたいと思います。ということで、いったん、この場は、終了としたいですが、この中に、前にいらっしゃるかたがたで、どうしても最後に発言しておきたいって方いらっしゃったら、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。はい、それでは、ありがとうございました。第1部は、ここで閉会というふうにしたいと思います。ありがとうございました。

一同 ありがとうございます。

岡井 皆さん、お疲れさまでした。ついでにごあいさつもしてしまいますと、早稲田大学の人間総合研究センターという所におります、岡井ともうします。第1部朝早くからお疲れさまでした。お昼なんですけれども、私たちのほうでささやかな、お昼をご用意しておりますので、よろしければですね、こちらで召し上がっていただければというふうに思っております。では、休憩時間が何時から何時でしたっけ。

店田 1時半まで。

岡井 じゃ、1時半まで休憩となりますので、礼拝ですとか、あとはお昼ご飯ですとか、この間にですね、お済ませいただければというふうに思います。1時半からまた、再開したいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

アミン 礼拝室は。

岡井 礼拝室は、この向かい側のお部屋と。男性が、向かい側で、女性が、こちら側のお部屋になります。

(了)

## 第2部 日本のイスラームの将来構想

店田 はい、第2部のほうは、一応、3時までの予定で1時間半ですね、やりますので、一応、司会はこちらにいる3人にお任せしてありますので、この後は、まず、クレシ愛民くんのほうからお願いいたします。

愛民 皆さん、早稲田大学人間科学研究科のクレシ愛民と申します。本日、第2部の司会をさせていただくうちの1人でございます。これから本当に日本のムスリムコミュニティー、先ほどの第1部のお話の中でも子どものイスラム離れだったりとかっていうお話がありました。本当に人によっては、90パーセントがイスラムから、80パーセントか、70、かなりの大きい数字を言う人もいれば、そうじゃない数字を言う人もいますが、実態はもちろん分からないです。もちろん分からないですが、少なくとも今、ここに座って、いらっしゃるヤングムスリムのかたがた、改宗された方もいれば、ムスリム家庭に生まれた方もいらっしゃいます。その中でも、かなり、活発にムスリムコミュニティーと何らかの形で関わっていたり、本当に、将来の日本のムスリムコミュニティーを担うような、最先端を歩いているようなヤングムスリムのかたがたに、今、ここに座っていただいておりますので、私はなるべく早くですね、もうタンタンと、羅列的に、私が去年行いました、ヤングムスリムの生活と意識調査というような統計調査があるのですが、そのデータを、ここの中のヤングムスリムのかたがた、何人かご協力いただいていると思います。中でも、きょうの会議のテーマに合うようなものだけをちょっとだけ抽出して、もうなるべく5分ぐらいでポポポッとデータだけ提示します。

お配りしている、スライドがあるんですが、これちょっと印刷の都合上、右から左になっておりまして、右上からですね。右上から左に行き、次、右下に行きます。右上から左に行き、三つ行くと、右下で、また左に行き、両面印刷になっているので、少し見にくいですが、一応、データとしてお持ち帰りいただければと思います。

では、せっかくの会議ですので、タンタンとご報告していきます。これからの会議の第2部、第3部の参考データとなれば幸いです。まず、どのような人たちに調査を行ったかというところ、この中には180人のヤングムスリムの意見が含まれているんですが、中学生から40歳までですね。改宗者の方が51、そして、ムスリム家庭に生まれた、ムスリム2世なんて言い方を私はしますが、129おられます。なので、改宗者の数は十分とは言えないのですが、そういったこともあり、ムスリム2世だけを抽出したデータもいくつか提示します。

まず、どのような人たちが、お答えいただいたかというところなんですが。あ、結果からいきます。すいません。

まず、信仰心の話がいくつか第1部で上がりましたが、信仰心が強くなる要因というのは、大きく四つに分けることができます。その中でも大きいのが体験要因というのを除い



た三つですね。環境要因、知識要因、そして、人生の転機・成長要因というふうに呼んでいるものです。環境要因というのは、例えば、ムスリムの友達だったりとか、イスラミ的な環境ですね。そういった環境が彼らの信仰心を強めると。そして、知識要因というのかなり大きな要因になりまして、知識の習得が彼らの信仰心をものすごく強める力となっているようです。体験要因というのは、例えば、何かドゥワーがかなっただったりとか、メッカに行って何か感じるものがあったりだったり、そういったちょっとスピリチュアルな体験ですね。これはかなり少ないですが、一応、なくはないというような形で、そういった信仰心が強まるきっかけだったりとかですね、結婚だったり、妊娠、出産、そのような人生の、喜ばしいような転機もあれば、身近な、例えば両親の死。病気、重病だったりとかですね。そういったことも、信仰心が強まる要因となります。

一方で、信仰心が弱くなる・なくなる要因というのは、環境要因に限ります。基本的には環境要因に限ります。一部、例えば、LGBTQ の問題がちょっと納得いかないとか、そういった、知識要因を示唆するような語りもありますが、基本的には環境要因が、主な要因となり、彼らの信仰心は弱くなり、なくなっていくます。

その中でもですね、ここで注目したいのは、日本社会との関わりだけではないということです。ムスリムの言動が、彼らの信仰心を弱め、なくしているということです。それは、周りのムスリムというと、先ほどのモスクでの話だったりも第1部でありましたが、そのようなモスクの中にいる人、あるいは、家庭内でも親の言動によって、信仰心が弱まり、なくなることもあるようです。

なので、「日本社会から隔離しておけばいいんだ」。そういったことではないということです。ムスリムコミュニティ内部にも、彼らの信仰心を弱める要因はふんだんにあるということになります。一つお断りしておかなければいけないのがですね、今回の調査対象、調査をお答えくださったかたがたですね、基本的にかなり信心深く、宗教実践ができているかたがたです。なので、ここは踏まえた上で、これからのデータを、ご参照いただきたいんですが、それは、つまり例えば、先ほど、チラッと申しあげましたように、90パーセントとか、70パーセントとかがイスラムから離れているとかってというような語りがある事実かどうかは分かりませんが、少なくとも、今回お答えいただいた人たちは、かなり信心深く、宗教実践の程度が高い人たちになります。

一つ、信仰心について申しあげておきたいのは、流動性が高い、つまり、今、弱い人たちもかなり強くなり得る、先ほど申しあげましたような強化要因との出会いによってはですね。そして、今、強い人たちも、弱体化の要因に置かれれば、信仰心は弱体化し得る可能性も十分にあるのだというようなことです。そして、可視化された宗教実践、つまり、例えば、ヒジャーブをかぶっているというところを一つ取り上げますが、確かに信仰心が高いほどヒジャーブを着用する、信仰心が弱いほどヒジャーブを着用しないという傾向は確かにあるんですが、必ずしもそうではないってということも一つ踏まえておく必要があります。

例えば、ヒジャーブをかぶっていない、お祈りをしない、モスクに行かない、ムスリムの友人と会わない。そういったことを元に、イスラム離れと簡単にくくってしまうことは、少し事実と違うということですね。またモスクとの向き合い方についても少しご紹介します。居場所とを感じる者、2割いました。これを少ないと見るか、多いと見るか分かりませんが、最寄りのモスクは2割にとっては、居場所となっている。僕個人としては、かなり高いのかなというふうに思いますが、かなり一部の人たちに限られます。

それは、どういうことかという、信心深く、宗教実践の程度が高く、ムスリムの友人が多く、何か宗教に関する悩みがあったとき、モスクのイマームやムスリムの年長者に相談するような人たちです。ニワトリが先か卵が先かっていうような話にもなってしまいますが、少なくとも居場所と感じている人たちは、かなり一部の人なんだというようなことも一つ踏まえておく必要があるかもしれません。モスクに通う頻度については、男女でかなりの差が見受けられます。これは、皆さん、ご存じのとおりだとは思いますが、モスク離れと言っても、少なくとも今回の回答者に至っては、6割が少なくとも週に1回は通っている、女性に関しては、およそ6割がほとんど行くことはない、このような男女の差も含めてモスク離れというのを語っていく必要があると思います。

そしてですね、学校との向き合い方もよくムスリムコミュニティーだったり、研究者だったりもそうですが、第2世代、特にですね。第2世代について語るとき、学校内での葛藤だったりとか、よく取り上げることがありますが、確かに差別かなり受けています。ムスリム2世の女性、学校でムスリムであることによって差別を受けたと感じる者、4割を超えます。場所によって宗教実践の仕方を変えないといけない。ありのままの宗教実践ができないと感じているムスリム2世の男性は、現在学生の者のうち、60パーセント、かなり高い値を取っています。で、葛藤の例ですね。これは、今はムスリムとして生きている人なんです、彼は高校生にして、家族との絶縁、もしくは自分を全否定するのかというのをてんびんにつけ、その上で、じゃあ、ムスリムとして生きて行こう、それが一番苦しまない方法なんだと、選択なんだというふうなことを通して、そうしてムスリムとして生きているような、そういった人も中にはいます。

家族との向き合い方、それも第1部で少し取り上げられました。ここで、基本的に今回の回答者のかたがたですね、家族との人間関係に対する満足度はかなり高いです。ただ、父親と母親で、なぜこのような差が出るのかというところ、そうですね、これムスリム2世だけのデータです。なぜ父親と母親がここまで違うのか、というようなところは、一つ考えて見る必要があるかもしれません。

悩みについて、今回の回答者のかたがた、少しアイデンティティーとか葛藤とかを示唆するような悩みを取り上げてみると、そんなに多くはない、一桁のところもいくつかあるんですね。一方で、彼らが一番悩んでいる。一番というのは要するに、最も多くの人たちが悩んでいる、最も悩みの種となりやすいのは、結婚です。結婚についてムスリム2世はかなり悩んでいて、全体としてもそうですね。中でも、特に男性です。男性かなり結婚に

悩んでいるようです。お金も非常に大きいですし、趣味や恋愛、キャリアだったりとかもかなり大きな悩みとなっており、必ずしも、必ずしもですね。必ずしも宗教に、直接関係するようなものの悩みとはなっていない。なっているものの数は少ない。というようなことが分かります。

中でも、宗教的な悩みがあったとき、彼らは、誰に相談するのでしょうか。ここで、まず見てもらいたいのは、母親がかなり高い値を取っているということですね。特にムスリム2世の男性を見ていただくと、6割近くが宗教的な悩みがあると、母に相談しています。ムスリム2世、女性もかなり母に相談していますね。ただ、ムスリム2世の女性に関しては、ムスリムの友人がかなり高い値を取ります。改宗者においても、家族が相談相手とならない分、ということかもしれませんが、改宗者にとってはムスリムの友人がまたものすごい大きなサポート、宗教的な悩みの相談相手となるということも分かりました。

そしてですね、下二つを見てみると、ここの値が少し、ちょっと少ないのかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。モスクのイマーム、やはり、モスクにそもそも通わないということもあるので、これは、仕方ないというようなことも言えるのかもしれませんが、ムスリム2世の女性に関しては、1.6パーセントが宗教的な悩みをモスクのイマームに相談し、8.2パーセントがムスリムの年長者に相談していると。これはノンムスリムの友人よりも圧倒的に少ない値です。彼女らが特に宗教的な悩みがあったとき、そういったムスリム2世たちは、イスラム的なそういう知識を持っているはずのモスクのイマームや年長者、権威のあるような年長者には聞かず、非ムスリムの友人のほうが、相談相手として頼られているということも、一つお伝えしておきます。代わりにじゃあ、どういったところで悩みを相談しているのか、Yahoo!知恵袋だったり、教えてgooだったりとかも、宗教的な悩みの相談相手になり得てしまいます。

その原因として、いくつか考えられることがあるんですが、一つ語りを取り上げておくそうですね。日本語で説明してもらえないと分からないというような言語的な壁が宗教的な知識の入手先を限定してしまっている、そういった可能性もあります。日本にいながら、パキスタンの家族に聞かないといけなかったり、英語圏のイスラム団体に頼る必要を感じている人もいます。

一方でですね、先ほども申し上げましたように、今回の調査にご回答いただいたかたがた、かなり、信心深く、また、日本人であることとムスリムであることを両立できると思う傾向にあり、また幸せなことだと、ムスリムであることは幸せなことなんだと感じている人たちがほとんどです。なので、そういったことをまた繰り返しになりますが、踏まえつつ、今、ご提示したデータを参照いただきたいのですが。もう二つですね。内部、そして外部、つまりムスリム、そしてムスリム以外の人たちの宗教についても寛容であるという点、そして、ムスリム内部の異なるイスラム実践のあり方に対してもかなり寛容であると、こういった点も、もちろん、親世代の方がどうかという調査がされたことがないので、分かりかねますが、少なくともヤングムスリム、特に改宗者のほうが多いですね、に限っ

ては、ムスリムでない人たちの宗教、そしてムスリム内部の信仰実践のあり方に対して、かなり、寛容というような言葉を使いますが、まあ、寛容であるというようなことになります。タンタンタンと、今、ちょっと提示をただけですので、簡単にまとめますと、イスラム離れ、今回あんまりちょっと触れませんでした、実はですね、12歳から15歳までのムスリム2世というのは、ヒジャーブの着用頻度がかなり高いですし、モスクに通う頻度もかなり高いですし、ムスリムの友人に会う頻度もかなり高いです。

それが16歳とかになってくると、激減するわけですね。それをイスラム離れと言うこともできるのかもしれないのですが、そもそも、12歳から15歳のヤングムスリムの宗教実践の理由、なぜ宗教実践するのですかと、なぜヒジャーブを着用するのですかというふうに尋ねると、そもそも親の意思がかなり強かったと、なので、イスラム離れと言っていいのか、それとも単純に親の影響力が薄まっただけなのかと、もちろん、両方いるとは思いますが、少なくともその一方だけではないということも一つ踏まえる必要があるかもしれません。

そして、先ほど申し上げましたように、ムスリムにも信仰心が弱まる、なくなる原因が、かなり大きく担われているという点、そして、モスクに居場所を感じる者も少なくありませんが、それがかなり一部の特定の属性を持つムスリムに限られているという点、そして、学校に関しては、確かに女性がかなり差別を受けており、男性はありのままの宗教実践を行える場と思わない傾向にあるという点、そしてですね、家族との向き合い方も、かなり満足度が高いんですが、なぜか父親の値が母親には圧倒的に及ばないというようなところがあります。

そして、悩みについては、宗教に必ずしも起因するものだけではなくてですね、彼らが本当に悩んでいること、つまり、結婚、お金、進路だったり、そういったところへのサポートが、ヤングムスリム内部からも、上の世代からもサポートが、必要とされているのかもしれません。

そして、宗教的な悩みの相談相手というのが、知識人だったり、年上のかたがたよりも友人であり、そして女性に限っては、非ムスリムの友人のほうが宗教的な悩みの相談相手となるというような。簡単に一部だけ取り上げましたが、これを元にですね、少し議論に移っていければと思います。その前に、簡単に終わらせていただきましたが、グフロン・ヤジットさんに、今、ご発表いただきまして、彼の感想だったり、今、僕がかなり淡々的にちょっと冷たいとデータの提示しただけなんです、グフロンさんにですね、これから、10分ほどで大丈夫ですかね。ご発表いただきます。ありがとうございました。

アウファ キーノート。

ファティナ キーノートだったらパワポに変換できるよ。

愛民 ちょっと今、データの変換を行っている間にですね、ここで今、第2部でかなりもうフリートークのように、先ほどよりも少し、言うてしまうとだらけたような形で、思うままに、第1部で聞いたことに対して、いろいろ思うこともあったかもしれません。そういったことも、皆さんにシェアしていただきたいですし、この中にはかなりさまざまなヤングムスリム、もしくはムスリムコミュニティ向けのご活動をされている方もいらっしゃると思うので、その活動している、もしくは将来しようと思っている、そういった活動についても、簡単に、グフロンさんの発表が終わったらですね。ご報告いただきたいと思っております。

(雑談)

グフロン アッサラーム・アライクム。

一同 ワアライクムッサラーム。

グフロン まずはじめ、私の自己紹介をさせていただきたいと思います。グフロンと申します。両親は、インドネシア出身で、ジャカルタ出身なのですが、僕と妹のアウファは日本で生まれて、東京でずっと、育っています。東京の幼稚園から、大学まで東京です。

現在は、東京ジャーミイ、もう皆さんご存じだと思うんですけど、東京ジャーミイで、非常勤の学芸員をやりながら、フリーランスでお花のお仕事を、しています。でも、お花のお仕事って言われてもちょっと、想像できないと思うので、先にどういうのを作っているのかというのを簡単に紹介させていただきます。こういうブーケを作ったりとかしています。

岡井 すてきやな。かっこいい。

グフロン 結婚式とか、装花をしたりしているんですが、この間、ジャーミイでも友人の結婚式をしたので、それのお花もやらせてもらっていました。これもヤングムスリムの子たちも参加してくれて、友達の結婚式の装花で、ジャーミイの外の階段もきれいに、お花で飾ったりしています。これ、ウエディングブーケなんですけど。

岡井 おおー。

グフロン ヤングムスリムで、まだ独身の方がたくさんいると思うので、結婚される方は。

奈菜 あっはは、宣伝してるし。

グフロン この場を借りて個人でもいいし、友人で、結婚される方いたら、ぜひ、声をかけてください。お金もらいますけど。

奈菜 アハッハッハッ。

グフロン はい、で、こういうことをしています。実は、お花を始めたのが、今年の春なんですけど、お花をなりわいにしようと思ったきっかけが、この代表者会議なんですね。去年の2月に行われた代表者会議で、そのとき、教師していたんですけども、教師をしながら、お花を扱い始めて、教師を続けようかと悩んでいたときに、代表者会議に参加したときに、自分の得意分野や好きなことというのを通して、イスラムのコミュニティーに貢献できるっていう考え方にたどり付きまして、なので、教師の仕事を辞めて、得意分野である、芸術というか、そういう美しいものを扱う、仕事に就こうかなっていうのを、代表者会議を通して決意しました。なので、ちょっと今、感動しているんですけども。1年後、この場所で、同じ場所で同じ方が企画している会議で、自分のお花が紹介できることをすごい感動しているんです。これ以上話すと涙が流れるでしょう。

一同 アハハッハッ。

グフロン お花の今、ちょっと営業の話になってしまったんですが、実はお花っていうのは、神様がつくったものなんですね、なので、お花に触れて、それを用いて、人と関わっていくというのは、僕の中では信仰なんです。そういう信仰を持つていくのはすごく大事なことだなというふうに思っているんですが、今、ジャーミイで学芸員やっていますが、基本的に見学者が来たら案内をするとか、下山さん、皆さんご存じだと思うんですけど、下山さんがやっていることを順番に、下山さんがやったり、僕がやったり、あとは、若者向けに、あとで説明するんですが、イベントを企画運営したりっていうのをしているんですが、自分、お花をやっているんで、それも踏まえて、ジャーミイでも、お花のワークショップをやらせていただいています。毎月、第1土曜日にやっているんですけど、これジャーミイのバルコニーですね。礼拝堂の前のバルコニーで、たくさんお花、用意してそれを参加者に選んでもらって、こういうのを作ったりとか、これジャーミイの新館で、すごく自然光が入るきれいな場所だったので、ここでやらせてほしいっていうので、先週ちょうどやったのが、これになります。これも、僕の中では、ダーワの一つで、ノンムスリムの方にモスクに来ていただくというだけでも、すごくありがたいことですし、ムスリムの方でも、神様がつくったお花っていうのを触れて、香りを楽しんで、それに感動するっていうのが、すごく大事なことだと思うので、ジャーミイを通して、こういう活動ができるっていうのは、すごくありがたい、ありがたいことだなと思います。こういふ作った

りしています。皆さん良かったら参加してください。

お花をやっているっていう話もあるんですが、これ以外にも、ジャーミイで何をやっているかという、毎月、ヤングムスリムクラブっていうのをやっているんですね。で、1回目が、これになります。第1回パネルディスカッションという名のお茶会っていうのをやりました。これは、ヤングムスリムが集まって何かこう面白いことができたらいいなっていうので始めたんですが、自分自身がジャーミイの中の人として、何かできるので、せっかくだからというので企画を始めて、実際に、11月から毎月始めているんですが、パネルディスカッションという名のお茶会に関しては、簡単に、お茶を用意して、お菓子を用意して、みんなで集まって面白い話をしようっていうだけです。

特にこういうイスラムの話をするとか、何か講義をするとかではなくって、単純にみんなで集まって、モスクに集まって友達をつくって、輪を広げようっていう目的でやったものです。一応、テーマに、あの国この国あるあるっていうのを、決めまして、いろんな国のいろんなバックグラウンドの人間がいるので、そういうのが集まって、みんなで楽しいお話をシェアしたっていうのが1回目になります。

このヤングムスリムクラブ、特にこう毎回のテーマこういうのをやらなきゃいけないっていうのは決まっていらないんですけど、企画している内側の者同士の裏テーマとしては、自由研究ですね。大人の自由研究って言おうとしたんで、大人のっていうとあれなんで、自由研究をするような場所にしたいと思っていて、普段、仕事で忙しくて、忙殺されていて、人生について考えたりとか、あと、この世界の素晴らしさについて考えたりとかしないですね。若い人たちってあんまり。そういうのをこのヤングムスリムクラブを通して、何かできたらなっていうのを思っているんですが、2回目は、国語の時間。僕の、私の好きな言葉っていうテーマで、皆さんが持っている好きな言葉とか、座右の銘とか、影響を受けた言葉っていうのをお互いに話し合っただけでシェアするっていうのをやりました。みんな集まってくる感じですけど、なんでこの言葉選んだのかっていうのを、共有して、シェアして、その背景にある経験とか思いやりっていうのも全部話してもらって、最後にそれを紙に書いてもらって、全員の紙を集めて、お互いで、お互いの言葉を発見してシェアする。とってもいい時間になりましたね。クルアーンの言葉を選ぶ子もいたし、普通にマンガの言葉を選ぶ子もいたし、それぞれがどういう言葉を大切にしているかっていうのを、普段、大人になるとそういうこと考えないし、この詩がいいねとかっていうのを語っても、何、ダサイこと言ってんのっていうふうに言われてしまうようなのが大人だと思うんですね。

教師として働いているときに、気づいたのは、子どもって、とっても純粋で、そういう言葉の大切さとか、生きることの素晴らしさっていうのを語ったり、言葉にすることっていうのは、むしろカッコいいことなんです、子どもにとっては。でも、大人になると何となくそれがダサイことになってしまうっていうのがあったりするんですが、そういうのをなしにして、ここでは、ちょっと大人にとってはダサイことをやろうっていう感じにして

います。みんなの言葉がこういうふうに集まりました。

1月、先月は、あの日の空は何色だったかっていうテーマでやったんですが、これは、思い入れがある空の写真っていうのを持って来てもらって、お互いにその空がどこで撮ったのか、どういう色だったのかっていうのを共有して、それを最後、四角く小さく切ったものをみんなでくっつけて、こういうものを作りましたね。

ここでも空にはどういうものがあるのかっていうのを考えるきっかけになったと思うんですけど、普段は全然考えないことでも、実は、空には太陽があって、雨が降っていて、その雨がないと植物は育たないし、野菜も家畜も育たないし、そうすると食べ物も食べられないし、空に行ったら雨が降るだけでもすごくありがたいことであってというふうな話をしながら、皆さんでこういうのをつくったんですが、そうですね。こういう、ヤングムスリムはこれからを担っていく世代だと思うんですけど、どうしてもやっぱりイスラムの知識がとか、クルアーンが、ハディースがっていうのが、前に出てしまう中で、私にとって本当に根本的に大事な信仰ってなんだろうって考えたときに、人として、ムスリム、ノンムスリム関係なく持っている、人生っていうんですかね。そういうものをヤングムスリムの子たちに向き合ってほしいっていう思いがあったりします。

Instagramもあったりするんですけど、こういうきれいなことをしていこうかなと思っています。今月実は、モDESTファッションの世界っていうテーマで2月1日がワールドヒジャーブデイなので、それに合わせてファッションに関するワークショップができたかなと思っていて、ヤングムスリム向けにはこれをやって、その後にヤングムスリムの人たちを巻き込んで、この展示をノンムスリムの一般の方向けにやろうかなと思っています。はい。

先ほど前半で、きれい事がどうのっていう話が出ていたかと思うんですけど、私はきれい事しか言えないんですが、クレシさんのプレゼンテーションもすごく感動したんですが、やっぱり、人ってきれいなものにすごく感動しますよね。きれいなものに、感動して、それに魅力を感じて、もっと知りたいって思ったり、心地いいって思ったりすると思うんですが、今の時代は、写真とかインターネット通して、きれいなものを共有することがすごく簡単な時代になったと思うんですね。

なので、全ての人がきれいなものを、手に入れやすくなっているし、きれいなものにアクセスしやすくなっている時代だと思うので、ノンムスリムの人に対しても、きれいなマスクであったりとか、中も外もきれいなものであったりとか、あとは、活動している内容がきれいだったりとか、ムスリム自体の生きざまがきれいだったりとかすれば自然と人が集まってくるし、ムスリムでもノンムスリムでも、自然といいものに人が寄ってきて、お互いにいい影響を与えていくと思っているので、私は私なりにできることをしていこうかなと思っているんですが、クルアーンの知識であったりとか、イスラム教徒としての経験というのはまだ浅いんですけども、二十数年生きていく中で気づいたっていうことは、ムスリム、ノンムスリム関係なく人っていうのは、あっ、すいません、こんなに先輩の前



で、すごく大それたことを言うべきじゃないんですけど、二十数年生きてきた中で、経験した中でやっぱり気づいてきたことと言えば、別にムスリムじゃなくても、人ってそれぞれ葛藤があるんです。人としての、人生の葛藤というものがあって、ムスリムとしての葛藤は、もちろんあるけれども、自分がもしムスリムじゃなくてもきっと親と葛藤しているし、将来の仕事どうしようとか、自分と葛藤しているし、ムスリムの自分も結局、ムスリム同士の友情に関して悩んだりとかするんですね。

なので、人って、こう、宗教うんぬん関係なく葛藤していく生き物なので、それってこう、人生そのものというか、なので、ムスリム、ノンムスリムがどうっていうのを考える前に、まず、こう人生っていうものがいかに素晴らしいもので、生を受けたことに対して、感動してっていうのを毎日、自分の中で大切にすることもすごく大事なことだと、感じました。自分が今、何を話しているのか、ちょっと分からなくなってきたんですが。お花をやっている理由でもあるので、最後にちょっと言いたいですけれども、花が咲いて枯れるっていうことだけでも、すごく本当は素晴らしいことで、皆さんが朝起きて、外、家出て、青い空を見て、それに対して感動するっていうことだけでも本当はすごく大事なことなので、ハラールがどうか、ムスリムはどうかっていうの以前に、人として、まず、自分が生きていることっていうのをまず感動してほしいと思います。

そうすれば、他人を受け入れることもできるし、嫌いな人がいてもその人を嫌いにならない自分になれるかもしれない。ちょっと難しいんですけど、すいません。これぐらいで終わりにします。はい。

愛民 ありがとうございます。かなりきれいな発表の中で、私のパソコンの不具合で「取り出し」と、ずっと表示されてしまったことをおわびいたします。ハハハ。それではですね、今のお話も踏まえて、そして、第1部の話も踏まえてですね、皆さんにごくごく簡単に、30秒程度ですかね。自己紹介を、していただきたいと思います。お名前、そして所属、あれば所属、そして、ご活動何かしている、もしくはしたいことが、あれば大丈夫ですので、そして、好きな食べ物？

岡井 食べ物。

愛民 好きな食べ物。

岡井 食べ物。好きな言葉？食べ物？フフフ。

愛民 好きな食べ物。何かあれば、ハハハ。では、お願いいたします。

長谷部 長谷部と申します。よろしくお願いいたします。早稲田大学イスラム地域研究機

構の研究員をやっております。オスマン帝国という国の教育史を専門に研究しております。好きな言葉ですよね。好きな言葉、論語の中に『吾が道は一以て之を貫く』っていうのがあるんで、いろいろ、話すと、30秒超えちゃうとあれですけど、孔子さまの道は、真心と思いやりなんだそうですっていうのを弟子が、弟子たちの間の会話の中で、もによもによ言っているときに、孔子さまがこう言ったんです。私の道は一つのことと貫かれていると。1人の弟子が、それなあにって言ったら、『夫子の道は忠恕のみ』と、論語の中でも結構、カッコいいシーンがあるんですけど、それは割と気に入っております。では、よろしくお願いいたします。

愛民 レベルを上げてきますね。フフフ。

岡井 レベル上げてきたね。やめろー。フフフ。

グフロン はい、僕はさっきもいっぱい話をしたんで、もう引っ込めって思うかもしれないんですが、好きな食べ物は、スモークサーモンです。

岡井 おおおっ。

愛民 さすがっ。

グフロン 好きな言葉は、江國香織さんっていう方の詩で、ちょっと悲しいんですけど、『どっちみち100年たてば誰もいない。あなたも私もあの人も』っていう言葉があります。すごくいいなって思ったのが、どうせ、生きて、みんな死ぬので、そういう、思いを持ちながら、過ごしていくことの大切さを感じるなっていうふうに思う言葉でした。はい。

アウファ はい、アウファって言います。グフロンの妹です。私、所属は特になく、フリーランスで、モデルの活動でしたりとか、あと、時々、ヒジャーブの文化の講演とかをやらせていただいているんですけども、兄と同じく、芸術思考でして、ちょっとダーワとまでは言わないんですけども、アートの視点でイスラム文化を発信していくことをやっています。好きな言葉は、これというものはないんですけども、好きな本、大ベストセラーがありまして、自分の中で。サイド佐藤さんからいただいた『ムスリムの砦』っていうものがあるんですけどもあの本、毎回読むたびに、私泣けてくるので、あれもし時間があれば、読んでみるといいと思います。

奈菜 あれっ、ユニクロは。

アウファ ユニクロ、ユニクロは、はい、ユニクロ銀座で、1階で働いています。ヒジャーブの店員さんも増えてきて、ありがたい世界になったなとは思っています。

奈菜 ダルウィーシュ奈菜と申します。所属は一、そうですね。主婦ですね。普通に結婚していて、子どもが、2人います。普通にお仕事、最近始めたんですけども、それより以前から、オンラインで、ヒジャーブとか、あと、ヒジャーブの中に付けるインナーとか、あと、つい最近、化粧品とか、全部ハラール認証を受けているものなんですけど、きょう、爪に付けているものがハラールネイルなんですけれども、そういったものを取り扱うようになりまして、ヒジャーブのお店はもう結構増えてきているので、そこはちょっと引退しようかなって思っているところで。ただ、今後は、YouTubeとかもやっているんですけど、私の改宗ストーリーっていうのをやっていて、ついこの間、第3回っていうのをリリースしたんですけど、今後も、特に、日本人改宗ムスリムにフォーカスしたドキュメンタリーになるんですけど、ムスリムになりたいって思っている人は、割といて、ただ、ちょっと敷居が高いって思っている人が割と多いので、そんなことないよとか、でも、人によってはこんなふう感じたかもしれないっていうのを紹介していきたいなと、思っています。

それとは別に、この間、その2月3日だったんですけど、ワールドヒジャーブデイのイベントを初めて主催して、そのとき実は、アウファさんに、講師を、お願いして、お花もグフロンさんをお願いして、いろんな人の協力あって、結構大成功だったんじゃないかなと思って。このイベントの趣旨は、特にノンムスリムの方にヒジャーブというものがどんなものかっていうだけでなく、ムスリム女性だけでなく、もうどんな人でも、ファッションの一部として楽しんでほしいっていうのが主な趣旨で、やらせていただきました。今後もちよっとちょこちょこ、この2月1日に限らずやっていこうと思っております。よろしくをお願いします。

シャハラ 私は大阪から来ました、モヒディーン・シャハラと言います。私の父と母は大阪マシドと大阪イスラミックセンターの運営を行っております。今回は、去年、第1回目のこちらの会に出席させていただいたときは、本当に初めましての方ばかりで、愛民さん以外は。でも、きょう1年越しに来て、周りを見たら、みんな知っている人だという安心感と、こう自分が、この1年でイスラムの輪を広げれたことをきょうは、ここにまたあらためてまた実感できたので、すごいうれしく思っています。今回は、インシャーアッラー、関西のことを中心にお話をできたらなと思っております。よろしくお願いたします。

林リダ アッサラーム・アライクム、林リダです。所属は特になんですけど、今、横浜モスクで、子どもたちのちょっとお勉強を見たりとかしています。今回初めてなので、特に何か紹介するものも何もないんですけど、今後、子どもたち、ムスリムの子どもたちに対して何かアクションを起こせたらいいなと思っております。短いですが、よろしくお願

します。

ファティナ ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム。アッサラーム・アライクム・ワラフマトゥッラーヒ・ワバラカートゥフ。ファティナと申します。インドネシア生まれなんですけど、日本とマレーシアで育って、今、日本に来て4年目、日系のIT企業に勤めています。仕事をしている以外の空いた時間では、さまざまなイスラムのコミュニティーのお手伝い、ちょいちょいやらせていただいて、所属は特になんですけど、先ほど、デディさんが紹介してくれた、イスラムゼミの勉強会のお手伝いだったり、いろんな勉強会、あとヤングコミュニティーの勉強会のお手伝いを、アルハムドゥリッラー呼んでいただいて、お手伝いをしています。今後も、私的には、あまり自分の所属を固めないで、結構、横のつながりを大事にして、いろんな改宗者だったりとか、若い子たちから相談が来るので、そういったときに、適切にこういうコミュニティーがあるよって紹介できればなど、中間的な人物になれたらいいなと思っています。よろしくお願いします。

リーム エジプトのリーム、アッサラーム・アライクム。もしかして、きょう、お邪魔しているたった1人のエジプト人かなと、北アフリカから来たのも私だけだと思います。皆さん、アジアのかたがた多いけれども、その中で、アットホームな気持ちはとてもあります。イスラム教徒か、イスラムを研究なさっている日本人のかたがたが多いので、本当に自分が前いたような環境を少し思い出しながら、温かい気持ちになっています。

今、所属しているのは、サウジアラビア大使館で、研究員として勤めていますが、前、修士課程、博士後期課程やっていたのは、日本におけるムスリムが直面する諸問題についてとか、博士のときは、日本とアラブ諸国のエジプトから来た旅行者に焦点を当てながら、日本とアラブの交流史について研究していました。最近、サウジアラビア大使館、ちょっと湾岸のあそこに行ったんですけども、また、前のように研究の世界に戻りたい気持ちできょうは参加させていただきました。

中村 皆さんこんにちは、アッサラーム・アライクム。

一同 ワアライクムッサラーム。

中村 昨年の夏に福岡県の北九州市から、上京してきた中村優平です。You Hey!みたいな感じで覚えていただければと思います。

一同 ハハハハ。

中村 本日は、福岡マシジドの次世代代表としていらしているんですけども、この場に

おける私の発言や行動は、福岡 Masjid とは一切関係ないですから、お伝えしたいと。

一同 ハハハハ。

中村 今、代々木上原東京ジャーミイの近くにあるインターナショナルスクールで日本語と、日本語での社会科を教えています。よろしくお願いします。

ホワイト アッサラーム・アライクム・ワラフマトゥッラーヒ・ワバラカートゥフ。

一同 ワアライクムッサラーム。

マティーン ホワイト・マティーンと申します。アメリカ育ちですけれども、特に発言することは、ないので。

奈葉 ハハハハ、えっ、終わり。ハハハ。

リーム ハハハ、パス。

林純子 アッサラーム・アライクム。

一同 ワアライクムッサラーム。

林純子 林純子です。一部でも発言させていただきましたが、ちょっと若くないのに、ヤングに混ざらせていただいています。私は弁護士をしていて、別にムスリムだからどうっていうことはないんですけども、ムスリムの私がヒジャーブをかぶって法廷に立って、ムスリムじゃない人の権利を守るっていうこと自体が、こうある意味、すごい、活動っていうふうになっているのかなと自分では思って、積極的に、例えば、在日の人に対するヘイトの問題だったり、そういう、一見ムスリムとは関係なさそうなところでも活動するようにしています。あとは、最近、特に弁護士会の周りでも、特に力をいれましようと言っているところが、外国籍だったり、民族的マイノリティーの子どもの問題ですね。在留資格だったり、皆さん、いろいろ身近である話かなと思いますけど、例えば、学校行っている間は良かったけれども、就職するとなると在留資格の関係で、ちょっと難しくなるとか、あとは、学校に行っている間に、日本語ができない子が学校の勉強についていけないとか、いろいろそういう問題があるので、そういうのを学校の先生たちともうちょっと弁護士とつながって、サポートできたらなというので、今、ちょっと活動始めているところです。よろしくお願いします。

角岡 アッサラーム・アライクム。

一同 ワアライクムッサラーム。

角岡 角岡姫奈と申します。私の所属は、今、特になくてですね。以前は、ICOJの青年部の代表をやらせていただいたりとか、あと、ヤングムスリム系のコミュニティーサイトを運営、リダちゃん、きょう来てくださっているリダちゃんたちと一緒に運営していたこともあるんですが、今は、そうですね。ちょっと主人の転勤で、愛知県に引っ越してから、次男の出産があったりとかで、バタバタしてしまって、ちょっと今、現状はちょっと教育の現場から離れてしまっているんですけども。そうですね、今年4月から長男が幼稚園に入園するのでちょっと時間が余裕ができてくると思うので、これからは、そうですね、今、自分が一番フォーカスしているのは、ちょっと、息子の年齢の幼児教育のための教材づくりとかを、考えています。よろしくをお願いします。

アリアン アッサラーム・アライクム・ワラフマトウッラーヒ・ワバラカートッフ。アリアンと申します。きょう皆さん知っていると思いますけど、はい、アリアンです。この中では、前野さんのお子さん以外では最年少です。自分が今、あと、3日後に19歳になります。

一同 おおお。おめでとうございます。

ファティナ マーシャーアッラー。フフフ。

アリアン それで、今、自分が、普段やっていること、これからやりたいことを、ああ、所属は、多分大塚モスクです。

一同 多分。アハッハッハッ。

アリアン あとは、いろんなところに、先ほど言ったとおり、横のつながりということで、いろんなモスクに出現しています。一応、自分がやっていることとしては、イベント、いろんな、ムスリムのイベントだったり、先ほどちょっと出たんですけど、在日とかいろいろ人のマイノリティーのイベント、その中に、宗教的なマイノリティーだったり、在日とか、あとブラックっていう日本の中でのそういう固有の、マイノリティーがあるんですけど、そちらのほうのイベントには、結構行っていて、そこでも話とかしています。

あとは、大学生だけが集まるような、何か、イベントがあって、それは日本人、ムスリ

ムとか関係ないんですけど、その団体の代表をやっています。それは毎年大体 3000 人ぐらい、大学生が来ているところになります。それをいずれイスラムのほうにも、生かせるらなというふうに思っています。あとは、先ほどちょっと芸術的な話で、いろいろ言っていたんですけど、自分は言葉を芸術だと思っていて、言葉を中心に、もっと自分のことを発言して、イスラムの美しさを教えていきたいなというふうには、自分は伝えたいというふうには思っています。あとは、いっぱい話しちゃってすいません。これが最後で、ムスリムラウンジをつくろうということで、今ちょっと、プロジェクトを進めています。以上です。はい、ありがとうございます。

奈葉 えっ、ムスリムラウンジってなんですか。

一同 ハハハ。

アリアン 今、先ほど言ったイベントというのにつながっているんですけど、ムスリムラウンジっていうのは、カフェみたいな感じで、ムスリムの学生をまず中心にやっというと思っているので、学生が来て、そこで、何だろう、いろんな本とか、遊びに来たりとかでもいいし、何か自分の悩みがあるっていったら、店員さんに、なんかバーツと話をしたりとかして、店員さんは基本的にはムスリムで、話を聞いてくれるような、今、ちょっとザッと言っていますけど、そういうやつを今、進めています。

奈葉 社交クラブみたいな。

アリアン そんな感じですね。何か、ちょっとおしゃれな感じにして、はい。

奈葉 はい、分かりました。ありがとうございます。

岡井 じゃあ、僕も一応、僕は岡井宏文と申します。早稲田大学の人間総合研究センターという所におりまして、日本のイスラムのいろんなことを研究しております。始めたのが、2003年なんです。のと、今、あって思った。僕、研究を始めたのが14、15年、13年か14年前ですね。

アリアン まだ3歳です。

岡井 やばいです。それがこんなですよ。だから、すごいその時間の流れにびっくりするとともに、こういう人たちが今、育ってきているんだなっていうことを何かちょっと感動とともに聞いておりました。私が長く話をしてもしょうがないので、皆さんが忘れてい

好きな食べ物だけ答えます。

一同 あー。ハハハ。

岡井 私、好きな言葉はスダマカーンっていう言葉なんですけど、マレー語で飯食ったっていうんですね。これも毎回聞いてもらって、僕、ご飯食べるの大好きで、モスクでもご飯を食べさせてもらっているんですけども、なんか、僕は多分、さっき美しいものでっていうことだったんですけども、僕は多分、おいしいもので導かれているのかもしれない、イスラムに。

奈菜 あー、そっかあ。

岡井 好きな言葉は、それですけど、ご飯はなんだろうな。僕、大阪出身なんですけど、お好み焼きとかたこ焼きが大好きでございます。もしよろしければ、一緒に。あと、中華料理も大好きです。きょうの懇親会、中華料理なので、皆さん、一緒に食べるの期待しています。よろしくをお願いします。

奈菜 えっ、ごめんなさい、今、聞いてなかったです。

岡井 えっ。

愛民 懇親会のところですか。

奈菜 そうです。

岡井 中華料理です、はい。

奈菜 ああ、分かりました。

愛民 あっメモするんですか。

一同 ハハハハハ。

岡井 メモ、ぜひぜひ。はい、じゃあ僕は。

愛民 ごめんなさい。僕も自己紹介をしそびれてしまいました。あそこでも少ししました



が、早稲田大学人間科学研究科のクレシ愛民です。そうですね。そんなに僕は長々と話をしてもあれなんです、好きな食べ物だけ言っておくと、12年前ですかね。少しイギリスに住んでいたことがあるんですが、ロンドンの、ロンドンモスクでしたっけ、セントラルモスクの地下1階で売っていたビリヤニ。

岡井 うまい、うまい、うまい。

愛民 うまい。ハハハ。

岡井 すごくおいしい。最高です。

愛民 この前、去年も1回行って来て、やっぱり10年ぶりぐらいにビリヤニ食べたんですけど。昔のほうがおいしかった。

一同 ハハハ。

岡井 本当ですか。言われて、僕も行ったんですよ。死ぬほどうまかった。お代わり2回しました。

アウファ そのためにロンドン行くの。

愛民 ぜひ、皆さんもイギリスに行ってみてください。はい、そうですね。先ほどの第1部の話とも少しつなげますと、かなり先ほど出たような話に触れる皆さんのご活動だったりとか、思いだったり、意見だったりもあれば、全く違った方向からイスラムやムスリムコミュニティの現在や将来を語る場所があって、例えば、私たちの親に当たるような世代がモスクを建てていたわけですけど、ここに座っているアリアンさんは、ムスリム、えー、何だっけ。

岡井 ラウンジ。

愛民 ムスリムラウンジ、ムスリムラウンジを建てると。きれいさの重視だったりとか、横のつながりだったりとか、そうですね、ネットの活用だったりとか、いろんなことが出ましたが、そうですね、第1部の話を聞いて、なんか、思ったことが特にあった方からいろいろとご発言いただきたいなと思っているんですけど、今、ちょっと視線で優平君に訴えかけているわけですけども。先ほど手を挙げてくださっていたので、何か、第1部の話を聞いて言えることがあれば。あつすみません、ごめんなさい、始める前に、先ほど、

言いましたけれども、フリートークのあれなので、自由に優平さんが話しているときにも突っ込んでいただいて大丈夫ですし、自由に会話できればと思っております。すみません。

前野 時間制限なしだから。

一同 ハハハ。

中村 ちょっとさっき、グフロンさんのちょっとお話を聞いて、心が浄化されたというか、空をこれから見たいなと思ってちょっと熱は冷めちゃったんですけど。

一同 ハハハ。

中村 名古屋モスクのお話を伺ったときに、私が九州に住んでいた時代、母がちょっとマシジドの週末学校で教えていて、私と妹とかで授業を手伝ったりとかしていたんですけど。そのときに、決して、1人で、なんていうんですかね、1人になることはあっても、本当は、スケジュール的に1人になることはなかったんですね。イスラームを任せられないっていう不安感っていうか、翻訳をしてもらいたいからとか、あと、実は、そこはちょっと後にして、実は名古屋モスクの一度、SYMっていう団体とのコラボのポスターが流れたときに、あっ、僕もちょっと2世のイベントを、教えるだけじゃなくて、2世で集まろうみたいな感じで始めたんですね。今年の3月ぐらいから。でも、そしたら、例えばポスターをつくって、ちょっと絵が入っていたら、それはハラームだから絵は消せとか、あとは、2世のイベントに介入してくる親。例えば、私、九州にいたときは、本当に2世同士が集まらなかったというか、お互い、誰が2世なのか分かってなかったんですね。結果的に10年間ずっと顔をマシジドで合わせていた人が実は2世だった、日本語ペラペラやんみたいな、おまえもなというのがあって、最初、マシジドの手を借りてしまったら、マシジドの親から介入されてしまって。例えば、ただご飯食べたかったのに、それが、ウドゥーの仕方を学ぶ会にしるとか、トイレの作法学ぶ会にしるとか、あとは、2世を信じ切れていない親がいて、例えば、何だろうな、日本人改宗、例えば、日本人のイベントに、2世の高校生とかがいたら、連れていってもいいじゃないですか。でも、任せられない。イスラムがちゃんとしていないからとか言われたりとか、あったりして。やっぱり、なんだろう、あっ、自分はじゃあ2世だからGoogle翻訳なんだと思って、翻訳だけに徹しようと思ったんですけど、駄目だったりとか。ああ、やっぱり自分も発言したいなと思っていても、がまん、がまん、がまんとかいうのがたまっていたりとかしたんですね。

あとは、マシジドの発言って怖くて、例えば、なんだろう情報があったとして、僕には教えてくれるのに、〇〇さんには言わないでねとか、何かみんなやっているの知らなかったとか、あとは自分が発言したこと、これがすごい怖かったのが、何か突然、いっぱい話

してくれて、例えば、君は、この本難しいと思うよねとか言って、でも、やっぱり日本人的に、あっ、そうですねとか言って、そうですねの発言が、実はその本を使って何かしようとしていた人たちの攻撃に使われたりとか。何か、そういうのがあって、なんだろう、代表者の方が悪いわけではない。代表者の方も人をまとめることはすごい大変なことで、なんだろう。もしかしたら、東京とか名古屋は人口が多い分、もっともっと経験を積んだ、そして、もっとオープンマインドの人たちがいらっしゃって、それでうまくイベントが回っていくのかなと思ったんですけど、ちょっと私のときは、もっと時期が早かったのかなとか、そういうのがあって。逆になんで、東京ジャーミイでは自由にある程度させてくれるのか、イスラムのイベントじゃないのに、あっ、イスラムのイベントか、すいません。ハハハ。なんか、コーランを開く会じゃないのに、モスクでやってもいいのかとか。

グフロン それはね、フフフ。もう聞かないでやっています。

一同 フフフ。

グフロン 何かをしていいですかって聞くと、あっ、これはこうだからちょっとやめたほうがいいとか言われちゃうのね。だから、ちょっと自分勝手に、少し怒られてもいいことしようかなっていう感じでやっていて、ポスターとかも、きっと問題になるかもしれないけど、自分なりにニュートラルな部分のものを作ってみて、あとから言われたら、どうにかすればいいかなとか、ていうふうにして。だからモスクで行うイベントとかっていうのも、「怒らないでふざけよう」と岡井さんに言ったことあるんですけど、怒られない程度にふざけようっていうのを何となく裏テーマにして、活動している感じもあります。そうすると人の心をつかむだろうし、楽しみたいと思っている人とか、なんかこう刺激がほしいって思っている若い子たちも来るかなって思うので。なんかこう、もちろん代表者とか、年配のかたがたっていうのは、理想的なことを若者にしてほしいっていう思いがあったりとかすると思うんですけど、クルアーンの勉強とか、もちろんそれが一番大事だしそれができればいいんだけど、そこまで到達できない子たちがたくさんいるからそれをこう引っ張るために、ちょっとふざけようって気持ちでやっています。だから、僕、ジャーミイでは多分、僕だからちょっとできているのかなっていうイメージはあるかな。だから、九州にもし戻った後も、ちょっとふざけて。優平君だったら全然できると思うんだけど、ちょっとふざけて、ギア4ぐらいにして、もう怒られる前提で動き出すといいかなと思います。すごいこれ悪いアドバイスだけど。フフフ。

愛民 今のだと、何かやろうとしても、上の世代が少し止めてきたり、ブレーキをかけてきたり、攻撃っていう言葉もありましたけれども、そういったことが行われることもあるのかもしれませんが、逆に例えば、何かをしようとしたときに、上の世代の人たちがかな

り協力的だったというようなご経験はどなたかあったりしますか。

一同 …。フフフ。

ファティナ 一応。一応じゃないけど。まあ、いっか。フォロー、フォロー。フフフ。難しいあれなんですけど、インドネシアのコミュニティーは比較的皆さんオープンマインドで、世代交代が早いっていうのもあるかもしれませんし、結構みんななんていうんですかね、クルアーンとハディースから外れていないことであれば、もう自分たち、その時代に合った伝え方をすれば全然大丈夫。なので、イスラムゼミとかでも、トークコーナーを始めたときに、じゃあ、若い世代の人たちに、しゃべってもらえませんかというのを提案したときに、いや、もう全然みたいな。今、もうがつつりヤングの人たちに司会をしてもらったりとか、そこでクルアーン読んでもらったりとか、あと、コーナーの進行もしてもらったりとか、こう、なんだろう、現場を踏んでもらって、やっている状況ですね。なので、あんまりなんだろう、私がこれをやりたいって言って、駄目って言われたことはあんまりないかもしれない。結構、みんなオープンにいろいろやっています。

グフロン なんか、いいですか。いつも妹と話すことがあるんですけど、イスラムのイベントって大体、NHK みたいな雰囲気だと思うんですね。

一同 フフフフフ。

グフロン 放送大学とか、NHK とかああいう感じ、報道ステーションみたいな、感じだと思うんですけど、もっとバラエティーみたいなものがあったもいいのかなというふうに思っていて。バラエティー番組みたいなジャンルの、ことでも話している内容は、すごく前向きなことで、健康的なことっていうのもいいと思うんですね。そういうのがどんどんどんどん増えていくといいなと思うんですけど。

愛民 ちょっと今の派生して一ついいですか。

グフロン はい。

愛民 今回、発表では取り上げなかったんですけども、ムスリムの友人何人いますか、ムスリムじゃない友人何人いますかっていうのをちょっと聞いていて、それぞれムスリムの友人のことをどう思っているか、例えば、安心するとか、新たな発見があるとか、いくつか聞いたんです。どのような関係か。

すると、ここでは取り上げなかったんですが、ノンムスリムの友人ものすごい皆さん楽

しさをを感じるんです。ムスリムの友人になると、すごく下がるんですね。楽しさを全然感じていないと。ムスリムじゃない友人は楽しい人たちだけど、ムスリムの友人は楽しくない友人たちだと。ただ、安心できるとか、いろんないいところもちろんあるんですけども、楽しさは少なくともない。あつ、ないと言うか、かなり少ない。非ムスリムと比べるとかなり少ないというところがあって、NHK、放送大学系のイベント以外のそういった交流だったりとか、イベントももしかしたら必要なのかもしれませんが、友人関係だったり、そういった楽しめる場だったりとかについて、何か皆さんご意見ある方いらっしゃれば、お伺いしてみたいなと思うのですが。

シャハラ ムスリムの友達でっていうことですか。

愛民 なんでも。

シャハラ なんか。

アリアン ああ、ごめんなさい。

一同 ハハハハハ。

愛民 大丈夫、誰も見ていない。

シャハラ 私はこの1年、関西だけにとどまらず、福岡とかもお邪魔させてもらったんですけど、福岡、東京、千葉とか、埼玉、名古屋、行かせていただいて、こう関西の外に出て、いろんなムスリム、ムスリマに会ってみたいなと思って、SNS とか友人、友達紹介を通して、実際に自分で足を運んで、いろんな人に会いに行きました。

なんか、ただ、ここのこの会議に出席する方って、割とコミュニティーに入っている方だと思うんですけど、やっぱりこういうコミュニティーがあること自体知らない人だったり、なんか、モスクも、なんか親はムスリムだけど、自分はブディストみたいな人だったりとか、いろんな人がいて、なんかでも、そういう人たちと出会う中で、なんか、自分を通して、私そんな大そうな人間ではないんですけど、イスラムをすごい勉強してきたとか、そういう知識がすごいあるとかじゃないんですけど、なんか、その人たちの一番最初のムスリムの友達に、なんか、自分を通してイスラムを知ってほしいなっていうのと。あとは、今回もその友達同士をつなげるといふか、福岡で出会った友達、ムスリムの友達と、東京で出会った友達、この子の考え方とかをすごい合うなとか思ったら紹介して、こうつなげてみたりとか。そうしたら、なんか、そこからまたその子がムスリムの中にどんどんどんどん入っていけるようになったりとか。なんか、いつも友達と言っているんですけど、2

世って3種類いるなって思っている。一つ目がもうイスラムから離れている人たち、二つ目がイスラムから離れたけど、何かのきっかけで戻ってきた人たち、三つ目が、ずっとイスラムを信仰し続けてきた子たちがいて、やっぱりなんか信仰度合いがみんなそれぞれ違って、同じルーツを持っていても、信仰度合いが全然違うから、なんかそこでうまく分からないな、なんか、言いたいこと。

奈菜 いやなんか、なんだっけな。シャハラちゃんも見ていると思うんですけど、Twitter やっていて、Twitter 結構絡んでいるんですけど、中で。1回、もめたんですよ。2世同士で。あまり細かくは割愛しますが、なんていうのかな、病んでいる2世の子って結構、多くて。ある1人の若い女の子が、なんか、出産とか子どもを産むっていう行為はエゴだよって言うふうにその人自身のなんか、自己中な判断だよって言うふうに言っていて、なんか、私は、そのとき、なんていうか、自分はずっと、2世として、子どもでもあったし、親にもなったし、中立な考えができるわけじゃないですか。なんていうか、彼女の気持ちすっごい分かるので、なんか、親からどんな仕打ちを受けてきたのか、ちょっと分からないんですけど、ちょっと親を憎んでいるっていうか、恨んでいるっていうか、それも私も多少ありますし、慰めるつもりで、あなたはアッラーに望まれて生まれてきたんだよって言いたかったんですけど、これがちょっと通じなかったんですよ。信仰の度合いっていうか、彼女は多分そのとき、こう、ちょっと低くなっている。もともと高めなんですけど、でも、低くなってしまっているときに、私の何かこの辺ぐらいのレベルから、こううわって言っちゃったので、それでちょっとめめちゃったんですよ。なんかもう上から目線でなんなのみたいな感じで嫌われてしまって。なんかその度合いが違うって言うところだね。

シャハラ そうですね。そういうやっぱり信仰度合いとか、ルーツ同じでも、信仰度合いが違うって言うことで、まとまりが、理解し合うのが難しいなと思う一方、やっぱり親世代と何が一番違うのかなと思ったときに、親世代はやっぱりその文化で生きてきた。そのときそのときの文化で、スリランカだったらスリランカ、インドネシアだったらインドネシアの文化で。文化がそもそも違うから衝突って言うのは分かるんですけど、私たちはやっぱり日本の文化をもっていて、日本語を話して、日本で育ってきていて、共通の部分もたくさんあって、なんていうんだろう、なんか親世代が衝突をしても、やっぱり子どもたちは、それに、第2部の話になっちゃうかもしれないんですけど、親が、何人はこちらだからとか、何人はこちらだからって言うのは、私たちには全く関係ないというか、私、個人的にはすごく思っている。自分たちは、確かにルーツはそうだとすると、中身はほぼ日本人に限りなく近くて偏っているんで、そういう部分はすごい共通なところがあって、やっぱりこう会っていく中で、やっぱり1人でもムスリムの友達がいるだけで、イスラムのコネクションって言うんですか。つながりが、ちょっとでも持つことがすごい大切なのじ

やないかなと思って、それが、やっぱり次世代に与えられた使命とまでは言いませんけど、はい、そういうのはすごい感じます。

奈菜　なんか、私ちょっと思うところがあって、その私が学生だった時代って、同じクラスとか、もう同じ学校にムスリムの子がいるっていうことはなかったんですね。私、1人だけがムスリムだったんですけど、なので、ずっと友達は、ノンムスリムが多くて、つい、5、6年前かもうちょっと前ぐらいから、ちょっと離れていたイスラムに興味を持ち始めて、ちょっとムスリムのコミュニティーに入ってみようかなって思って、そこからちょっと友達ができてきたんですけど。ただ、さっき質問していた、ムスリムとのつき合いで、安心する部分とそうでない部分っていうのがあって、安心する部分っていうのが、神様の話をしても、いや、なんだこいつやべえなって思われることはないっていうところかな。

ただ、不安っていうのが、ちょっとお互い、ジャッジメンタルになっているところがあって、例えばなんですけど、友達数人の中で、ヒジャーブ取っちゃった子がいて、私、別にそれはいいと思っているんですね。なんか、なんかあったんだろうなって思うし、本人の自由だし、なんですけど、このヒジャーブを取っちゃった彼女が、えっ、あの人って、礼拝していないの、それ駄目だよねとか言っていて、あれっと思って、なんかちょっと違うなって。なんかそういう相手とだとあまり本音であまり自分の信仰の話っていうのができないなっていうふうに思いました。なんかありますか、そういうこと。似たような感じが。

中村　例えばお祈りのときとか、むっちゃ時間がきたらすぐする人と、全然、あとギリギリにするとかいるじゃないですか。ギリギリの人に囲まれたときの場合、私がいつもやるっていうわけじゃないんですけど、囲まれたときに、この人たちはギリギリにするのか、それともお祈りしなくても気にしない人たちなのかっていう葛藤はあります。

一同　ハハハハ。

中村　その中で、あっ、ごめん。お祈りしないといけないってなったときに、はっ、おまえ、いいムスリムやなあって、何、ブリッ子ぶっとんみたいな。

奈菜　ああーわかる！

中村　でもアッラーが怖いよね。ああー！みたいな。

一同　アッハハハハハ。

愛民 今、ファティナさんめっちゃあるって言ってましたよ。

ファティナ 私は、マレーシアにも住んだことがあって、インドネシアも大学4年間住んでたこともあって、どこでも同じです、それは。なんか、もう、礼拝するだけで、ブリッ子しているとか、私はヒジャーブを、小学校6年生、ああ中1か、中1のときに付けたんですけど、それも自分から付けたんですけど、すぐに周りからいじめられて、それはマレーシアの学校のことで、なんか、ムハッジって分かります？ハッジに行ったおばさんみたいな感じで、すごいいじられて、でもやっぱり、悔しかったんですけど、それをこう親に話したときに、父は、それはもうアーミンって言えばいいんだよみたいな、ハッジに行きますようにみたいな。そう理解の仕方すればいいんだよみたいな。私は日本で幼少期に過ごしたので、クルアーンの読み方がまだ日本人みたいな、日本人みたいって言うと失礼なんですけど、あまりちゃんと読めなかった時期があって、それをインドネシアに一時帰国したときに、モスクの先生から、近所の子どもたちの目の前で、もう、なんか、マレーシアに住んでいるくせに、そういう読み方しかできないのっていう。

奈菜 えー。あり得ない。

ファティナ ことを、大々的にみんなの前で発表されて、もうもちろん悲しかったし、でも、今ではアルハムドゥリッラー、それは、自分の一つのバネになっているというか、そういうことっていろんな場所でもあると思います。私は本当に家族が一番サポートしてくれたのが大きくて、モスクでの事件があった後も、私はモスクに行かなくなって、でも、そこはおばあちゃんが、あなたができることは何っていう感じで聞いてきて、何が好き、私、本を読むこと、文章を書くことが好きで、だったらそれで表現してみればって言って、じゃあ何がそれできるんだろうって考えて、ええと、台本を書いたんです。劇の。

ナブースレイマンアライヒッサラームに関する台本を書いて、近所の子たちを集めてこういう劇をモスクのイベントのときにやりませんかって自分から、小学校3年生のもう今で思うと、ちょっとそんなことを考えていたんだとか、自分で思い出しながら、それもモスクでやって。今、26なんですけど、もう十何年間たった今でも、やっぱり地元に戻るとあのとき良かったねとか、やっぱりあれがきっかけでモスクでのイベントがこう少しずつ変わっていくとか、やっぱりそういうのって、どこにでもある話で、私の場合は、アルハムドゥリッラー、家族がそれを強制せずに自分の得意なことで、なんか、クルアーンがまだ読めないとか、礼拝がまだちゃんとできないとかっていうよりも、自分は、なんていうの、信仰心を持ってそれを表現できるのであれば、それを理解する権利はあるし、人に伝える義務もあるし、そういうのをやっていったらいいんじゃないかっていうのはいつもあって、自分はジャッジされた側なので、ジャッジされた人がいると、私は、やっぱりその人をなるべくサポートするようにはしています。



日本でも特に改宗された方とか、若い子たちとかでも、この間、モスクでも会ったんですけど、すいません、長くなっちゃって、モスクでちょっと、いつも顔なじみのお母さまがいて、なんか、ちょっと元気なさそうだったので、声を掛けてみたら、勉強会どうですかって聞いてみたら、勉強会に行けなくなりましたと、厳しすぎる、私にはできない、私は無理だって、もう泣きながら、ごめんなさいねって、なんで私に謝るのか分からないんですけど、ずっと泣きながら、私に謝って、やっぱりそういう人たちって、もうたくさんいて、私は、それはできないことはない。もちろん、アッラーが与えてくれた試練なので、必ずあなたはできるし、それは自分のペースでゆっくりやっていけばいいしっていうことを伝えて、別の勉強会に、ちょっと優しい、前野先生の勉強会とかそういったものを紹介して、なるべくモスクから離れないようにっていうのを心がけています。なので、それは日本だけじゃなくて、なんか、いろんな国であり得ることで、ただ自分は人に対してどうするのかっていうのを、もっとみんなで考えてやっていったらいいんじゃないかなって思いました、はい。

グフロン ジャッジメンタルな話で、一つ思い出したことがあって、モスクで、働きながら思った、気づいたことがあるんですけど、見学者の中学生とか高校生とか大学生の方が毎回聞くのが、お酒を飲んでいる人はどうなるんですかって、お酒飲んでいる人いますよねとか、じゃあ、ヒジャーブ付けていない人っているんですけど、あれどうなんですかって聞かれるんですね。そのとき、僕、いつも人それぞれ人生があって、それぞれに、こう、超えていかなければならない試練っていうのが与えられていて、人それぞれにステップがあるんだよっていうのを説明するんですけど、そういう話をこうノンムスリムの人としていく中で気づいたことが、本当にムスリムってすごいいろんな種類の人がいるんですよ。

パッと見、やっちゃいけないことって、お酒飲まない、豚肉食べない、ヒジャーブを付けるとかって、目に見えることっていうのはジャッジしやすいんですけど、本当にすごいたくさんの要因があるんですね。きっと神様が僕たちをこう試練にかけてテストしている要因ってすごいたくさんあるんですけど、僕たちはその見えることにしかフォーカスをしていないから、結構、ジャッジメンタルな感じになっているのかなっていうふうに気づき始めて。ていうのは人って自分の人生しか歩めないですよ。生きてから生まれた環境で、どういうふうに過ごしていくかっていうのは、その人にしか分からないし、同じものを見ても、自分と同じように見ているかっていうのは、絶対違うように見ているし、うれしいとか悲しいとかっていう感情も絶対人それぞれ違うんですよ。

だから、お酒を飲まないっていうのが、その人にとってどれぐらい難しいことなのかっていうのは、生まれた環境とか生活している環境によっても変わってくるし、ヒジャーブ付ける、付けないっていうのも、その人にしか分からない葛藤、悩みっていうのがあって。だから、本当はもう人それぞれ人生があるから、人の人生や人の信仰っていうのをいちいち気にして、それにとやかく口出しをすることは、人間に与えられている権利ではないっ

ていうふうに、思ったんですけど、はい。なので、次世代の穆斯林に、こうなってほしいっていうのは、すごいろいろな種類の人があるので、自分の信仰だけを見つめて生きていてほしいなっていうふうに思います。自分も、僕自身もできないことがたくさんあるし、前はできたけど、今はできないことってあるし、だから、自分の中で、こう自分の最善の自分を追求していだけでも精いっぱいだから、人の信仰に口出している暇はないんですね。だから、みんな絶対そうだと思うから、あの人がヒジャーブ取った、じゃあどうだって言える資格ないんです。その人の心のうち知らないから。

愛民　すごいうなずいていましたね。

一同　フフフ。

グフロン　知らないから、絶対に、分からないから。穆斯林、ノン穆斯林関係なく、もう人それぞれが自分の葛藤とか、自分の生まれた環境とか、もういろんな問題を抱えて、こう何億人の、何十億人の人間が、同じ社会で生きているっていうだけでもすごいことだと思うので、もうそれぞれの人を尊敬してほしいと思います。もうすごい葛藤の中にいるんだろうとか、すごい、今大変なんだろうなというのを理解して、接してあげてほしいなって思いますね。次世代の穆斯林には。

愛民　角岡さん。

角岡　すいません。さっき話題になった、穆斯林の友達と非穆斯林の友達との関わり方っていう話で、ちょっと私の経験談なんですけど、ちょっと子どもがいる身でこんな経験っていうのも恥ずかしい話なんですけど、ちょっと私がさっき話したように、主人の転勤で、愛知に引っ越して、全く新しい環境に移ってから、うちテレビも置いてなくて、外との関わりを持つツールがあんまりなかったときに、子育てしている中で、自分の気持ちを少しでもこう明るく保つためには、何かしら楽しみがないと大変なんですね。

なので、ラジオ聞き始めたんですけど、ラジオがすごくいい気分転換になって楽しくなって、だんだんラジオのリスナーさんたちと、このラジオ、Twitterでの参加型のそういう番組だったんですけど、Twitterでリスナーさんたちとも仲良くなりたいなって思い始めるようになってしまって、もともとTwitterやっていた本アカと、別にラジオ用にサブアカというのを作ってしまって、そっちでつながるようになって、だんだん、なんていうんですかね。穆斯林じゃない、そっちのリスナーさんたちとも関わりが、すごく自分も楽しくなってきてしまって、そっちに重きを置くようになってきて。気づいたら全然穆斯林の友達とたくさんつながっていた本アカは全く見なくなってしまって、そっちが、使用頻度がすごく多くなってしまって、でも、なんていうんですかね。やっぱり自分は、ち

よつとした気分転換のつもりで、本当になんか、私は前から知っている人たちが知ったらびっくりするぐらいの、本当になんでもないくだらない話ばかりしているんですけど、自分は本当に気分転換のつもりで、そういうムスリムじゃない友達と関わっているつもりだったんですけど、やっぱり中身のない、そういうことを言うと相手には失礼かもしれないですけど、そういう中身のない会話とか関わりっていうのをたくさんしてしまうと、やっぱりだんだん、自分の中が空っぽになっていってしまうっていうか、同じ信仰を持つ友達とできる会話と、ムスリムじゃない友達とする会話っていう、この自分の中にできてしまった、その二面性っていうのにすごく悩み出してしまって。なんか、信仰自体も、少しなんか、そんなすごい深刻な話じゃないんですけど、少し信仰の状態も自分がちょっと不安になってきてしまうレベルにまでなっちゃうんですね。

多分、今、小学校、中学校、高校って通っていて、周りにムスリムじゃない友達に囲まれて生活している二世の子たちっていうのも、そこの葛藤はすごく大きい子たちがいるんじゃないかなっていうのがあって。ムスリムの友達ともそういう何でもない話をできる関係の友達がいたら、多分、一番いいんだと思うんですけど、やっぱりなんかどこか、そういうくだらない話とか、中身のない話っていうのは、なんか、タブーとされているような空気があるのが、ちょっと問題、問題っていうか、ちょっとした障害になっているんじゃないかなっていうのがあって、ムスリムの友達とか、モスクに行ったらある程度のマナーは必要でしょうけど、なんか、堅い話をしなきゃいけない、しっかりした話をしなきゃいけないと、なんかそれが、そればかりが求められているようなところがあるんじゃないかなっていうのは、すごく、今、思い出して、感じていました。

グフロン　なんか、ここの1年で、結構ムスリムの友達増えたんですけど、増えた理由がやっぱりふざけた友達が多いから。

一同　フフフ。

グフロン　だから増えたのかなって思って。じゃない、やっぱりすごい大事だと思いましたね、ふざけた友達が。ハッハッ。たくさんいるのがいいなと思って。礼拝はするときはもちろん真面目に礼拝するけど、礼拝しないときは、全然、男子トークとかもするし、女子は女子で女子トークするし、なんかそういうのすごく大事だと思います。普通の人間だから。

角岡　私も主人にも相談したんですけど、やっぱり普通にムスリムの友達とそういう話をすればいいじゃんって言われるんですけど、いや、絶対そんなことはできないって、フフフ。どう思われるか分からないし。ハハハ。

奈菜 えっ私として。全然問題ない。アハハハ。

アウファ むしろ、全然そういうムスリム友達が欲しかった。

角岡 なんか、そうですね。そういうちょっとした気分転換ができるぐらいのなんか、そういう軽い関係を。

奈菜 しよしよ、アハハハ。

角岡 なるといいんじゃないかっていうのがすごく。

林リダ 姫奈さん、一ついいですか。私がちょうど中高生だったころに、姫奈さんと一緒にサイトを運営していたと思うんですけど、そこにいた子、私のちょっと上ぐらいの高校生の子たちと、私、ずっとくだらない話でずっと Skype していました。なんで、全然できると思います。入って来てもらえれば、うれしいです。

角岡 はい、ありがとうございます。

アリアン 今の話にちょっと乗っかってって感じなんですけど、結構、なんか、第2世代、僕はどちらかというと、今、第2世代というか、親世代に対しての文句というか、相互理解をしたいなというふうに思っていて、きょうは、今、結構、黙っているんですけど、第2世代に関しては、これだけはちょっと言っておきたい、こっから派生するといっぱいいろんな問題が出て来るんですけど、基本、僕 Twitter のほうとか、Twitter とかインスタやっているんですけど、今、さっき言っていた、二面性、普通に会ったときに普通だった子が、もう普通ってというのが、本当にもう親しみやすい感じの人が Twitter になった瞬間、コロって変わるんです。コロって。それが第2世代にすごくあるなって感じていて、それで、僕らどちらかというと、ケーススタディーっていうか、結構、何人かにちょっと、さっき、三つのタイプがいるっていうふうに言ってたんですけど、僕の中の三つのタイプっていうのは、すごくイスラムからなんだろう、離れている、いや、めちゃくちゃイスラム系の人と、めちゃくちゃなんだろう、普通の人、そこら辺から見たら、普通のハーフの女子高生とか男子高生とか、そういう系の人と、すごく葛藤している人、その葛藤を、多分、ぶつける場所がないから、Twitter とかそういうものになって、それがすごい、こうなんか、拡散が、Twitter って拡散力だと思うので、それはいい、いいことはいいんですけど、中にはなんか、日本人、皆、何か日本人に言われて、それを、なんだろう、あるグループって言ったらいいいのか、ある集団じゃないんですけど、Twitter のある境目の人たちを見て、あっ、ああいうのがイスラムなのみたいになっていう人たちがすごく

て、それが日本人から見られたら、日本人に対しての自分たちはいいイメージ、ネガティブなイメージを発信しちゃっているよっていうのと、結構、普通の子高生、男子高生のムスリムの人たちにも言われて、あそこには入りたくないって、そういう人たちがすごく多いんですよ。自分も周りの友達に言われたんです。そういうのも言われたし、でも、結局僕も Twitter の中にいる、今、さっき病んでいる人って言ってましたけど、ああいうのもぶつける場所がないから結局そうなっちゃっていて、だからそういうのをちゃんとなんか、もうちょっと第2世代で組織化っていうか、ごめんなさい。

奈菜 大丈夫です。大丈夫です。

アリアン そういうふうななんか、うん。

奈菜 あっ、ごめんなさい。気になるのが、キャラが変わるっていう具体的にどう変わるんですか。

アリアン えー。

グフロン 死ねー！とか言ったりするのかな。

奈菜 ハッフッフッフ。

アリアン なんか、普通だった子が、普通だったっていうか、それがみんな多分普通なんだろうけど、ええと。

グフロン 分かんない、もしかしたら、アリアンに、それを見せていないだけかもしれない。他の子の前では…。

アリアン そう、それだったらいいんですけど。それだったらいいんですけど。

奈菜 あっ Twitter のほうが本音って感じ？

アリアン 本音っていうか、どっちが本音だか分らないですけど、なんかすごいネガティブになっちゃうんですよ。ネガティブで、全てに対して、親への愚痴とか言ったり、それで多分何人か多分、なんか、もめているなっていうのを見たことがあるんですけど、Twitter でも。なんか、親への愚痴を言う、言わないとか、そういう、なんだろう、それが、結局、外部の人からみたら、それがもう、一つのなっているから。

林リダ 公開だもんね。

アリアン そう、そうですね。だから、なんか。

グフロン イスラムの印象が悪くなる。

アリアン イスラムの印象が、ムスリムの内部でも、そして日本人からしても、さっき言ったようにさっきの話もちょっと乗っかってって感じで、はい、思いました。それだけです。

グフロン なんか、イスラム離れっていう言葉がすごい気になるんですけど、なんかイスラム離れってどういう定義なのかなと思って。その人が礼拝しなくなっても、ヒジャーブを取ってもイスラムですよ。ムスリムですよ。その人が神様を信じていれば、まだイスラムだし。なんかイスラム離れって言うときって、ある程度ジャッジメンタルな目線で言っている気がして。あっ、あの人ちょっとイスラム離れちゃったねっていうことを言ってしまうと、もうそれで終わりの気がして、その人の中に、もしまだこう、アッラーがいて、もうこれからどういう道を歩むか分からないけれども、きっといろんな試練を乗り越えて、もしかしたら戻ってくるかもしれないし、1 ミリでもまだ神様がいるとしたら、僕たちは、イスラム離れしたねとか、イスラム離れという言葉でそういう人たちに対して言うべきではないと今、ちょっとふと思ったんですけど。なんかイスラム離れとか、イスラムに戻るとかっていう言葉を使うと、もうすごく信仰っていうものが白か黒しかないので見えてしまうんですけど、本当はすごく灰色なもので信仰って、その人の心の中で、どういうふう生きてきたかによって、死んだ後に神様がジャッジするので、白か黒かっていうのをはっきりさせてはいけないような気が、今しました。

シャハラ なんか、イスラム離れって、私も結構、そのイスラム離れとか、イスラムをやめたいって感じが、なんか愛民さんよく、そのイスラムから離れてまた戻ってくるっていう、その離れたっていう状態がどういう状態なのかっていうのをすごい考えていて、アッラーを信じていたら、それはもうずっとイスラム、ムスリムのままんじゃないかって思っていて、ええと、何言おうとしたのかな。

奈菜 なんか、この間ちょっと Twitter で。

シャハラ そうですね。

奈菜 離れたいみたいな。やめたいみたいな。

シャハラ フフフ。それ言います？

一同 ハハハハ。

グフロン あっもしかして、あなたでしたかって。ハハハハハ。

奈菜 いや、なんか、私もなんか重なったから。

シャハラ 私は、昨日、あるムスリムの友達と話していて思ったのが、アリアンのそのネガティブな方向にいきそうな人の1人なんだけど、SNSで。フフフ。

一同 フフフ。

シャハラ なんかその自分でジャッジメントをしているんですよね、私は。

グフロン ああ、自分自身で。

シャハラ なんか、周りに言われたわけじゃなくて、だけど、ヒジャーブをしているのがいいムスリムとか、毎日礼拝時間通りにするのがいいムスリムとか、すごいそれで自分でジャッジメントをしていて、だから、最近、ヒジャーブをちゃんとしていないなとか、ちゃんと礼拝していないなとか。

グフロン でもそれって多分、自分でジャッジメンタルしてしまうっていうのも、神様からのギフトだと思う。

シャハラ あー。

グフロン なんかそれを通して考えるし、自分が嫌いになるとか、死にたいとかって思う気持ちも含めて全部もう与えられた試練で、それを通して、こう気づけ、気づけっていうふうになんかずっと送ってもらっているものだから。

シャハラ そうですね。イスラムから離れたっていうよりも、あっ、なんか、自分が今、アッラーから離れているなっていう。なんかそれこそ、大学の飲み会とか、いるのがすごいつらくて。みんなお酒飲んでいて、なんかそういうお酒とか飲んでいないけど、そうい

う場にいるだけで、なんか、アッラーからすごい怒られているような気がして、アッラーから離れている行為をしているんじゃないかって思って、それですごいネガティブな、それをどこにぶつけたらいいか分からなくて、それで Twitter につぶやくと、みんなが分かる、分かるみたいになって言ってくれたり。

奈菜 分かる分かる。

シャハラ グフロンさんもいつもなんか、Instagram でこう結構、それはアッラーからのギフトなんだよって言ってくれたりして。

愛民 さすがっ。

グフロン ハハハ。

シャハラ 私は結構、この SNS でネガティブに発言することで、確かにノンムスリムの子たちから、シャハラ大丈夫みたいな、いつも大変だねみたいな言われるんですけど、でも、結構、私はその SNS を通して助かっている部分もあります。すごく、はい。

愛民 逆に SNS 上じゃないと今の角岡さんのお話、いろんなお話がありましたけれども、SNS 上じゃないとそういったものをはき出せる場所がないってということになるんですかね。

奈菜 あっ、いや、多分距離があるので、大阪に住んでいるとか、名古屋に住んでいるとかあるので、なんか、SNS がなんか、主になってるんじゃないかなって思うんですけど。

アウファ 私の場合は、きょうだいでワッって毎日のように。

グフロン もうきょうは来るとき、電車の中で、ワッって。

一同 フフフ。

アウファ 電車の中で。LINE とかでも。

グフロン ワッって言ってますけど。

奈菜 あっ、でもそうですね。私も、やっぱりそのはき出すって言い方はあれですけど、だんなさんが多いです、すごく。だんなさんは、割と結構共感してくれるので、そこ



でちょっと救われている部分は大きいかなって思っています。

林純子 一つ思ったのが、ちょっと気になったのが、なんですかね。ムスリムが外からどう見られているのかっていうのって、気になるところだと思うし、全体からいうと、そこを気にしたいところだろうなと思うんですけど、でも、逆にそれは私たちっていうか、特に若い世代が一人一人が背負う必要はないんじゃないかなって思ってるんですよ。

なんか、私はムスリムだから、こう見られなきゃいけないとか、それってすごく大変じゃないですか。この日本の中でマイノリティーのムスリムとして育ってきて、生きているっていうだけでも大変なのに、それを隠して、外からよく見られるためにこうしなきゃいけないっていうのって、ちょっと、もうトゥーマッチっていうか、そこまでしたら、多分、そのもう、何をやっているのか分からなくなっちゃうと思うので、そこをあんまり気にしなくてもいいんじゃないかなってというのが、私のちょっと感想と、あと、ちょっと話がずれちゃうかもしれないんですけど、こうなんだろう。多分、話の前提として、第1部からなんですけど、モスクに来なくなったらイスラムから離れているのかっていうところ、それって必ずしもそうじゃないとは思ってますよね。

モスクに来ることが、いいんでしょうけど、でも別にモスクに行かないからってムスリムじゃなくなるわけじゃないし、それこそ、その人が家で礼拝していればそれでいいわけだし、なんですかね、礼拝していなくてもそれはそれでもう個人の自分の状態なんだと思うので、いいんだと思うですよ。

それは、なんだろう、こうあたかも、あの、えっと、フフフ。えっと、ちょっと、あの、その、なんですかね。

岡井 あれっ。

一同 フフフ。

林純子 こうイスラムに近いほうがいい、最終的にやっぱり個人の幸せっていったら、近い方がいいんじゃないかなって個人的には思いますけど、それをこうみんな離れているから戻そうよみたいなものって、なんか、お父さんがたの関心事としては、なんか分かりますけど、若者がそれをこう自分たちの世代の中でやるべきなのかなっていうのは、本当に。

奈葉 あっそれめっちゃ分かります。

一同 アハハハハ。

奈葉 なんか、私、ずっと思っているんだけど、いや、私それすごい分かるんですよ。な

んか、私ちょっと、うん、もう、イスラム分らないんだよねとか言われても、あっそう、みたいな。

グフロン そう、だから、なんか子どもが離れていくんだけどどうしようって相談されることもあったりして、親に。第2世代で、親が両親がインドネシアで、日本で育ったのに、きちんと礼拝して、イスラムを信仰している若者として見られて、そういう形でこう相談されることとかあるんですけど、別に子ども今、離れていってもいいじゃんっていうふうに思うんですね。別に離れたあとに、その子どもが自分の人生をこう何かしらの形で歩いていって、もし親に会いたいとかイスラムに戻りたいって思ったら、きっと何かの形で戻るし、それは、神様が計画をしていることだし、なんか1回子どもが離れていくからって、友人が離れていったからって、そこで自分たちが、こう、もちろんその引っ張るために自分たちの(聞き取り不可)を見せて、イスラムってこんな素晴らしいんだよっていうのは、見せますけど、でも、こうどうしよう、どうしようっていうふうになる必要はないんじゃないかなっていうのは思います。

中村 でも、大切な友達とか、大切な家族とか、愛している人、愛しているからこそ、頭で考えられなくなっちゃうし。だって、もし今、イスラム教信じない、アッラー信じない。交通事故きて死んじゃった、地獄行っちゃったらどうしようとか、お節介ですよ、もちろん、アッラーが決めることなのは、1億何万倍も分かっているんですけど、一億万倍も分かっているんですけど、なんか、やっぱり愛しているからこそ、今、すぐ、ね、入ってほしいっていう気持ちはやはりあるのかなと思います。

林リダ ちょっと子どもの立場に立って考えてほしいんですけど、私はそんなにイスラムから離れたいとか、そんな思ったことがないので、分かんないんですけど、子どもが離れたいって思うときって、一番つらいのって、親じゃなくて、その離れてしまう子どもを見る親じゃなくて、子ども自身だと思えますよ。子ども自身が親はこう言っているけど、友達とか周りの人たちを見たら、もう自分で信仰するのが嫌だとか思っている。その葛藤が一番かわいそうだと思うんですよ。だから、離れてもいいじゃんとは、私も思わなくて、だからといって、強制するのも違うと思っていて、今、モスクで来ている子どもたちを見ていて、どういう瞬間にイスラムから離れたくなるのかなっていうのを考えたときに、大体みんな、自分と周りの友達が違うっていうのを認識したときだと思うんですよ。モスクで1回あった話があるんですけど、ある小学生の女の子が、体育のときに、体育って体操着をはくじゃないですか。

なんですけど、女の子なんで、自分だけ長い洋服を着ていたんですよ。それを、友達に笑われて、それがすごく嫌だったっていう話を相談してくれて、それを聞いたときに、あっ、やっぱり自分と他人が違うっていうことをすごい感じて、嫌になるんだなと思ったん

ですけど、私は、それは全然悪いことじゃないだよ、自分と違うけど、ここにいる子たちは、みんなあなたと同じだっという話をしたときに、その子、その話を聞いて、すごいモスクに来るのが好きになったんですよ。

なんかそういうふうに、なんででしょう、それでもやらなきゃ駄目だよっていうんじゃないなくて、なんかそれは悪いことじゃなくていいんだよっていうふうに言えば、そもそも子どもって離れていかないのかなっていうふう感じて、そういうふうに悪いことを悪いっていうふうに言っていくんじゃないかって、やっていることを肯定していったらあげれば、マイノリティーの文化がどんどんマジョリティーに変わっていくんじゃないかなっていうのは感じました。

奈菜 でも、全て肯定できないよね。

林リダ なんか間違っていることを導いてあげる必要は、もちろんあると思います。

奈菜 難しいね。

愛民 なんか、戻るべき場所みたいなのが、ムスリムのコミュニティだったらいいなって今、思ったんですけど。親もそうだし。だから、例えば問題があって、なんか、親とけんかしたいみたいな状態でも、分かった、じゃあ、焼き肉行こうみたいな、なんかこうその話は置いておいてって感じで、こう、戻っていいんだとか、戻るべき場所みたいな感じ、こう愛情をもちろん離れていったあとに、離れたけど、アッラーの契約だから、放っておくのではなくて、涙を流して、夜、礼拝をするだろうし、親としては、もう子どもが戻るようお願いをするだろうし、ただそこで、これだから駄目だからっていうと、居心地悪くなっちゃうから、いつでもこう戻るべき場所として、ムスリムは友達とかを常にウエルカムして、親が子どもをウエルカムしてっていう状態であるのが理想なのかなと、きれい事になってしまうかもしれないんですけど、それができるのがいいなと。

奈菜 肯定するって役割をなんか、親がしてくれたらいいなって私、いつも思ってた。例えば、私、こういうスタイルのヒジャーブしているじゃないですか。私には理由があるんです、こういうスタイルをしているのは。もちろんこういう感じのをしたいんですけど、ただ、なんかムスリムだけど、カバーできない。ちょっと抵抗があるって人がいるから、じゃあ、これだったらいいんじゃない。髪を隠す、隠しているし、ちょっと首が見えているけど、まあそれは徐々に慣らしていけばいいんじゃないかなって思って、あっ、これだったら、すごいなんかやりやすい。なんかそんなに、周りに溶け込めそうみたいな、なんか、ポジティブな意見が出て来たから、私、こういうスタイルをして、なるべく、なんかこう推奨っていうか、あとは、自分たちでどんどん工夫していったらいいんじゃない

かなって思ってるんですけど、やっぱり残念ながら、私の母が全くそれをサポートしてなくて、なんかカーフィルとばっかつき合っているから、あんたそうなのよとか言われて、みたいな、それ関係あるかなとか思って。いや、でも、私、なんか、こういうスタイルじゃないと駄目なのよって言ったら、人間ってやっぱどうしても強要されると、ウウツってなっちゃうじゃないですか。なんか、嫌だって。

グフロン 僕でもそうですもん。親にきょう、クルアーン読んだのとか言われたら、言われなくても読むよ、みたいな。

奈菜 そう、そう、そう、そう、そう。

グフロン キーってなりますもん。

奈菜 なんかむきになっちゃう、そう。

グフロン この年でも。

奈菜 なっちゃうし、それってもう多分おっさんとかになっても多分。

グフロン なっても多分、うーん、そう。

奈菜 同じだと思うんですよ。おじいちゃん、おばあちゃんじゃないってもう。

シャハラ 宿題やってきなさいって言われたときに、今、やろうと思ったし、みたいな感覚で。

グフロン そう、そう。靴下とか、床に落として置いとかないでとか言われたりすると、言われなくてもやるよ、みたいな。

奈菜 そう、まさにそんな気持ちで、いや、あのね。ちゃんとこれには理由があって、私は、もっといろんな人に、特に女の人に、こう頭かぶってほしいんだよって言って、これが近道になるんだったら、別にいいじゃないって言っているのに、もうあんたは地獄に行くとか言って、えーみたいな。で、あのすいません。今、実はうちは、親と没交渉中なんです。私の活動に全く理解を示してなくて、ちょっと今、親とはあまり仲良くないんですけど。なので、こういうところで参加して、何かしらこうなんか、どうにかならぬかなっていう気持ちで来ているんですけど。

グフロン うん。ああ、僕。分かる。多分奈菜さんが、親を受け入れればいいんじゃないですか。

奈菜 そう、そう、そう。だから、なんか親がサポートしてくれたら、ちょっと違うんじゃないかなって思うんですよねえ。

リーム 奈菜さんのお母さんは、日本人の方ですか。

奈菜 あっ、違います。あの、アラブ人です。

リーム お父さんは日本人？

奈菜 お父さんは日本人でした。

リーム お父さんはなんか言われたりするんですか。

奈菜 いや、お父さんは改宗ムスリムだったので、なんていうか、割と他のいろんな宗教も勉強してきた人だったから、結構オープンだったんですね。なんか、あなたがそうしたいんだったら、いいよみたいな。

ただ、男性関係とかになると、結構厳しかったんですけど、かなり保守的だったし、でもそれは今、すごい感謝しているんですけど。ただ、なんか、お母さんがちょっとどうしても、こう、なんていうんですかね。あまり応援していないですね。ムスリムだったらもう、ムスリマだったら、もう絶対にかぶらないと駄目みたいな。

シャハナ なるほど。

グフロン まあ、愛情ですよ。お母さん。

中村 でも、親の肯定は大切だと思うのが、小さいとき、私は幼稚園からお祈りしているんですけど。

リーム マーシャーアッラー。

中村 なんかそのときから、お母さんが、そうよ。あなたが違うのは、なんか、あなたがスペシャルだからだよって。

一同 ハハハハハ。

奈菜 すてき。

中村 もともと自信過剰な子どもだったから、もともと自信過剰だったので、そのおかげで、例えば、わざと礼拝室の鍵をかけなくて、友達がのぞけるように、見られて快感みたいな。それから、小学校時代は。

グフロン すごいすごい。

リーム すごい。

グフロン 僕も優平君みたいな子どもがほしいので、そうします。

奈菜 いいないいな。

愛民 ありがとうございます。いろいろなお話が出て、親子の関係だったりとかムスリム2世同士の関係だったりとかもいろいろお話が出ましたが、時間ももうないので、割と過ぎていたので、最後に、かなり、短くにはなりますが、ご意見ある方にですね、モスクの引き継ぎに関して、少しご意見をいただければなと思うんですけども。

先ほど、第1部のところで、モスクの今後、もしくはムスリムコミュニティの今後を考えると、改宗者、そしてムスリム2世の力が必要なんだっていう話はありましたが、当のムスリム2世たちは何を考えているのかと、そもそも引き継ぎたいと思っているのか、それともまた別のところで何かをしたいと思っているのか、何か、先ほどのお話にもありましたけれども、モスクという場がどういうものなのかっていうのを少し、親世代の認識、親世代っていうふうにくくっちゃいますが、親世代の認識、一緒にここに座っているかたがたの認識と少しまた違うモスク観みたいなのがある気が少ししてしまっただけですが、いかがでしょう。そもそもモスクというのが、どのような場なのかっていうところの話にもなるかもしれませんし、今後、ここに座っているヤングムスリムのかたがたは。

リーム フフフフ。

愛民 フフフ。ここに座っているヤングムスリムのかたがたは、そもそもモスクと関わっていききたいのか、それとも別のところでムスリムとして生きていききたいのか、お願いします。

奈菜 あっ、ごめんなさい。実は私のことじゃないんですけど、ここにいるリダちゃんが、企画を立てて、今後、モスクって言っていいのか分からないんですけど、日本ムスリム協会で、講座、今後の若い子向け、子どもなんですけど、子どもたちに対して、イスラミ的な教育をするっていうなんか、そういう人たちを育てるっていう講座っていうのを企画して。で、言っていいんですか。

前野 そうだ。(拍手)

奈菜 で、ちょっと私出しゃばって、応援したいなって思ったので。

前野 仕込んでません。仕込んでません。

一同 ハハハハハ。

奈菜 実はTwitter上で、イマームさんたち何人かに、ちょっと手伝ってよみたいな感じで声を掛けたら、前野先生がぜひぜひみたいな、企画書を用意してくださいって言って。で、実は、その企画通りましたよね。

前野 はい、通りました。

参田 アルハムドゥリッラー。

奈菜 アルハムドゥリッラー。なので、なんかそういう動きがあって、ちょっとここはあれ、宣伝なんですけど、募集していますよね。

前野 はい、募集しています。

奈菜 あの、男の人？

林リダ そうですね。なんか、できればこの企画を引っ張ってくれる方がいればいいなっていう。もちろん私もずっとやっていくつもりなんですけど、やっぱりこういうのってなんかすごいムスリムでこれから頑張っていこうとしている男の人がどんどんやっていってくればいいなっていうふうに思っているんで、ちょっとご協力いただける方はお願いいたします。

ちょっと補足になるんですけど、私がこの講座をやりたいと思った理由が、今、その横

浜モスクで、子どもたちに勉強を教えたりとかしているんですけど、そもそも横浜モスクって、できて12、13年くらいたつんですけど、その当初、私が小学生ぐらいのころですかね。通って、今まで残っている子ども世代って、実は私しかいなくて、みんな来なくなっちゃったりとかして、今、中高大学生とか、全然いるんですけど、今、来ている子どもたちって小学生までだけなんですよ。みんな大体中学入るといなくなっちゃって、その状況に危機感を持ってほしいなって。つまり、さっきの話にもつながるんですけど、大人たちにどう思ってたかって、私は、危機感を持っていただきたいと思っております。私が今、1人になって、今まではずっと自分の勉強を教わる側だったんですけど、ちょっと教える側に回ったときに、大人があまり子どもに対して、何も考えていないなっていうのをちょっと感じて、なんか、子どもたちが取りあえず勉強をできる環境があればいいっていうので、その内容に対して、気にしていなかったりとか、子どもがどういう態度で聞いていたりとかっていうのに対して、あまり危機感を持っていない。私は、自分は子どもっていう立場から大人っていう立場にいつの間にか変わっていたんですけど、当たり前子どもいないので、他人の子どもたちをずっと教えているわけですよ。

それを見ている親が何も思わないのかなっていうふうになんて問題意識を持っていて、ちょっとお姉さんみたいな感じの立場で、子どもたちがすごいついてきてくれてはいるんですけど、自分自身の知識がまだまだ足りなかったりとかするので、そういうところに、大人のかたがたの手助けが必要だったりするのを感じているので、そういうところを今後、さっきの1部の話でもありますが、モスクの問題点というところで、子どもたちもさっきちょっと出ていた、イスラム離れだとか、家族離れだったりとか、というのがあろうと思うんですけど、そういうふうになんでしょう、させたくないならば、私たちが頑張るしかないと思っているので、そういうところに、大人もなんか子どもいる、いないに関わらず、みんなが協力的であってくれれば、モスクに通っている子どもっていうのは、子どもについての問題っていうのは、ずっと、どこのモスクでもある話だと思うので、そういうところに一人一人が意識を持って取り組めたらいいなと思っています。

愛民 ちょっとかなり心強いご意見になります。他に何かモスクの引き継ぎに関して、あつ、いいですか。どうぞ、はい。

シャハラ いいですか。危機感で同じで、関西も、親の危機感のなさをすごい痛感してて、なんか、自分の子どもがクルアーン読めたらそれでいいとか、自分の子どもが礼拝出きたらそれでいいみたいな、他の子どもたちがクルアーン読めなかったり、アラビア語が分からなくても、別に、ドントケア、関係ないみたいな人が多くて。でも、なんか、礼拝の時間になっても、みんなが集まらなかったら、ちょっとシャハラちゃん、子どもたちに言ってよみたいな、なんか、押しつけ、なんか、その代表みたいな感じでちょっとあなた言ってよみたいな、なんか、何とかしてよ、みたいな感じで、こう、サポートじゃなくて、押



しつけてくる。その役割をちょっと押しつけられているのは、感じます。

なので、なんか、こうしてほしいし、親世代もこういうのをサポートするから、あなたが前に立って、こうやってほしいみたいなのをやってくれたら、ああじゃあ、私もサポートしてくれるんだったら頑張ろうかなって思えるんですけど、そういうのが、なかったりとか、あとは、モスクの所有をめぐる争いが、結構、関西は、まだありましてですね。

奈菜 どこでもあると思う。

シャハラ あっ、そうなんですね。

奈菜 どこでもあると思う。

シャハラ 関東はちょっとよく分からないんですけど、はい、関西は、結構、ありますね。誰が、どの国が、どの宗派がモスクを所有しているのかって、権力とか、名声を求めて争っているっていうのが、もう正直、子どもたちにはどうでもいいというか、なんかそれよりももっと大事なことがたくさんあるのに、やらなきゃいけないことがたくさんあるのに、まだそういうことをしているのかっていうような目で見ています。

今は、春休みは、インシャアッラー、大阪イスラミックセンターで、図書館をつくりたいなって思っていて、アラビア語とか日本語だけじゃなくて、いろんな言葉の本を集めています。イスラムに関する本を。なので、もし要らない本とか珍しい本があれば、送っていただきたいんですけど。募集しています、大阪イスラミックセンターで。そうですね。あとは、最後に一つ言いたいのが、私の父と母が今、一番必要としている人材が、日本人イマームです。日本語でイスラムを学びたいっていう子たちが結構いて、もちろん親もそうなんですけど、子どもたちが、特に第1言語が日本語なので、日本語でイスラムを教えてくれる人がほしいです。今は、もう関西には全くいないので、関東だったり、ちょっと地方から。

中村 ちなみに。

シャハラ はい。

中村 お給料はいくらぐらい。

一同 ハハハハ。

シャハラ どうなんでしょう。イマームさんって、月給どれぐらいでしたっけ。わかんない

いです。

ファティナ 要相談。要相談。

シャハラ 要相談ですね。ハハハ。

アリアン そういうところですよ。親、なんか、引き継ぎっていうのは、あっ、すいません、話ちょっと遮っちゃって。

シャハラ 全然。

アリアン なんか、引き継ぎっていうふうに言っていたんですけど、結構、引き継ぐためにもっといろいろ自分で変えていきたい。改革していきたいっていうふうに、改革って言っても、そういう宗教の改革じゃなくって、やり方の改革とか、そういうやっていきたいのだけれども、結構、そこでお金が必要になったりとかそういうことが、これもイマームの給料に関して、結構、もう最初のほうから、いろいろな問題が多分あると思うんですけど、そういうのもちょっと組織化していくために、いっぱい多分いるであろう、ビジネス成功している大人。しているのに、なんか、ちょっとちゅうちょした、なんか、別にバッシングしているわけじゃなくて、なんかそういうところも、大人はまだまだこれから引退じゃなくって、これからもいっぱいやることあるんじゃないかなっていうふうに思っています。だから、そういうところとの相互の理解していきたいです。はい、すいません。どうぞ。はい、はい、はい。

中村 理想は、日本人改宗者が、2世の人たちが上に立って会議をして、それを、バイリンガル、日本語と例えばウルドゥー語やインドネシア語やアラビア語を話せる人たちが、日本の価値観と親世代の価値観をもって、こういうことをしたい。こういうことが起きるからっていうのを説明できる masjid にしていきたいのはいきたいなとは思いますが、やっぱりモスクだけで生きていくのは難しいのかなとか、あとはやっぱり九州と関東を経験をしてみて、やっぱりなんかちょっと怖いっていう気持ちもあります。masjid の中にいるシャイタンたちのささやきに勝てるのかなとか、いろいろあるので、頑張りたいなと。

一同 フフフ。

グフロン 入り口で待っているシャイタンかな。フフフ。

愛民 分かりました。ありがとうございます。まだまだ議論は尽きませんが、時間もかなり大幅に過ぎてしまいましたので、アスルの礼拝だったり、休憩も必要だと思います。第3部ではですね。今の、ヤングムスリムのかたがた、中でもかなり積極的に、さまざまな思いを抱いていて活動されているようなかたがたの動きをここで聞けた、そういったご意見。そして、第1部で聞いたご意見だったりも踏まえてですね、第3部ではグループワークのようなものを企画しております。今回、11年目、11回目の代表者会議であります、初の試みにはなるんですけれども、親世代、そして次世代、ヤングムスリムが共に話し合っ、何か生まれるものがあるのかというところをやってみます。また第3部のところで詳しくご説明いたしますが、今から休憩の時間、あるいは礼拝の時間とさせていただきます。何時までに行きましょう。ちょっと短いですが、3時45分には、ここで第3部を開始いたしますので、それまでにここにお戻りください。ありがとうございました。

奈菜 ありがとうございます。

アリアン 二時間べらべら話した。

(了)

### 第3部 グループ・ディスカッション(グループワークを含む)と全体討論

岡井 (録音データ無し)・・・たり、未来っていうものをイメージしてみようじゃないか、ということで、このような、ディスカッションをやることに、しています。

愛民 はい。それでですね、じゃあここで、何をディスカッションするのか、何をシェアするのか、一人一人が何をお話するのかっていうところで、まずは自己紹介が必要なので名前ですね。好きな食べ物まだ言ってない方、もしくは既に言った方も、また、ここでシェアしてみましょ。そして、次にシェアすること。きょうここに来て、今、第1部、第2部と、さまざまなお話がありましたが、特にそこで何か見つけたことだったりとか感動したこと、心に響いたことだったりとかをシェアしてください。

次に、ムスリムコミュニティだったりとか、モスクだったりとか、もう少し広い視点で日本社会だったりとか、何でもいいんですが、課題だと率直に感じたようなこと、そして反省点、反省点というのは、ムスリムコミュニティというようなかなかジェネラルな話だけではなく、自らもしくは自らの団体の反省点、これ直したほうがいいなど、そのように感じたことがあれば、そこも3番のトピックでディスカッションしていただきます。

そして最後にですね、具体的に何が自分にはできるのか、もしくは、自分が必ずしもその行動に移らないとしても何が起きると願うのか、自分がやらないとしても他の人に何をやってほしいのか、何が必要だと思うかというようなところを最後のトピックでディスカッションいただきます。

ちょっと時間がかなりいろいろと押してるのでここまで。そうですね、変更しておりませんが、今でオリエンテーション、ご説明とさせていただきます、20分間ですね、班ごとの話し合い、それぞれの中でです、4人の中でまずお話しいただきます。先ほどの2、3、4のテーマについてですね、1分ずつ、1人1分ずつ、お話しいただきます。

まず、それぞれのグループの中で、1人1分ずつ、先ほどのテーマについてお話しいただきます。まず、2番のトピックについて話し合うというふうになれば、1人1分ずつですね、お話しいただくと。

その次に、そのグループの意見が、じゃあ何だったのかというのを、10分間かけてまとめていただきます。そしてそれを次に、それぞれ、まとまったら今度はグループ間でのシェアっていうのを10分間行い、次には、オブザーバーで来ていただいたかたがただったりとかのご意見も頂戴し、聴衆も交えてディスカッションとさせていただきます。

きょう、このディスカッションをするにあたっていくつか、あのお気を付けていただきたい、参加の心得、何をディスカッションする上で気を付けていただきたいかというのは4点ございます。

まず、ここは、みんなで作る場ですので、積極的にご参加ください。そして、自分自身の意見も、他者の意見も、よく聞くということですね。そして三つ目、皆さんの意見、ど

んな意見でもこれは言っちゃいけないかな、これはこう言うべきなのかなとか、そういうのではなくてですね、皆さんの意見、どんな意見だとしてもそれは宝物ですので、心を開いて、楽しむような、そういった心意気で、ディスカッションを行えればと思います。が、もちろん無理はなさないでください。自分はちょっとこういうの、苦手だなと、ちょっとここで話したくないな、これについてはこの人と話したくない、何かありましたら、無理なならず、苦手なら、単純にリラックスして、皆さんの話を聞いて楽しんでください。

はい、チーム、今このように座っていただいておりますが、赤い色の方は、進行役、誠に勝手ながらこちらで決めさせていただいておりますが、なんのご連絡もせず勝手に決めています。フフフ。申し訳ございません。

赤い色の方、林リダさん、林純子さん、グフロンさん、ファティナさん、アリアンさんには、進行役を務めていただきます。お願いいたします。そして青色、中村さん、シャハラさん、アウファさん、佐藤さん、前野さんは、進行役のサポートというかメモというか、いろんな話し合いが出ると思うので、それをうまく、まとめるというか、メモいただきたいというふうなお願いでございます。

ただもちろん進行役、そして進行役のサポートの方もですね、自らのご意見も必ずおっしゃっていただくよう、お願いいたします。はい。

岡井 じゃあ始めましょうか。

愛民 いいですか。

岡井 大丈夫だと思います。

愛民 それでは始めさせていただきます。私たち運営メンバーもちょっと、周りを歩きながら、何か質問があったら受け付けますので。はい、それではディスカッションに入っていきます。じゃあ、話題、トピックについて。

岡井 あ、そうですね。ちょっとずらして。

愛民 はい、あの、どうでしょう、名前はあれ、10分に含まれませんが。

岡井 うん。

愛民 含めて。

岡井 あ、含めて。

愛民 あ、分かりました。じゃあ軽く1分、トピック1をさっと終わらせて、そのあと、2、3、4に移っていきます。このチャイムが鳴ったら1分間スタートですので、1分間ずつやりますか。

岡井 あ、いやもう全部でいいんじゃない。

愛民 あ、全部で10分。

岡井 うん。

愛民 あ。じゃ、これで始めさせていただきます。

(チャイムの音)

<<グループワークの開始>>

岡井 今で、まとめの時間が終了いたしました。まとまりましたでしょうか。まとまらないことがまとめかも分かんないけども、いかがでしょうかね。こっからはですね、えっと、今、チームごとに、あ。

チチチチチチチチチチ。ハハハ。はい、チームごとにお話しいただいて、いろんな意見が出たと思います。いろんなそれぞれのトピックについてのお話が出たと思います。それをですね、良い機会ですので他のチームの人ともシェアするような、時間を取りたいと思います。

ここに書いてある、プレゼンテーションの時間ですね。こっからはですね、1チーム3分で、それぞれのトピックについて、他のチームの方と、シェアができればと思います。

じゃあどうしましょう。最初、チーム、順番にいきますか。じゃあ、大丈夫ですかね。チーム1から、順番にまいりましょうか。

はい、じゃあちょっと時間もタイトなんですけれども、それぞれのトピックどんなことが出ましたでしょうか。教えていただけるとありがたいです。

林リダ はい、えっと、まず2番の、きょうここに来て、これまでに見つけたこと響いたことで、全体を通して、グループ全体を通して、親子の絆だったりとか、親の努力だったりとか、あとは、子の成長だったりとか、そういうところで親子の絆を見つけたなっていうのがありました。あと、コミュニケーションの大切さですね、この場もそうですけど、親の意見を聞く、子の意見を聞くっていうのは、どうしても私生活の中では、なくなり

ちなものがすごく大事なんだなーっていうの、改めて再確認しました。

3 番の課題だと感じたことはですね、この話し合いを通して、親世代の問題認識と子ども世代の問題認識の違いを感じました。いろいろモスクに通ったりとかすると、いろいろな問題点があると思うんですけど、ここら辺の問題点の違い、感じてることの違いっていうのを埋めるには、やっぱり子ども世代が、大人の世界に参加していくことだったりとか、大人世代が、もうちょっと子どものことを信頼していく必要があるんじゃないかなーというふうに感じました。

それを踏まえて、継承する上での環境づくりですね、そういう話し合いの場だったりとかもそうなんですけど、各モスクで、そういう場がもっとできていけばいいかなというふうに思います。答えは1つではないので、これからもずっと、大人世代もこれで終わりじゃなくて、なんか今後どうしていけばいいのかっていうのを一緒に考えていく必要があるんじゃないかなーというふうに思いました。

最後に、これから自分に何ができるかっていうことなんですけど、私たちができるのはこういう場がありがたいことにあるので、今後、この話を踏まえて、環境を整えていく必要があるのかなーというふうに思います。後は、資金面だったりとかも問題があるので、そういうところもできることをどんどんやっていく必要があって、最終的には、イスラムを学んだ人たちが、もっとコミュニティで活躍できるように、する必要があるんじゃないかなというふうに感じました。以上です。

岡井 はい、ありがとうございます。

親子のつながりと環境づくりですね、に特に注目してまとめていただきました。活躍の場が必要だということと、親もまだまだ引退ではないし、共に、長所を生かしてやっていくのもいいかねっていうようなところでしょうか。じゃあですね、これに関するまた質問等もまたあるかと思いますが、続けてですね、チーム2にお願いいたしましょうか。

シャハラ 2 番では、2 番が…さい、え、なんて書いてあるの、読めない。

一同 ハハハハ。

(発言者不明) 気づき。

シャハラ あ、気づきですね、はい、今回、若者の、いろんなアイデアとか、アクションをしているっていうことを聞いて、若者って素晴らしいっていうポジティブな意見と、若者がモスクから離れているのは知っていたし、SNS とかを通して発信するっていうのも若者だし、けど一方で、モスクをベースとして、モスクをコミュニティの場として認識し、そこで活動しているっていうことが知れたっていう意見がありました。あとは、関西と関

東の違いを感じれたっていう感じですよ。

三つ目が、今後の課題として、言語っていう壁があるんじゃないかっていう、日本語が通じない外国人イマームとかで日本語が通じないのでコミュニケーションがしづらいとか、あと、まず、子どもたちに、イスラムを教える場所が欲しい、場所がそもそも足りないっていった意見や、外国人イマームが文化とか、自分たちの生活習慣を入り交じったイスラムを伝えてしまっている状況。

四つ目が、特に外国人イマームの方なんですけど、ダーワをすごい中心として頑張っているけど、中の人たち、入って来てからは、ほったらかし、みたいなどころがあるかなと思って、入って、今そこにムスリムとして、コミュニティーの中にいる人たちのサポートがないから離れていってしまってるんじゃないかなっていう意見が出ました。

四つ目、自分には何ができるかっていうのなんですけど、大事なこととかを伝える機会、さっきの場所が欲しいっていう意見、一緒ですよ。大事なことを、イスラムを伝える機会が欲しいっていうのと、あと、さっきの、第1世代のほうでしたっけ、改宗ムスリムが日本文化について教える機会。三つ目が日本語でイスラムを教わる機会。

あと、関西と関東、なんかどうしても、皆、自分たちの近くのイスラムコミュニティーのすごい皆さん必死になっていろいろ活躍されるんですけど、遠くにあるコミュニティーをあんまり皆さん知らないと思うんですよ、今どういふことで困ってて、どういふ活動をしてて、どういふ問題があつて、どういふ歴史があつてっていうのを皆さん知らないと思うんで、第1世代もムスリムも。そういうのを SNS とかウェブサイトとかを通して発信していきたいという声がありました。以上です。

岡井 はい、ありがとうございます。

すごい盛りだくさんの内容でしたね。SNS と、この場をどうしていくのかっていうことですよ。ネットもありますし、あと場としてこれまで作られてきたモスクっていうのもあつて、それをどういふふうを活用していくのかっていうところで、その課題として言語の問題とか、場をどうしていくのか、あるいは伝えるときに文化とイスラムをどう分けるのかとか、そういったことが課題だつていうことですね。

関西と関東の違い、土地によって、コミュニティーが違つていて、それらをつないでいて外のコミュニティーについても、目を向けていく、必要がある。それによつて何か、新しいアクションが起こるのかもしれないですね。

ありがとうございました。じゃあ次、チーム3にお願いしましょうか。

グフロン 私たちはですね、皆、ここにいる皆さんがある程度もう、イスラム。

一同 フフフフ。



グフロン 立つの恥ずかしくって嫌だったんですけど。ここにいる皆さんがイスラムに対してこう、自覚を持って信仰してらっしゃるかたがたがたくさんいらっしゃると思うので、私たちが考えたのは、私たちムスリムの、日本におけるムスリムの構え方というか役割と、どうか、どうあるべきかというののマインドセットについて話し合っていました。

というのも、ここにいる皆さんが入り口なんですね、ノンムスリムの人たちが見るイスラムは皆さんですし、モスクっていうのは、ノンムスリムの人たちがイスラムに興味を持ったときに、足を運べる場所の一つであって、入り口なんです、皆さんは。入り口として、何をしなければいけないのかっていうと、ポジティブなマーケティングが必要だっていうのを話し合いで出たんですけども。

日本人の人たちが持つイスラムに対する印象っていうのは、どうしてもやってはいけないことっていうのが前に出ているんですね。お酒を飲んではいけない、豚肉を食べてはいけない、結婚前はこれが駄目、あれが駄目っていう駄目駄目っていうタブーが常に前に出ている。

本来は、タブーっていうのは、神様が人間を、幸せにするために禁止していること、クルアーンに書いて教えていること。なのにそのタブーだけが前に出て、ネガティブな印象を持ってしまっている、日本人っていうのは。日本人に限らず、イスラム離れしてしまっている、第2世代の若いムスリムたちっていうのは、タブーがどうしても頭の中を、制覇してしまっているのが問題だと思うんですが、本来はそのタブーっていうのは、人を幸せにする、禁止事項であって、なので私たち、イスラム教徒っていうのは、それをポジティブな方向へ持って行かなきゃいけない。だから例えばノンムスリムの知り合いができたときに、イスラムの説明をするときには、私たちはこれをしちゃいけないんだよ、あれをしちゃいけないんだよ、ではなくって、こういうことするから私たちは幸せで、こういう教えを、信仰しているから、素晴らしい人生を送れるんだよっていうポジティブなことを伝えていくのがすごく大事なことなんじゃないかなと思います。

それはノンムスリムだけに限らず、親世代が子どもに対して教育をするときとか、自分が友達を、イスラムの道へ引っ張りたいたいときっていうのはすごく大事なことで、もし子どもがお酒を飲んでいるとか、友達が豚肉食べているっていうのであれば、それをしているから彼らが今すぐに、地獄に落ちるとか、死んだ後地獄に落ちるっていうふうに考えるのではなくて、いかに彼らが神様との関係をより親密にできるかっていうところに、重きを置くようにすることが大事だと思います。

というのも、神様を信じてない人が、お酒を我慢できるかって言われたら我慢できません。豚肉を我慢できるか、できないし、信仰っていうのは神様との関係があってこそ成り立つものなので、礼拝をしないとイケない、お酒を飲んじゃいけない、豚肉を食べてはいけないっていうのは、その人の神様との距離感が縮んでからできることなので、ここにいる皆さんは、そういうことを念頭において、これからいろんな、ノンムスリムや子どもたちと向き合っていくと思うんですけど、表向きの信仰だけであれこれ言うんじゃないかって、

その子たちが、どういうふうにして神様を見つけてくれるのかっていうのを探す手伝いをしていくのがいいんじゃないのかなっていうふうに思いました。はい。以上です。

岡井 はい、ありがとうございます。これはまた、3になるんですかね。

長谷部 3番。3番ですかね。3が。

グフロン 番号無視してます。

一同 ハハハハハハ。

岡井 ハハハハ。ですよ。

アウファ 3と4がくっついてる。

岡井 3と4がくっついてる感じですかね、これ。分かりました。

長谷部 これが3？

グフロン うちのチームは、1番も無視して、勝手にお話を始めたので。

一同 ハハハハハ。

岡井 ハハハハ。自己紹介必要なかった。

長谷部 どっから3がいいかな。

アウファ 3、ネガティブになりがち、説明する際に、まずそういうネガティブなものが前に出てしまうことが課題。

長谷部 これが3。

岡井 あ、これが3ですね。

アウファ 自己紹介の仕方をもっと変えていけばいいんじゃないか。

岡井 ポジティブなマーケティング。

アウファ そうですね、4 としては、自分たちムスリムは入り口としての参加者ってやつですね。

長谷部 あ、これ。

リーム アハハハハハハ。

アウファ はい。で、自覚だとかいうのが。

長谷部 これ、2、4、3。

アウファ え？

長谷部 順番としては。

アウファ あ、2はないです。

長谷部 2がないのね。

リーム アハハハハ。

アウファ 2はない。

グフロン 2は、あ、いろんな人がいるっていうの。

一同 ハハハハハハ。

グフロン あ、2はあれでした、自分の好きなことで、ダーワするとかっていうのが。

アウファ 自分のスタイルで。

グフロン 自分のスタイルで、自分らしい信仰で。

長谷部 あ、これ？

グフロン 自分らしい信仰で、いい影響を与えていくことが何より大事っていうことが 2 番。課題は 3 番。ネガティブな入り口にならずになっているというか、そういうタブーが、前に出てしまっている、が 3 番。4 番は、ポジティブなマーケティングしていこうっていう、表向きのことだけじゃなくって、心の中の信仰を考えるっていうことですかね。

長谷部 はい。

グフロン すいません、問題児です。

一同 ハハハハハハ。

岡井 はい、改めてありがとうございます。今もうグフロンさんがまとめてくださったので、僕がしゃべる必要はないと思うんですけど、じゃ、続けてチーム 4 のほうに次いきたいと思いますが、いかがでしょうか。

ファティナ 私たちのチームでは、まず 2 番なんですけど、ここまで気づいたこと、響いたこととしては、お互い対面で、心の内とかそういうのを共有できたことが大きかったなと思います。親世代からも、若い人たちが何を体験して、何を感じて、どうしていききたいのかっていうことを、聞けたし、私としても、親世代だったり、各モスク関係者が、モスクを建てるだけじゃなくて、日本社会で機能させていくっていう活動を何年もやってきたっていうことが、お互い知れたのが良かったと思います。

課題と感じたこと、反省点としては、こういう場をもっともっと作らなきゃいけないなと。これを例えば、早稲田だけでこう、年にとか月に何回じゃなくて、それぞれのモスクだったり、コミュニティー同士、親と子ども、っていう中で作っていくべきなんじゃないかな、というところがすごく課題として感じました。

あとは、例えば、若い世代だけに任せるとか、親世代に任せるとか、なんですか、それぞれのコミュニティーだけに任せると、偏りができてしまって、例えば、新しいイスラムの形とかが、全然クルアーンとハディースから離れたものができてしまうんじゃないかっていう恐れもあるので、やっぱり、お互いがお互いを、なんていうんですかね、オブザーバーとして、意識して、ちゃんと一つのウンマとして機能していくように、するのが大事なんじゃないかな、と思いました。

これから、自分たちには何ができるかっていうところで、私は第 2 部でも先ほど話したんですけど、ファシリテーターとして、横のつながりを大事にして、それぞれのモスクやコミュニティー、親と子世代のファシリテーターとして、つないでいきたいなと思いました。親世代のかたがたからも、それぞれのモスクをもっとオープンにして、人が入りやす

い場所にする。いろんな人がいて、例えばパキスタン系のモスクだとパキスタン人だけがいるんじゃないくて、いろんな方が来れるような、環境づくりっていうものを、していきたい。また、モスクの外でも、お互いのコミュニティが交流できる、意見交換できる場を、システムを、これから作りたいっていう意見が出ました。コミュニティ対コミュニティとか、親対子どもではなくて、みんなが協力できる機会、場所を作ることが自分たちにできることなんじゃないかな、と思いました。はい。以上です。

岡井 はい。ありがとうございます。親世代と子世代という対立ではなくて、どう重なって、どう新しいモスクだったり、関係を築いていくかというような話ですかね。そのために、例えば今、このような場に来ている人たちっていうのは例えば横のつながりだったり、まだつながっていないところをつなげていったりだとか、そうしたことができるんじゃないかっていうことですかね。ありがとうございます。

それではですね、最後、チーム5になります、いかがでしょうか。

前野 私たちのチームでの2番の気づきにつきましては、進行役のアリアン君除いてはいずれも、おじさんおばさんなので、ごめんね。

一同 ハハハハハ。

前野 きらきらしたことを見せたい、見たい、という気持ちは、若いから自然にできることなんだなあというのを実感しました。ですので、どんどん、これからもやってください。やっていただきたいということがシェアされました。

三つ目の課題については、外側からのものと内側からのものがあります。外側からのものというのは、私たちムスリムの中には、頑固な人もいます。そのほとんどは、移民第1世代に見られるのではないかと。でも、悪いのは彼らだけじゃなくて、日本社会も悪いんじゃないかと、日本の国も、これから考えていただかないといけないんじゃないかと。というのは、日本が、彼ら、移民を、いつまでたっても身内扱いしないから、身内扱いしないから、その移民当人にとっては、いくら、日本社会に合わせても、自分たちを合わせようとしても報われない、決して報われることがないので、頑固にならざるを得ないのではないかと。でも、その後、今後、インシャーアッラー、日本はやがて労働力としてもいろんな意味で移民を受け入れざるを得ない将来を迎えることになると思いますけれども、そうやって、いざ必要に迫られて、移民を身内扱いするようになったときの懸念というのは、そうすると今度は日本の既に、今、ものすごく高い状態である同調圧力がさらに強くなるんじゃないかということは懸念されます。

一方、内側の課題としては、あっごめんなさい、それが内側でした。外側からの課題というのは、偏屈がゆえに、派閥主義。主義主張が、考えが違う、やり方が違うがゆえに、

ムスリム同士の中での、協調性が弱いのではないかと。だから解決策となる四つ目の話というのが、だからこそ、パワーがある情熱のある、皆さん若い人たちに、今後とも、そもそも横同士でつながりたいという気持ちを強く持つのも、若い人たちの特権でもありますので、ぜひ、今後とも頑張ってください。

それから、普通さを、日本社会に生きる私たちムスリム、それぞれが普通さをアピールすることも大事なんではないかと。ムスリムだからといって宇宙人ではないし。

一同 ハハハハハハ。

前野 特別な人ではないので、例えば、メンバーの1人は、ヒジャブ姿で。

早田 私ひとりしかいないじゃん。

前野 ごめん。ごめんね。

一同 ハハハハハハ。

前野 ヒジャブ姿で、コンビニで雑誌を見るとか、あるいは、人前で説教することもありながら、お弁当パパやったりとか、普通ですよということをアピールすることも大事じゃないかと。日本の改宗者からも大いに学ぶことも大事ではないかと、要は自己批判であったり、客観性の養成というものを、それこそ日本で生まれ育った改宗者や、ヤングムスリム、第2世代のムスリムたちから、移民第一世代のムスリムたちも大いに学んでいくことが大事ではないか、ということシェアしました。ありがとうございました。

岡井 あっ合ってますか。

長谷部 外が、この三つですか。

前野 身内扱いしない日本社会が内側の課題ですね。

長谷部 内側。

前野 偏屈な派閥主義が外からの。

岡井 それが外。

前野 外から持ち込まれてるんですね。

長谷部 同調圧は。

前野 も内側ですね。内側。

岡井 頑固は。

前野 外、外。

岡井 外、外。ああ。

長谷部 こういう順だったのね。

一同 フフフフ。

岡井 はい。ありがとうございました。私もいい年になってきましたけども、もうちょっときらきらを見していけたらと思っております。

一同 ハハハハハハ。

岡井 なので、このきらきらを見せるということ自体を、大人世代あるいは先輩がたが、サポートだったり、「いいよやってみなよ」って言うような、そういった下地が必要なのかなっていうのを感じながら聞きました。前野さんそういうことですかね、どうですかね。

はい。あと、これは今、前野さん説明してくれたとおりで、これって、ムスリムコミュニティの中だけの話をきょうしていたように感じるけれども、そうではなくて、やっぱり外とのつながりとかそういった中で、考えるべきことってというのは、まだまだ残されているってことですかね。後は横のつながり、これきょうのキーワードなんですかね、横のつながりとかこういったものってのも必要だし。

あと、これはやっぱり、内側の問題にも関わってくるんだろうけども、私たち、非ムスリムの人たちも含めて、普通さってというのは割と新鮮に映るのかもしれない。それを、今回表現してくれていたのは、例えばグフロンさんがお花だったりそういったことかもしれないし、今後もこういったことが必要だっていうことですかね。

はい、ありがとうございました。すごいたくさんの、意見がここに、出てきたわけですが、どうでしょうかね、皆さんこれを、聞かれて、こういった視点もあったんだとか、私も同じことを考えているとか、いろいろ、考えることがあるかと思いますが、どう

でしょう、ちょっとまだ聞き足りないとか、これについてもうちよつと詳しく聞きたいとか、そういったことがありましたらですね、自由に手を挙げて、何番のチームの人に聞きたいんですけど、というようなことを、これから、あと何分ぐらいですかね、愛民くんあと10分ぐらいですかね

愛民 10分ぐらいですかね。30分ぐらいです。

岡井 了解です。では20、30分。20分でやっておいてどうせ延びるだろうから、30分でどうでしょう。

一同 ハハハハハハ。

岡井 じゃあここからはですね、マイクをお回ししますので、どうでしょうか。どっかの人に聞きたいとかありますでしょうか。

小野 オブザーバーの方。

岡井 そうです、そうです。オブザーバーの方もですね、どんどんどんどん、ご発言いただければと思います。いや私はこうだつてのや、いやこういう視点もあるぞ、というのがもしありましたら、シェアしていただけると、それはとてもいいことだと思います。

どうですかね、考える時間が、これだけあると。なかなかね。

前野 じゃ、初めに逆指名ありますか。

岡井 え。

前野 逆指名ありますか。

岡井 プロレスみたいじゃないですか。

一同 ハハハハハハ。

岡井 いいですよ。全然大丈夫です。フフフ。

ナジール 3番の、一番下。自分らしい信仰。



岡井 自分らしい信仰。

愛民 ここで良い関係。

ナジール それ、ちょっと具体的に聞いてみたいんですけども。どういうふうに考えられたのかな。

グフロン はい。マイクのこれが取れると、少しシュールな見た目なんですけど。

一同 フフフ。

グフロン 自分らしい信仰で良い関係。信仰ってのは必ずしも礼拝だけではなくて、あと、ハラールのものを食べるだけではなくて、生きていることそのものが信仰で、仕事をするとか、僕だったらお花を愛でるとかっていうのも全部信仰なので、皆さんそれぞれがそれぞれの、場所で、それぞれの仕事で、自分の、思う信仰をすることがとっても大事、っていう意味で言ったんですけど。入り口として、ノンムスリムの人とか、ムスリムの人が皆さんを見たときに、いろいろ思うわけですよ。インスピレーションを常に、やっぱり生きてる間に、人に、いい影響を与えていいことをしていきたいっていうのが、ムスリムとして生きて死ぬ上での使命だったりするので、自分なりの信仰、自分の仕事を全うして、ムスリムとして、生きて死ぬっていう大きい意味での信仰を、やるっていうことですかね。分かります。フフフ。

礼拝だけじゃなくって、食事だけじゃなくって、もう自分が行うこと全部が信仰なんだよっていう、マインドセットを持って生きていけば人にいい影響を与えられるのかなっていう、はい。

ナジール とても素晴らしいことだと思うんです。思いますけれども、僕は、ふと思ったのは、自分らしい信仰ってのは、やはり、花やってらっしゃるから花でたとえると、ちょっと花を、ブーケを見て、そこに、これは結婚式のために作られたものだな、ぱっと見て分かるような感じの、イスラムというのは、もう皆さんご存じのとおり、そこになんていうの、イミテーション、あるいはイスラムらしくないイスラムが出てきちゃうと、そこ僕ちょっと先ほどここでも話したんですけども。なんて言うの、自分らしい信仰で、道が線からずれてなければいいんですけども、範囲であればいいんですけども、合わせてしまう、アレンジしてしまうような信仰になってしまうと、そこにクエスチョンマークが出てきますよね。

グフロン もちろん、自分らしい信仰といっても、クルアーンの教えが、今時代だからこ

これは古い教えだから。

ナジール そうそうそうそう。

グフロン って言ってこれは変えなきゃいけないとか全くもちろんないし、クルアーンという言葉っていうのは神様が作ったものだから、それを変えるってのは本当に駄目なことなので、あくまでも自分の中で正しい信仰ってのを勉強しながら、自分らしく生きるっていう意味ですね。なので、例えば LGBT の問題とかでも、時代が変わったからクルアーン古いから駄目、じゃなくって、それを駄目なのは駄目って分かっていないといけない。ただ、そのコミュニティーを、すぐに排除するんじゃなくて、そういう人たちでもムスリムの人がいるから、じゃあその人たちどうサポートしようとかっていうのを考えていく。

なので、その自分らしい信仰ってのは、必ずしも教えを変えるのではなくって、教えの中で、ただ自分がその礼拝だけ、食事だけじゃなくって、人生そのものが信仰だっというのを自覚しながら生きていくことです。

ナジール はい。ありがとうございます。

前野 すみません、逆指名良いということですので、せっかくですからオブザーバーで来てくださっている大久保さんに、ご感想なりコメントなりを頂きたいと思うんですが、お願いできますか。

大久保 すみません。午前の方に参加してないので。

前野 いや今のでもいい。

大久保 何か言ってもあれだと思います。

一同 ハハハハハハ。

前野 今の、ディスカッションのまとめなりを聞いていただいた後での、それだけでもいいんですけど。

大久保 ああ。はい、非常に共感できる部分もあるし、私の、守備範囲で分からない部分もあります。さっきイマームさんがこうでこうでって話がありました。日本の場合、個人的に私、多分、60人から100人くらい、新しいムスリムに、基本的なイスラムの、アキードとか礼拝を教えた経験があります。とすると、1人の全く真っさらな日本人が、本当に

基本的なことを勉強して、サラートの文句も覚えてウドゥも覚えて、成長するのに、最低100時間かかります。100時間ていうと、例えば、日本各地のモスクで、土曜日の夜に、イスラムの講義がある。そういうのに2時間ずつきっちり参加しても1年以上かかるっていうことですね。実際に経験の中で、5年10年前にイスラムに入ったけど、まだウドゥのやり方分かんない、礼拝も分かんない、そういう人いっぱいいます。

そうすると、さっきのサポート、フォローアップっていうのが、ものすごく大事で、私のモスクもそうなんですけど、パキスタンの人が多いですね。ある人、日本人がこうね、イスラムに入って来た。すると、みんな、イマームさんが出て、シャハーダとった。そのときはみんなマーシャーアッラー、ムバーラク、ムバーラクとか言って、ハグしてね、すごい盛り上がるんですよ。2週間ぐらいすると、もう忘れちゃうんですよ。「この人、どこにいる?」「わからない」。電話番号もらってない。「名前は?」「アブドゥラ」、日本の名前も分かんない。

基本的に、こういう言い方失礼ですけど、興味がないんですね。日本に、店田先生たち調べて100以上モスクあるんですけど、ほとんどがもう、外国人が自分のコミュニティーで、ジュムアのサラートする、あと子どもにコーランを教える、これだけの目的で作られた。だから、日本人がイスラムに入る窓口とか、日本人を育てるとか、そういう意識で作られたマスジドは、今のところないんです。ですので、例えば私、自分の管理してるモスクの人に直接会って、とりあえずイマームさんって、今暇なんですよ、どこのモスクでもイマーム置いているとこですと、「1日5回のサラートと、ジュムアお前必ずいろ」ってコミュニティーに言われて、刑務所みたいです。

一同 アッハハハハハハ。

大久保 1人で寂しくいて、ジュムアはわーっと来て、イシャーは今5人とか10人とかね、ファジュルは2人とか、イマームさん1人で掃除して、1人でアザーンやって、夕方に子どもも教えてる。この人たちはイスラムを10年も勉強してるんだから、あと日本語だけ教えたら、もう、日本人がいつ来ても、イスラムのことを教えられるし、例えば日本人のアーリムってすごい少ないじゃないですか、前野さんとか佐藤さんとか、いっても今、留学してる人いますけど、ものすごく足りないんですね。一番手っ取り早いのは、取りあえず、手っ取り早いのは外国人のイマームさん、イスラム有識者に日本語教えてサポートする、一番手っ取り早いと思うんですけど、そういう話をすると、「いや、あの一、イマームが日本語を話すと、イマーム辞めて自分でビジネス始めちゃうから駄目」。

一同 アッハハハハハハ。

大久保 そういう非常に、後ろ向きな考え方の人がばかりなんです。だから、そういう中

で、本当に、日本で、もうイスラムのインフラをちゃんと整備して、日本で、誰でも入信してそのままムスリムとして成長できるような、そういう枠組みを作らなくちゃいけないんだって話をしてもみんな、ぼかーんとしてる。ぴんと来ない。理解できないみたいな感じですね。そこで私はちょっと、外国人には結構絶望してまして。

今、ハーフの、日本人ムスリム、若い人とか、ハーフの、両親は、あるいは片親がパキスタン人だけど、日本の学校教育で浸かってメンタリティは、ほぼ日本人。ただ単に上から押し付けられて、あれでこれでこれでこうだから信じろ、ジウムア行け、みたいのにちょっと反発する、こういう人たちが、非常に、将来の希望だと思ってます。いろんな人たちが、ただ日本人ジャマートってのは毎晩、毎月3日間、やってるんですけど、一番食い付きがいいのやっぱりハーフの子たちですね。やっぱり自分のアイデンティティーを多分問い直す年だと思うんですね、18から20いくつなんですけど。

そのときに、イスラムってのはこうだよって説明すると、非常に熱心に聞いてくれます。日本人の、なんとなくなくなったとか、あるいは結婚のためになったとか、そういう人と比べて非常にピックアップが早いです。ですから今の過渡期としては、こういうハーフの人たちが、どんどん成長してってですね、その100あるマスジドが、こういうハーフの人たちがリーダーシップをとって運営するようになると、また次のフェーズに行くんじゃないかと思えます。

その後で、ある条件が整うと、日本社会ご存じのとおり、同調圧力があるので、ムスリムやってるってことは変わり者だっていうレッテルをされます。今それが平気な人、例えば過去にいじめられの経験があるとかですね、そういう他と違うことを恐れない人が日本人のイスラムに入ってます。これ、今後、もっとムスリムは、普通のサラリーマン社会に入ってるって、もうどこの会社にもムスリムいて当たり前、大久保さんてあれ、なんかこれ、イスラムらしいよ、「あっじゃこれはいらないね」、「あっこれするんじゃないの」って。

一同 アッハハハハハハ。

大久保 それぐらいに、常識にしてしまう。日本の会社で、イスラムの常識レベルまで普及させたときに、日本人にとってイスラムに入るって敷居ががーっと下がって、多分大量に入ってくると思います。

それが私の夢でもありますので。ハハハハ、ってことで、ただただ話しましたが、どうもありがとうございました。

岡井 ありがとうございます。サラリーマン大久保さんの含蓄あるお話でございました。はい、そうですね、今すごい重要な話をしてくださいましたが、じゃ、永井さん、ちょっと時間も押してきましたので、1、2分。

永井 時代から言ってね、2番にある SNS、これは大事だと思うんですね。から先ほども話題になっていた、そうしたときに、うだうだうだうだですね、中途半端な知識でやり取りやって、なんかぐちゃぐちゃになっちゃうと、そうしたら、SNS やるときにはどっか、知識のあるキーマンを、常に参加してもらわなきゃなく、用意しておいて、こういうことになってんだけど、先生教えてくださいーっていうようなね、そういう人をなんか設けられないのかなーというね、そういうことを引き受けてくれる、勉強した人はいないのかなーっていうのが印象、受けてます。以上でございます。

岡井 はい、ありがとうございます。キーマンが必要だというようなお話ですが、それについて何か思うこと、あ。

林リダ 今回のキーマンが必要ってお話なんですけど、私、実は中学生くらいの頃から、SNS で、女性だけのムスリマのコミュニティーっていうのを今ちょっと帰られてしまったんですけど、姫奈さんとやっていて、今もなんかそういう似たような形で女性だけのコミュニティーを置いてるんですけど、そこには必ず、女性で、この留学経験もある先生に1人入っていただいて、もう親は、全然その内容を見ることはできなかつたりとかして、もう本当に子どもたちだけで葛藤だつたりとかを、書き出す場を作っていて、男性の目にも触れないようなのを作ってたんですけど、そういうのが、私は女性だけでっていうのでこだわってそれをやってるんですけど、なんか私がそれをやってるだけじゃなくて、他にももっと出てきて、今 SNS をやっている先生がたもいらっしゃるので、そういうのにどんどん先生たちが入って行ってやっていくのもいいのかなっていうふうに思います。

実際あることにはあるので、それをどんどんどんどんもっと大きくやってほしいなというように思います。

(発言者不明) 素晴らしいですね。

アリアン ありがとうございます。SNS に関してそうなんですけど、知識のある人たちはそうなんですけど、自分でもなんかしようと思っています。そこでなんか、最後の一步を踏み出せないのがやっぱ、知識っていう部分で、知識が曖昧だから、知識がちゃんとなつてないから、っていう意味で、できなくなるんですけど、これはちょっと、なんでしよう、自分の日頃の疑問でもあって、今この場なのでちょっと聞きたいんですけど。

日本の中で、ちゃんと知識を追い求め、いろんな先生がたもいらっしゃるということで、日本の中で、そういうもうちょっと深く勉強できるような場所を作るのは難しいのでしょうかっていう。もう、そういうのあったらもうちょっと変わって、何年間もかけて外で勉強するんじゃなくて、日本の中だけでも、ある程度の知識を得られるような、そういう環境を作る。作って行って、先生がたに対してのサポートを、他の外国人の親だつたり、親

世代で、ちゃんと組織化して、もう少しやりたいなって思ってます、日頃、はい。

愛民 知識の、国内での習得の場所。

アリアン そう、そうです。

愛民 分かりました。優平君、何か。

中村 あのー、SNS のキーマンなんですけれども、例えば前野先生とか、他にも、アブドゥラー坂田先生、マティーナ大学で勉強された方とかが、匿名の質問箱ってあって、匿名で質問を書き込めるものがあるって、実際にそれを書き込んでる方もいるんですけど、やっぱり日本人の表裏性というか、やっぱり誹謗中傷とかを書く方もいるんですよ。だから、匿名だからこそいろいろ聞けるんですけど、同時に、誹謗中傷も、受け入れられる方じゃないと、SNS は難しいのかな、というか、はい。

愛民 そういった、知識を学ばれた、知識人の層へのアクセスだったりについて、今、議論が進んでおりますが、そういったところで、佐藤さんとかにお伺いしてもよろしいですか。

佐藤 そうですね。SNS ですか。SNS、特にツイッターとかって、別にムスリムであるかどうかにかかわらず、やっぱりちょっと、何ですかね、こんなこと言ったら変ですけど、ちょっと変な、フフフ。変な人とか、変なことを、自分の愚痴を言いたがり、あるいは、何かのはけ口を探してるような人たちがやっぱり集まりやすいと思うんですよ。ですので、少なくともツイッターに関しては、あるいはフェイスブックでもそうですけど、SNS を、上手に扱う自信がなかったら、やめといたほうがいいのかなあ、とか思ったりもしますけれども、イブラヒーム大久保様は SNS はやられないんですかね。

一同 フフフフフ。

大久保 システム的に言うと、失言が永遠に残るシステムなので、私は一切やりません。

一同 ハハハハハ。

佐藤 まさにご経験と、イスラムに対する知識も、十分お持ちで、日本に関する理解もやっぱり深い、大久保さんだからこそこういうことを、おっしゃるんだと思いますし、そういうのも一つの手だと思います。

インターネットからイスラムに関して利益を得るということだったら、もっと他に、いろんなやり方があると思いますので、SNS、そうですね、私もすごく注意するようにはしますので、皆さんにも、扱うにあたっては、注意してもらったほうがいいんじゃないかなと思います。

岡井 ちなみにこの、佐藤さんなんかは今、日本ムスリム協会で行われているような、いろんな SNS での発信ですけれども、それアリアン君がさっき言っていた、知識を得られるような学びの場につながっていくような可能性っていうのはありますでしょうか。

佐藤 まさに今回前野さんが中心になってやっている、今度は次世代の若い人たちが教えていくというそういうトレーニングコースみたいなのを、女性向けと男性向けに、まさに、始めようとしているところなので、アリアン君にも、生徒としてそういうのに参加するだけではなくて、今度は自分が教える側として、特にクルアーンを既に、全部、大塚モスクで、暗記されたということなので、自分の知識を、同時に還元していただくのは、どうかなど、思うんですけど、いかがですか。

(一同拍手)

アリアン いや、自分も「ハイラクマンタアラマルクルアーナワアッラマ」っていうことで、学んだら、それを、教えなきゃいけない、そういう責任ってのもあるんですけど、クルアーンだけが全てじゃないので、そこでやっぱりなんか、最後、一步は踏み出せないっていうのと、まだ踏み出しちゃいけないっていうのがあるんですけど、先ほど言っていたいただいたその講座っていうのは自分も一応参加する予定なので。

(一同拍手)

アリアン 参加します、フフフ。参加します。はい。

前野 今、謙遜を述べられたけども、あくまでもムスリムにとっては、クルアーンというのは資本金ですから、全てではなくても全ての基本なので、もっと自信を持ってください。

グフロン SNS のことで関連なんですけども、私自身そんなに、ツイッターとかもやっていなくて、SNS って、インスタグラムに営業も兼ねて、お花の画像を入れたりもするんですけど、それ以外にはあんまり SNS ってのは使っていない。それ以外のコミュニケーションの方法っていうのは考えたときに、モスクに、文通じゃないですけど、手で書いた文字を、紙に自分の手で文字を書いて、それを投函して、それに対して、返事があると

かっていう、ものがあるのもいいんじゃないかなっていう、この時代において。ネットでいろいろ完結してしまうのはすごく便利なんですけど、そういうものをモスクに置くことで、モスクに足を運ぶっていう、きっかけにもなるかもしれないし、紙に文字を書く、自分の手で紙に文字を書くっていうのは、すごく自分と向き合う、行動の一つでもあるので、なんかそういうちょっとこう、アナログな、古風なことを、モスクっていう、今この時代に、人が集まって礼拝をするっていう、この時代においてもそういうことが行われているモスクっていう場において、そういうちょっとこうアナログなことをしてみるのもいいんじゃないかなっていうふうに今、思いました。

なんて言うんでしょう、交換日記じゃないですけど、なんかこう投函してそれに対して返事が来るような、悩みでも提案でも、なんかこういううれしいことがあったみたいなを書いてモスクに貼るとか。

中村 大学の生協みたいな感じかな。

グフロン 掲示板で、ちょっと分かんないです。そういう SNS っていうのがあるんですけど、そういう面倒くさいこともしてみるのもいいんじゃないのかなっていうのを感じました。はい。

前野 再びすみません。今回の会議が、いわゆる最後になるかもしれないっていうこともありますし、これまでの総決算的なものを（聞き取り不可\*\*\*45:35）にしているということで、一つ、意見させていただくと、これまでの会議の中でも述べたことあるんですけども、知識を得られるような学びの場を日本国内でやれないものかっていう声が、次世代の若者の声として聞けたのはすごくうれしいと思います。その上で、繰り返すんですが、現状は、残念ながら、イマームの扱い、イスラムの知識人の扱いっていうのが、外国のムスリム諸国での扱いそっくりそのまま持ってこられているので、日本では、今、勉強して、留学して行って帰って来た人たちが、家庭を持って日本で、暮らしを営んでいこうという場合に、大変、厳しいものになるんじゃないかと懸念します。

それから現在は、現状としては、いろんな、さまざまなモスクが、特定の国であったり、特定の層のスポンサーであったり、ということろに、かなり、運営自体が影響されているので、日本の、純粹に日本の今後のイスラムだとか、ムスリムのこととか考える上では、やはり制限というか、足かせが付いてくるのではないかと。なのでこのあたりの課題を少しずつでもクリアにしていくことが大事だと思います。

長谷部 クリアにしていくこと。

前野 クリアにしていくことですね。超えてこうと。解決していくことです。



岡井 はい、ご意見は尽きないし、まだまだ話し足りない方もいらっしゃるかと思うんですけども、残念ながら時間のほうが、来てしまいました。

この後もですね、これで終わりではなくて、また、懇親会なんかでもですね、どんどん話をしていただければいいなと思いますけども。取りあえずいったん、ここですね、この第3部会については、お開きっていうふうにしたいと思います。

皆さん何か、きょうの目的で、得られるものはあったでしょうか。何か自分の活動についてですね、新しいアイデアが見つけれられたでしょうか。あるいは、こうした人たちと何かをシェアすることで、未来について考えることが、できたでしょうか。もし、そうであるならば、これ以上、私たちの喜びってのはないような気がしております。

それではですね、ここで私たちの担当した第3部、終了したいと思います。ありがとうございました。

(一同拍手)

岡井 それではですね、閉会のあいさつを、小島先生から、いただきたいと思います。

小島 アジア・ムスリム研究所の小島と申します。私は、勉強が足りないのであんまり大したことは言えないんですけど、元は、モスク代表者会議ですね、今は masjid 代表者会議と言ってますが、早稲田大学の、多民族多文化研究所の店田先生が始められて、私も最初から出させていただけてますけど、あんまり大したことはなくて。あとチームの、岡井さんが継続的にやられてますし、今回については、少なくとも小野さんとか、クレシ愛民さんとかが協力されて、あと、最初の頃から、イスラム地域研究機構が、支援をしてくださって、長谷部先生も今回支援してくださってるんですが。

イスラム地域研究機構が今年度末で廃止になります。店田先生の、多民族多文化研究所も今度の夏で終わりということで、私がやってる、アジア・ムスリム研究所はしつこく、来年もやるんですが、ちょっと、同じ形ではお金も人もないので、やんないと思いますが、ちょっと違う形でなんていうか、総括みたいなのができればということを考えております。

いずれにしても年度末のお忙しいとき、また寒いときに、わざわざお集まりくださった参加者の皆さま、聴衆の皆さん、ありがとうございました。それから、店田先生のチームと、イスラム地域研究機構にも感謝します。

えーっと、あ、そうだ、好きな食べ物はですね。

一同 アッハハハハハハ。

小島 必ずしもハラールとは限らないんですけど、マトンカレーと、ラクサっていうヌードルが好きなんです。

そういう、食べ物のことじゃなくて、こういうイスラムの勉強を少しさせていただいてます。それから、先ほど出た、研修というかの件なんですけど、私、ムスリムではないんですけど、ずうずうしく去年、9月にウォーリック大学、コヴェントリーという所にあるウォーリック大学ですけど、そこで、サマーセミナー、3日間ですけど、やって出たら、やっぱり若い、去年は女子教育がテーマだったんで、若い女性がいらして、きょうは、女性のかたがたはヒジャブかぶっていらっしゃいますが、そのときは、かぶってない方も、ムスリムの方も、ノンムスリムの方もいらっしゃいましたし、もちろん男性もいたし、多様ですけど、やっぱり、イエメンから来た方は、割と最近来てるので、日本での状況とやや似たところもあるということをお話しされてました。女子教育ですけど。

また、それは、ウォーリック大学は、マスターとかドクターのコースもありますのでそういう、イスラム研究で留学される方多いですけど、イスラム教育でね、留学される方もいずれ出てくると、日本でも、システムチックにイスラム教育を少しできるのではないかという気もします。イギリスのものをそのまま持ってくるのはどうかは分からないですけど、1世の方も、今、イエメンの方もまた来られてるし、いいかと思います。

日本でも、これからは、来年の新しい在留資格ができて、ひょっとするとインドネシアあたりから、来られるかもしれませんし、日本では、まあ皆さんでは、話題になってるでしょうけど、あまりロヒンギャの方のとか話題になりませんが、70万以上出て、かつては10万ぐらい出て戻ったことありますけど、10年ぐらいかかって。70万出るとさすがに戻れない、全部戻れないかもしれないので、日本で受け入れるっていう話になるのかもしれないので、今、2世の方も、将来はそういう新たに来る1世の方を、なんていうか、サポートするっていうことが出てくるんじゃないかと思いますが。われわれは、どうなるのか、この研究所とか、どうなるのか分かりませんが、日本のムスリム社会が、ますます発展されることをお祈りして、閉会の辞としたいと思います。

どうもありがとうございました。

店田 はい、皆さんありがとうございました。無事、終わることができました。今、小島先生もおっしゃっていたように、私の研究所もこれで、今回をもって終わりなので、私が主宰してやる、全国マスジド代表者会議というのも多分これが最後ですので、こういう機会に、たくさん参加していただいて本当にありがとうございました。新しい試みもいろいろやって、また、最初にも申し上げたように、親世代の方、それから、第2世代、そして日本社会への発信ということで、新しい形の、方向というか、何か、次の進むべき道のようなものを、少しは示せるような形で、取りあえずここまで来たのかなというふうに思います。本当にありがとうございました。これを持って、本当に、閉会のあいさつとしたいと思います。ありがとうございました。

これからは事務連絡ですが、この後写真、集合写真を撮りますので、ちょっと、この辺を整理しますが、そのまま、お待ちください。それから、懇親会、池袋の、アリア清真美食という所で、やりますので、スマホに入れていただければ、位置はすぐ分かると思いますので、池袋まで行っていただいて、駅から2分ぐらいだというふうに書いてありますので、そちらのほうに、6時半までにご参集ください。一応、費用は、かかりませんので、ぜひ、皆さんご参加ください。

それでは写真のほうを準備しますので。

愛民 はい、じゃ写真のために、こちら、前に来ていただきたいと思いますが、その間に1点申し・・・。

(了)